

I 2012（平成24）年度「学生による授業評価アンケート」実施報告

1. 実施目的

この「学生による授業評価アンケート」は、本学の教育上の課題を明確にし、質的な向上を図ることを目的に全学的規模で2008（平成20）年度から継続的に実施されている。

本実施報告の主旨は、全学的観点及び各学部・学科、研究科・専攻及び共通教育の観点から、評価結果の傾向・特徴を把握してその全体像を描き出すことにある。これにより、学生が本学の教育体制・教育活動、教育レベルをどのようにとらえているのかを把握し、検討することによって、今後の授業改善及び教育内容・方法の見直しに役立てるとともに、かつ、建学の理念である『徳と知』に基づき本学教育のアイデンティティの明確化と教育の質向上に資することを目的としている。

2. 実施方法

（1）実施期間

前期は、2012（平成24）年7月9日（月）～7月27日（金）、後期は、2012（平成24）12月12日（水）～2013（平成25）年1月28日（月）に実施した。

（2）調査対象科目・調査対象者

調査対象科目：2012（平成24）年度に開講されている学部、大学院の授業科目を調査対象とし、前期は、ゼミナール（特論及び卒業研究）及び集中講義（不定期に開講される科目）は調査の対象外とした。2012（平成24）年度からは人間文化学部共通科目を新たに調査対象とし、後期からは、一部のゼミナール及び集中講義も調査の対象とした。

調査対象者：全学部の学生および全研究科の大学院生

（3）実施科目数・回収率

1) 学部

以下に、学部の実施科目数（専任教員、非常勤講師）、回収率（履修者数、回収数、回収率）を、年度・前期・後期別に示す。

表 I-2-1 学部（年度）の実施科目数・回収率の内訳

学部・学科名等	実施科目数			回収率		
	専任教員	非常勤講師	計	履修者数	回収数	回収率
共通教育科目	94	139	233	10,072	7,550	75.0 %
英語英文学科	95	52	147	3,181	2,340	73.6 %
人間文化学科	81	18	99	2,542	1,823	71.7 %
人間文化学部共通科目	12	0	12	350	298	85.1 %
生活福祉文化学部	139	48	187	4,919	3,796	77.2 %
心理学部	71	23	94	6,041	4,586	75.9 %
その他の資格科目	25	24	49	1,050	856	81.5 %
合計	517	304	821	28,155	21,249	75.5 %

表 I-2-2 学部（前期）の実施科目数・回収率の内訳

学部・学科名等	実施科目数			回収率		
	専任教員	非常勤講師	計	履修者数	回収数	回収率
共通教育科目	46	74	120	4,932	3,748	76.0 %
英語英文学科	48	26	74	1,728	1,300	75.2 %
人間文化学科	48	13	61	1,468	1,061	72.3 %
人間文化学部共通科目	6	0	6	183	161	88.0 %
生活福祉文化学部	55	32	87	2,708	2,148	79.3 %
心理学部	40	8	48	3,017	2,359	78.2 %
その他の資格科目	15	10	25	598	514	86.0 %
合 計	258	163	421	14,634	11,291	77.2 %

表 I-2-3 学部（後期）の実施科目数・回収率の内訳

学部・学科名等	実施科目数			回収率		
	専任教員	非常勤講師	計	履修者数	回収数	回収率
共通教育科目	48	65	113	5,140	3,802	74.0 %
英語英文学科	47	26	73	1,453	1,040	71.6 %
人間文化学科	33	5	38	1,074	762	70.9 %
人間文化学部共通科目	6	0	6	167	137	82.0 %
生活福祉文化学部	84	16	100	2,211	1,648	74.5 %
心理学部	31	15	46	3,024	2,227	73.6 %
その他の資格科目	10	14	24	452	342	75.7 %
合 計	259	141	400	13,521	9,958	73.6 %

2) 研究科・専攻

以下に、研究科・専攻毎の科目数（専任教員、非常勤講師）、回収率（履修者数、回収数、回収率）を年度、前期、後期別に示す。

表 I-2-4 大学院（年度）の実施科目数・回収率の内訳

研究科・専攻名	実施科目数			回収率		
	専任教員	非常勤講師	計	履修者数	回収数	回収率
人間文化研究科	43	7	50	92	81	88.0 %
応用英語専攻	8	1	9	10	10	100.0 %
人間文化専攻	28	1	29	61	55	90.2 %
生活福祉文化専攻	7	5	12	21	16	76.2 %
心理学研究科	44	7	51	289	272	94.1 %
合 計	87	14	101	381	353	92.7 %

表 I-2-5 大学院（前期）の実施科目数・回収率の内訳

研究科・専攻名	実施科目数			回収率		
	専任教員	非常勤講師	計	履修者数	回収数	回収率
人間文化研究科	25	5	30	57	48	84.2 %
応用英語専攻	4	1	5	6	6	100.0 %
人間文化専攻	17	1	18	37	32	86.5 %
生活福祉文化専攻	4	3	7	14	10	71.4 %
心理学研究科	22	3	25	152	143	94.1 %
合 計	47	8	55	209	191	91.4 %

表 I-2-6 大学院（後期）の実施科目数・回収率の内訳

研究科・専攻名	実施科目数			回収率		
	専任教員	非常勤講師	計	履修者数	回収数	回収率
人間文化研究科	18	2	20	35	33	94.3 %
応用英語専攻	4	0	4	4	4	100.0 %
人間文化専攻	11	0	11	24	23	95.8 %
生活福祉文化専攻	3	2	5	7	6	85.7 %
心理学研究科	22	4	26	137	129	94.2 %
合 計	40	6	46	172	162	94.2 %

(4) 調査内容 (学部、大学院)

回答者の属性 (学部学生については、学年・所属学部 (学科)、大学院学生については、学年・所属研究科 (専攻)) と以下の調査項目について尋ねた。

学部の当該科目に関する調査項目

1. 評価項目

(1) 教員 (授業) について

- ①授業のテーマは、はっきりしていた
- ②授業の内容を理解できた
- ③授業の内容に興味・関心をもてた
- ④この授業からよい刺激を受け、自分の考えが広がってきたようだ
- ⑤この授業では、学習に集中することができた
- ⑥授業中に使う教材 (テキスト・配布資料など) は適切であった
- ⑦成績評価の仕方が明確に示されていた
- ⑧教員の話し方は明瞭で聞き取りやすかった
- ⑨教員のプレゼンテーション (授業における伝達方法) は適切であった
- ⑩教員は学生の質問や相談に適切に対応した
- ⑪教員の授業への取り組みに、熱意を感じた
- ⑫教員は学生の反応や理解を見ながら授業を進めた

(2) あなたについて

- ⑬私はこの授業に満足した
- ⑭私は履修科目を選ぶ際にシラバスをよく読んだ
- ⑮授業中は意欲的・積極的に取り組んだ
- ⑯教員から要求された自主学習 (予習/復習、宿題や準備) をしましたか
- ⑰この授業で、何回欠席しましたか

[基準: 4 (0回)、3 (1回)、2 (2~3回)、1 (4回以上)]

(3) 自由記述

- ⑱この科目 (授業) について「よかった点」を記入してください。
- ⑲この科目 (授業) について「改善すべき点」を記入してください。

2. 回答形式

評価項目 (1)、(2) については、以下の4件法で回答させた。

- 4: そう思う
- 3: どちらかと言えばそう思う
- 2: どちらかと言えばそう思わない
- 1: そう思わない

大学院の当該科目に関する調査項目

1. 評価項目

(1) 授業について

- ①授業の内容を理解できた
- ②授業の内容に興味・関心をもてた
- ③授業中に使う教材 (テキスト・配布資料など) は適切であった
- ④成績評価の仕方が明確に示されていた

(2) 教員について

- ⑤教員は学生の質問や相談に適切に対応した
- ⑥教員は学生の反応や理解を見ながら授業を進めた

(3) あなたについて

- ⑦私はこの授業に満足した
- ⑧私は履修科目を選ぶ際にシラバスをよく読んだ
- ⑨授業中は意欲的・積極的に取り組んだ

(4) 教育環境について

⑩自習室、研究設備等、学内の学習環境は十分に整備されている

(5) 自由記述

⑪この科目（授業）について「よかった点」を記入してください。

⑫この科目（授業）について「改善すべき点」を記入してください。

2. 回答形式

評価項目（1）～（4）については、以下の4件法で回答させた。

4：そう思う

3：どちらかと言えばそう思う

2：どちらかと言えばそう思わない

1：そう思わない

(5) 実施手順（学部・大学院）

授業評価アンケート調査用紙は、企画調整課より事前に担当教員に配付した。各科目担当教員は、学生に対し、アンケートの調査主旨等説明を行い実施した。回収方法は、担当教員が学生の代表を指名し、学生の代表が回収を行い、教務学事課およびノートルダム館事務室に提出した。

(6) 経年比較

同じ科目を経年比較するため、集計結果の全体平均値の変動値を「◎・・・去年より平均が0.5以上増加」、「○・・・平均が0.1～0.49増加」、「▼・・・平均が0.1以上減少」で表示した。

(7) 結果の集計

集計は、株式会社学習調査エデュフロントに依頼した。

(8) 教員への結果通知と集計結果の配布

2013（平成25）年3月6日（水）に、2012（平成24）年度授業評価アンケート結果を受けて、全学教員研修会を実施し、専任教員に全学及び、学部・学科、研究科・専攻ごとの集計結果（年度・前期・後期）を配布した。共通教育科目については、教務部長が集計結果を検証した。

各科目の教員別集計結果は、前期は2012（平成24）年9月中旬～下旬に返却し、後期は、専任教員には2013（平成25）年3月上旬に、非常勤講師には4月上旬に企画調整課より返却した。

平成24年度 授業評価アンケート結果集計表

学部 科目	全学	教員	曜日・講時	履修者数 回収数(率)	28,155名 21,249名 75.5%
----------	----	----	-------	----------------	--------------------------

集計集計

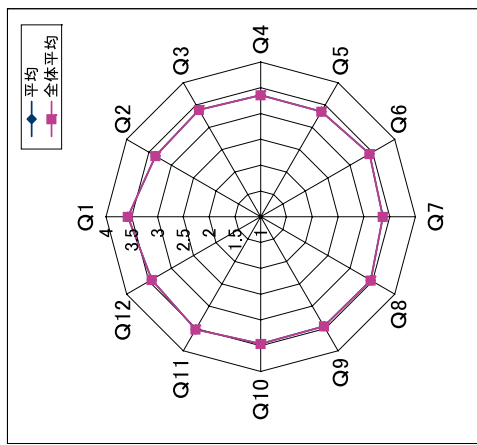
Q1	Q2	Q3	Q4	Q5	Q6	Q7	Q8	Q9	Q10	Q11	Q12	Q13	Q14	Q15	Q16	Q17
授業のテーマは、はっきりしていた	授業の内容を理解できた	授業の内容に興味・関心をもてた	この授業からよい刺激を受け、自分の考えが広がってきたようだ	この授業では、学習に集中することができた	授業中に使う教材(テキスト・配布資料など)は適切であった	成績評価の仕方が明確に示されていた	教員の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	教員のプレゼンテーション(授業における伝達方法)は適切であった	教員は学生の質問や相談に適切に対応した	教員の授業への取り組みに、熱意を感じた	教員は学生の反応や理解を見ながら授業を進めた	私はこの授業に満足した	私は履修科目を選ぶ際にシラバスをよく読んだ	授業中には意欲的・積極的に取り組んだ	教員から要求された自主学習(予習/復習、宿題や準備)をしましたが	この授業で、何回欠席しましたか [基準: 4(0回)、3(1回)、2(2~3回)、1(4回以上)]
人 13312 6951 803 173 10	人 828 327 3.8 0.8 0.0	人 10194 8696 1917 428 14	人 10336 7805 1897 493 18	人 10534 8125 2142 432 16	人 11238 8244 1382 344 41	人 10473 8443 1896 403 34	人 11962 7394 1502 365 26	人 11674 7751 1448 348 28	人 11785 7707 1366 354 37	人 12500 7442 1031 249 27	人 11631 7581 1576 418 43	人 11069 8068 1583 474 55	人 7573 7709 4008 1885 74	人 9507 9090 2139 379 134	人 8911 8438 2832 891 177	人 419 397 13.3 4.2 0.8
% 3.57	% 3.35	% 3.38	% 3.35	% 3.35	% 3.43	% 3.37	% 3.46	% 3.45	% 3.46	% 3.52	% 3.43	% 3.40	% 2.99	% 3.31	% 3.20	% 3.12

回答別回答分布表

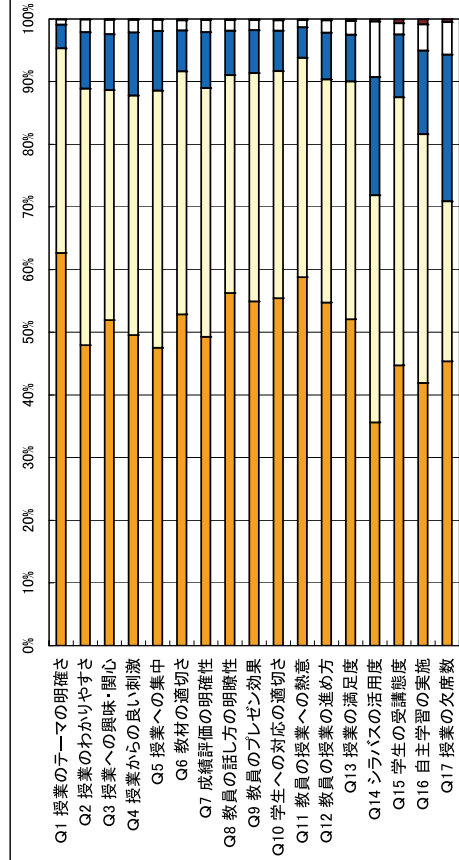
Q2で授業の理解度が低い(4,3)の回答分布	Q2で授業の理解度が低い(2,1)の回答分布
Q6 授業中に使う教材(テキスト・配布資料など)は適切であった	Q6 授業中に使う教材(テキスト・配布資料など)は適切であった
Q8 教員の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	Q8 教員の話し方は明瞭で聞き取りやすかった
Q9 教員のプレゼンテーション(授業における伝達方法)は適切であった	Q9 教員のプレゼンテーション(授業における伝達方法)は適切であった
Q11 教員の授業への取り組みに、熱意を感じた	Q11 教員の授業への取り組みに、熱意を感じた
Q12 教員は学生の反応や理解を見ながら授業を進めた	Q12 教員は学生の反応や理解を見ながら授業を進めた
Q15 授業中には意欲的・積極的に取り組んだ	Q15 授業中には意欲的・積極的に取り組んだ
Q17 この授業で、何回欠席しましたか	Q17 この授業で、何回欠席しましたか
人 10980 7177 612 92 29	人 256 1062 768 252 7
% 3.54	% 2.57
人 11650 6512 644 69 15	人 310 875 898 296 6
% 3.58	% 2.51
人 11987 6812 601 71 19	人 286 933 845 277 4
% 3.56	% 2.52
人 12034 6375 414 49 18	人 482 1064 615 200 4
% 3.61	% 2.76
人 11328 6722 710 98 32	人 302 854 863 320 6
% 3.55	% 2.49
人 9292 8167 1194 127 110	人 1153 918 942 251 19
% 3.42	% 2.81
人 8640 4877 4342 951 80	人 1003 545 631 154 12
% 3.13	% 3.03

評価レダーチャート

(学生)



評価棒グラフ



■ そう思う □どちらかと言えばそう思う ■ どちらかと言えばそう思わない □ そう思わない ■ 無回答・その他

平成24年度 授業評価アンケート結果集計表

学部 科目	全学	教員	曜日・講時	履修者数 回収数(率)	14,634名 11,291名 77.2%
----------	----	----	-------	----------------	--------------------------

集計集計

(■...一審回答の多い選択肢 □...全体平均より高い ○...平均が0.1~0.49増加 ▼...平均が0.1以上減少)

質問	4	3	2	1	集計回答	平均	標準偏差	全体平均	集計比較
Q1 授業のテーマは、はっきりしていた	人 7183	3577	442	84	5	3.58	0.61	3.58	
% 68.6	31.7	3.9	0.7	0.0					
Q2 授業の内容を理解できた	人 5494	4559	1008	224	6	3.36	0.73	3.36	
% 46.7	40.4	8.9	2.0	0.1					
Q3 授業の内容に興味・関心をもちた	人 6008	4028	1008	238	11	3.40	0.74	3.40	
% 58.2	35.7	8.9	2.1	0.1					
Q4 この授業からよい刺激を受け、自分の考えが広がってきたようだ	人 5629	4296	1140	216	10	3.36	0.74	3.36	
% 46.9	38.0	10.1	1.9	0.1					
Q5 この授業では、学習に集中することができた	人 5442	4566	1076	188	19	3.35	0.72	3.35	
% 46.2	40.4	9.5	1.7	0.2					
Q6 授業中に使う教材(テキスト・配布資料など)は適切であった	人 6060	4305	721	179	26	3.44	0.69	3.44	
% 56.3	44.32	10.29	1.76	0.1					
Q7 成績評価の仕方が明確に示されていた	人 4819	3933	91	1.6	0.2	3.38	0.72	3.38	
% 42.4	34.1	7.2	1.6	0.1					
Q8 教員の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	人 6424	3852	818	182	15	3.46	0.70	3.46	
% 56.9	34.1	7.2	1.6	0.1					
Q9 教員のプレゼンテーション(授業における伝達方法)は適切であった	人 6266	4080	766	164	15	3.46	0.69	3.46	
% 55.5	36.1	6.8	1.5	0.1					
Q10 教員は学生の質問や相談に適切に対応した	人 6321	4042	741	166	21	3.47	0.68	3.47	
% 56.0	35.8	6.6	1.5	0.2					
Q11 教員の授業への取り組みに、熱意を感じた	人 6687	3896	565	125	18	3.52	0.65	3.52	
% 56.2	34.5	5.0	1.1	0.2					
Q12 教員は学生の反応や理解を見ながら授業を進めた	人 6235	3972	856	201	27	3.44	0.71	3.44	
% 55.2	35.2	7.6	1.8	0.2					
Q13 私はこの授業に満足した	人 5979	4214	828	240	30	3.41	0.72	3.41	
% 53.0	37.3	7.3	2.1	0.3					
Q14 私は履修科目を選ぶ際にシラバスをよく読んだ	人 3971	4088	2190	1022	40	2.98	0.95	2.98	
% 35.2	36.0	19.4	8.1	0.4					
Q15 授業中は意欲的・積極的に取り組んだ	人 5150	4739	1141	189	72	3.32	0.72	3.32	
% 46.6	42.0	10.1	1.7	0.6					
Q16 教員から要求された自主学習(予習/復習、宿題や準備)をしましたか	人 4771	4413	1536	476	95	3.20	0.83	3.20	
% 42.3	39.1	13.6	4.2	0.8					
Q17 この授業で、何回欠席しましたか (基準: 4(0回)、3(1回)、2(2~3回)、1(4回以上))	人 5392	2734	2502	609	54	3.15	0.95	3.15	
% 47.8	24.2	22.2	5.4	0.5					

回答別回答分布表

Q2で授業の理解度が低い群(4.3)の回答分布

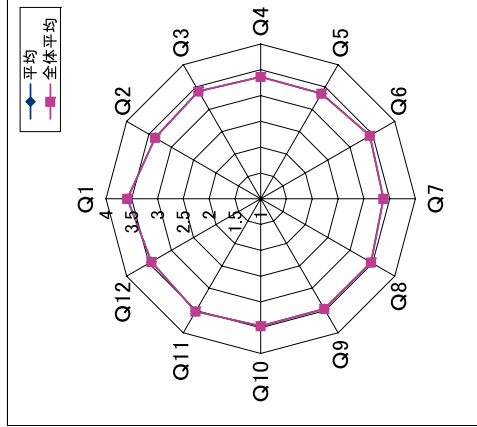
質問	人	5907	3745	330	52	19	3.55	0.59	3.55
Q6 授業中に使う教材(テキスト・配布資料など)は適切であった	人 6258	3399	352	36	8	3.58	0.58	3.58	
Q8 教員の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	人 6105	3588	311	38	11	3.57	0.57	3.57	
Q9 教員のプレゼンテーション(授業における伝達方法)は適切であった	人 6437	3338	238	28	12	3.61	0.55	3.61	
Q11 教員の授業への取り組みに、熱意を感じた	人 6088	3522	391	53	19	3.56	0.60	3.56	
Q12 教員は学生の反応や理解を見ながら授業を進めた	人 5046	4245	640	65	57	3.43	0.64	3.43	
Q15 授業中は意欲的・積極的に取り組んだ	人 4844	2461	2177	529	42	3.16	0.94	3.16	

Q2で授業の理解度が低い群(2.1)の回答分布

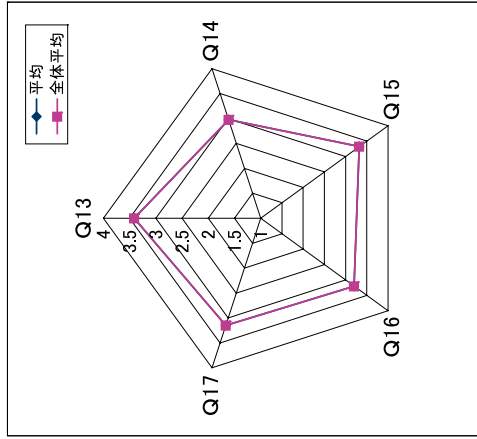
質問	人	153	556	390	127	4	2.60	0.83	2.60
Q6 授業中に使う教材(テキスト・配布資料など)は適切であった	人 166	450	466	146	4	2.52	0.87	2.52	
Q8 教員の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	人 161	491	453	126	1	2.56	0.84	2.56	
Q9 教員のプレゼンテーション(授業における伝達方法)は適切であった	人 249	557	326	97	3	2.78	0.86	2.78	
Q11 教員の授業への取り組みに、熱意を感じた	人 167	449	463	148	5	2.52	0.87	2.52	
Q12 教員は学生の反応や理解を見ながら授業を進めた	人 104	493	499	124	12	2.47	0.79	2.47	
Q15 授業中は意欲的・積極的に取り組んだ	人 546	272	325	80	9	3.05	0.99	3.05	

評価リーダーチャート

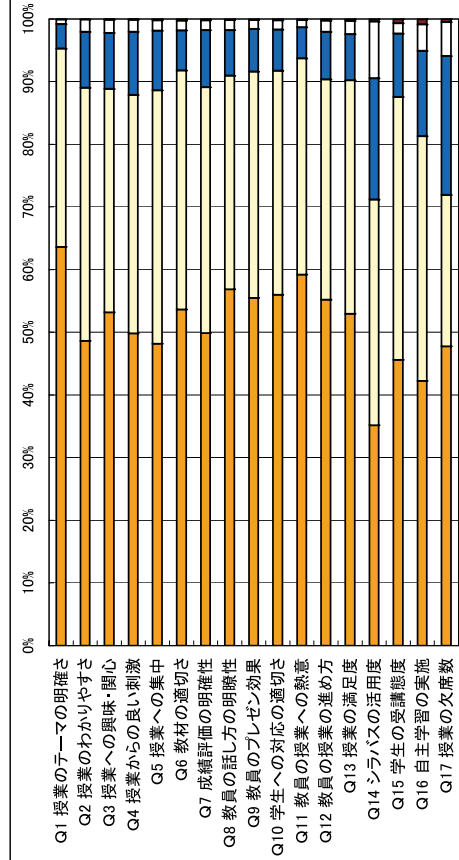
(教員)



(学生)



評価棒グラフ



〇 そう思う □ どちらかと言えばそう思う □ どちらかと言えばそう思わない □ 無回答・その他

平成24年度 授業評価アンケート結果集計表

学部	全学	教員	曜日・講時	履修者数	13,521名
科目				回収数(率)	9,956名 73.6%

集計集計

([] ... 一番回答の多い選択肢 [] ... 全体平均より高い [] ... 全体の平均より低い [] ... 平均が0.1~0.49増加 [] ... 平均が0.1以上減少

Q	1	2	3	4	5	集計	平均	標準偏差	全体平均	集計比較
Q1	人	6129	3374	361	89	5	3.56	0.61	3.56	▲
Q2	人	4700	4137	909	204	8	3.34	0.73	3.34	▲
Q3	人	5030	3777	869	255	7	3.36	0.75	3.36	▲
Q4	人	4905	3829	1002	216	6	3.35	0.75	3.35	▲
Q5	人	4664	4157	941	191	5	3.34	0.73	3.34	▲
Q6	人	5178	3939	661	165	15	3.42	0.69	3.42	▲
Q7	人	4840	4011	867	227	13	3.35	0.73	3.35	▲
Q8	人	5538	3542	664	183	11	3.45	0.70	3.45	▲
Q9	人	5408	3671	662	184	13	3.44	0.70	3.44	▲
Q10	人	5464	3665	625	188	16	3.45	0.70	3.45	▲
Q11	人	5513	3546	466	124	9	3.51	0.65	3.51	▲
Q12	人	542	362	72	22	02	3.43	0.72	3.43	▲
Q13	人	5090	3854	755	234	25	3.39	0.73	3.39	▲
Q14	人	3602	3641	1818	863	34	3.01	0.95	3.01	▲
Q15	人	4357	4351	998	190	62	3.30	0.73	3.30	▲
Q16	人	4140	4025	1296	415	82	3.20	0.82	3.20	▲
Q17	人	4253	2691	2473	498	43	3.08	0.93	3.08	▲

回答別回答分布表

Q2で授業の理解度が低い(4.3)の回答分布

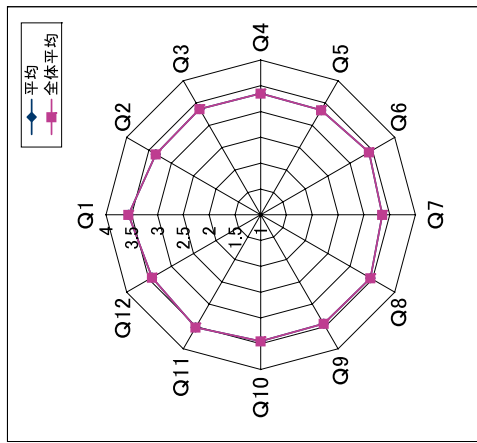
人	5073	3432	282	40	10	3.53	0.58	3.53
人	5392	3113	292	33	7	3.57	0.58	3.57
人	5282	3224	290	33	8	3.56	0.58	3.56
人	5597	3037	176	21	6	3.61	0.54	3.61
人	5260	3200	319	45	13	3.55	0.59	3.55
人	4246	3922	554	62	53	3.41	0.64	3.41
人	3798	2416	2165	422	38	3.09	0.93	3.09

Q2で授業の理解度が低い(2.1)の回答分布

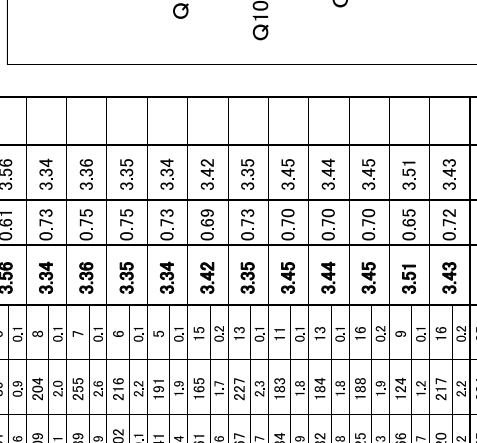
人	103	504	378	125	3	2.53	0.81	2.53
人	144	425	392	150	2	2.51	0.88	2.51
人	125	442	382	151	3	2.49	0.86	2.49
人	213	507	289	103	1	2.75	0.87	2.75
人	135	405	400	172	1	2.45	0.89	2.45
人	111	425	443	127	7	2.47	0.82	2.47
人	457	273	306	74	3	3.00	0.98	3.00

評価レダーチャート

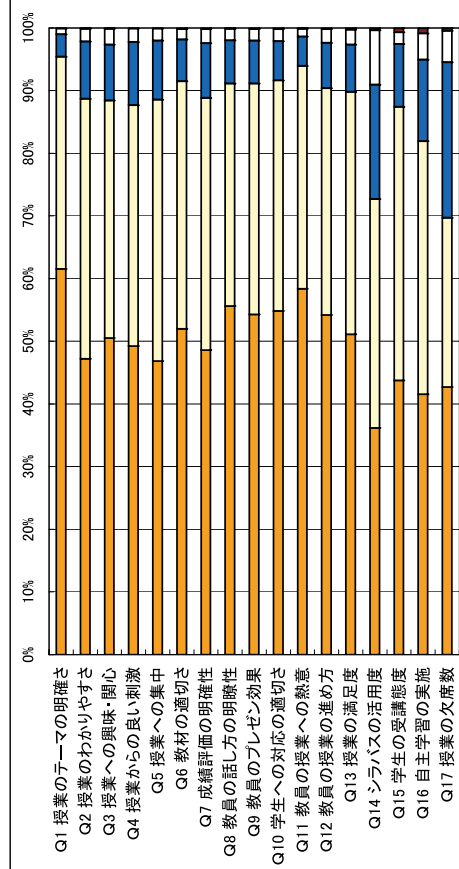
(学生)



(教員)



評価棒グラフ



■ そう思う □ どちらかとも言えない □ どちらかとも言えない □ そう思わない ■ 無回答・その他

平成24年度 授業評価アンケート結果集計表

学部 (10) 共通教育科目	教員	曜日・講時	履修者数	10,072名
科目			回収数 (率)	7,550名 75.0%

集計集計

(〇...一審回答の多い選択肢 ㊦...全体平均より高い ㊧...平均が0.1~0.49増加 ㊨...平均が0.1以上減少)

Q	1	2	3	4	5	集計数	平均	標準偏差	全体平均	集計比較
Q1	授業のテーマは、はっきりしていた	4438	2630	375	104	5	3.51	0.66	3.57	▲
Q2	授業の内容を理解できた	3305	3186	823	230	6	3.27	0.77	3.35	▲
Q3	授業の内容に興味・関心をもてた	3421	2883	937	302	7	3.25	0.82	3.38	▲
Q4	この授業からよい刺激を受け、自分の考えが広がってきたようだ	3278	2992	1007	267	6	3.23	0.81	3.35	▲
Q5	この授業では、学習に集中することができた	3250	3209	874	206	11	3.26	0.77	3.35	▲
Q6	授業中に使う教材(テキスト・配布資料など)は適切であった	3621	3095	628	186	20	3.35	0.74	3.43	▲
Q7	成績評価の仕方が明確に示されていた	3369	3096	848	220	17	3.28	0.77	3.37	▲
Q8	教員の話し方は明確で聞き取りやすかった	3844	2826	669	183	8	3.37	0.75	3.46	▲
Q9	教員のプレゼンテーション(授業における伝達方法)は適切であった	3772	2918	668	183	9	3.36	0.74	3.45	▲
Q10	教員は学生の質問や相談に適切に対応した	3761	2860	704	212	13	3.35	0.76	3.46	▲
Q11	教員の授業への取り組みに、熱意を感じた	4088	2806	506	139	11	3.44	0.70	3.52	▲
Q12	教員は学生の反応や理解を見ながら授業を進めた	488	377	102	31	0.3	3.33	0.78	3.43	▲
Q13	私はこの授業に満足した	3517	2990	741	276	26	3.30	0.79	3.40	▲
Q14	私は履修科目を選ぶ際にシラバスをよく読んだ	2361	2824	1547	786	32	2.90	0.96	2.99	▲
Q15	授業中には意欲的・積極的に取り組んだ	3010	3340	938	208	54	3.22	0.77	3.31	▲
Q16	教員から要求された自主学習(予習/復習、宿題や準備)をしましたか	2945	2953	1157	418	77	3.13	0.87	3.20	▲
Q17	この授業で、何回欠席しましたか (基準：4.0回)、3(1回)、2(2~3回)、1(4回以上))	3522	1893	1719	369	47	3.14	0.94	3.12	▲

回答別回答分布表

Q2で授業の理解度が低い(4.3)の回答分布

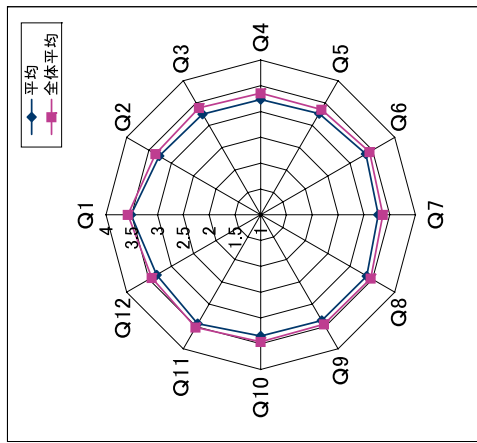
人	3506	2647	273	50	15	3.48	0.62	3.54
人	3713	2457	265	31	5	3.52	0.61	3.58
人	3652	2527	269	36	7	3.51	0.61	3.56
人	3883	2375	196	28	9	3.56	0.58	3.61
人	3564	2528	332	52	15	3.48	0.63	3.55
人	2923	2963	501	61	43	3.36	0.66	3.42
人	3072	1650	1435	295	39	3.16	0.92	3.13

Q2で授業の理解度が低い(2.1)の回答分布

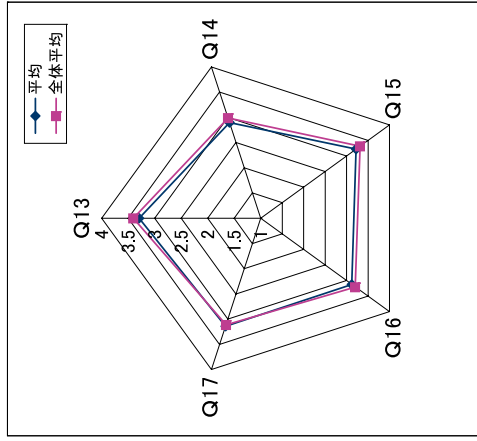
人	113	445	355	136	4	2.51	0.85	2.57
人	130	365	404	152	2	2.45	0.89	2.51
人	119	388	398	147	1	2.46	0.87	2.52
人	201	430	310	111	1	2.69	0.90	2.76
人	118	315	436	180	4	2.35	0.89	2.49
人	87	374	436	146	10	2.39	0.83	2.47
人	449	243	282	72	7	3.02	0.99	3.03

評価リーダーチャート

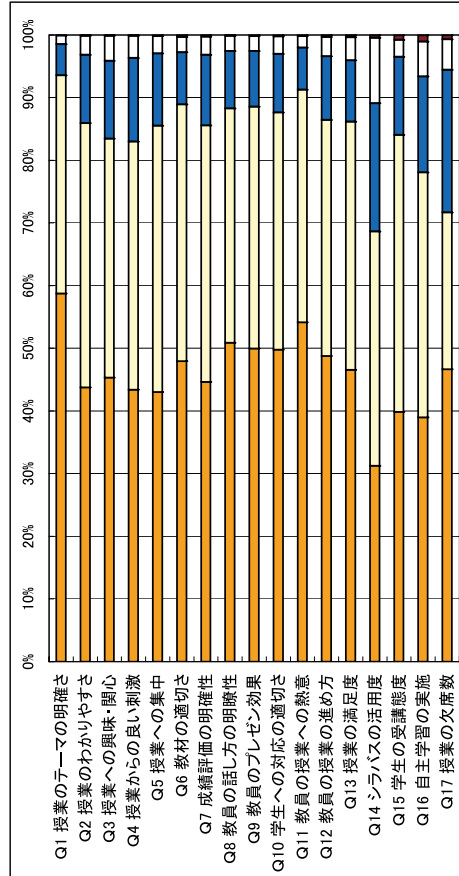
(教員)



(学生)



評価棒グラフ



そう思う どちらかと言えばそう思う どちらかと言えばそう思わない そう思わない 無回答・その他

平成24年度 授業評価アンケート結果集計表

学部 (60)	その他の資格科目	教員	曜日・講時	履修者数 回収数 (率)	1,050名 856名	81.5%
---------	----------	----	-------	-----------------	----------------	-------

集計表

Q	質問	回答数				平均	標準偏差	全体平均	標準偏差	全体平均
		1	2	3	4					
Q1	授業のテーマは、はっきりしていた	人	594	233	21	8	0	3.65	0.58	3.57
Q2	授業の内容を理解できた	人	456	327	57	16	0	3.43	0.70	3.35
Q3	授業の内容に興味・関心をもちた	人	515	284	45	12	0	3.52	0.66	3.38
Q4	この授業からよい刺激を受け、自分の考えが広がってきたようだ	人	483	310	50	13	0	3.48	0.68	3.35
Q5	この授業では、学習に集中することができた	人	485	325	56	10	0	3.45	0.67	3.35
Q6	授業中に使う教材(テキスト・配布資料など)は適切であった	人	503	298	40	15	0	3.51	0.67	3.43
Q7	成績評価の仕方が明確に示されていた	人	482	296	59	18	1	3.45	0.72	3.37
Q8	教員の話し方は明確で聞き取りやすかった	人	567	237	42	10	0	3.59	0.64	3.46
Q9	教員のプレゼンテーション(授業における伝達方法)は適切であった	人	545	251	45	14	1	3.55	0.67	3.45
Q10	教員は学生の質問や相談に適切に対応した	人	579	229	36	11	1	3.61	0.63	3.46
Q11	教員の授業への取り組みに、熱意を感じた	人	588	239	21	10	0	3.64	0.59	3.52
Q12	教員は学生の反応や理解を見ながら授業を進めた	人	566	233	44	12	1	3.58	0.66	3.43
Q13	私はこの授業に満足した	人	521	274	43	14	4	3.53	0.67	3.40
Q14	私は履修科目を選ぶ際にシラバスをよく読んだ	人	364	287	130	71	4	3.11	0.95	2.99
Q15	授業中は意欲的・積極的に取り組んだ	人	482	325	52	9	8	3.46	0.66	3.31
Q16	教員から要求された自主学習(予習/復習、宿題や準備)をしましたか	人	418	327	80	23	8	3.34	0.76	3.20
Q17	この授業で、何回欠席しましたか (基準：4(0回)、3(1回)、2(2~3回)、1(4回以上))	人	488	382	93	27	0.9	3.21	0.91	3.12

回答別回答分布表

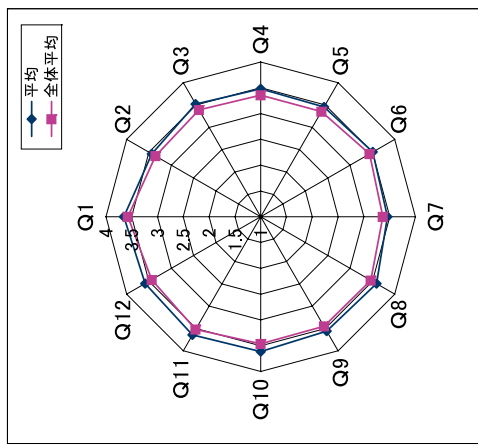
Q	質問	1	2	3	4	平均	標準偏差	全体平均	標準偏差	全体平均
Q2	授業の内容を理解できた	人	493	261	26	3	0	3.59	0.58	3.54
Q8	教員の話し方は明確で聞き取りやすかった	人	552	210	19	2	0	3.68	0.53	3.58
Q9	教員のプレゼンテーション(授業における伝達方法)は適切であった	人	535	222	23	3	0	3.65	0.56	3.56
Q11	教員の授業への取り組みに、熱意を感じた	人	566	205	10	0	0	3.70	0.50	3.61
Q12	教員は学生の反応や理解を見ながら授業を進めた	人	549	209	22	2	1	3.67	0.54	3.55
Q15	授業中は意欲的・積極的に取り組んだ	人	454	289	30	3	7	3.54	0.59	3.42
Q17	この授業で、何回欠席しましたか	人	390	191	171	27	4	3.21	0.90	3.13

Q2で授業の理解度が低い群(Q2.1)の回答分布

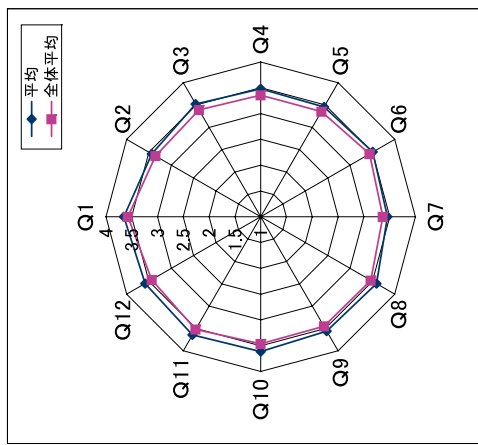
Q	質問	1	2	3	4	平均	標準偏差	全体平均	標準偏差	全体平均
Q6	授業中に使う教材(テキスト・配布資料など)は適切であった	人	10	37	14	12	0	2.62	0.92	2.57
Q8	教員の話し方は明確で聞き取りやすかった	人	15	27	23	8	0	2.67	0.92	2.51
Q9	教員のプレゼンテーション(授業における伝達方法)は適切であった	人	10	29	22	11	1	2.53	0.91	2.52
Q11	教員の授業への取り組みに、熱意を感じた	人	20	34	11	8	0	2.90	0.92	2.76
Q12	教員は学生の反応や理解を見ながら授業を進めた	人	17	24	22	10	0	2.66	0.98	2.49
Q15	授業中は意欲的・積極的に取り組んだ	人	8	36	22	6	1	2.64	0.79	2.47
Q17	この授業で、何回欠席しましたか	人	35	17	17	4	0	3.14	0.96	3.03

評価レーダーチャート

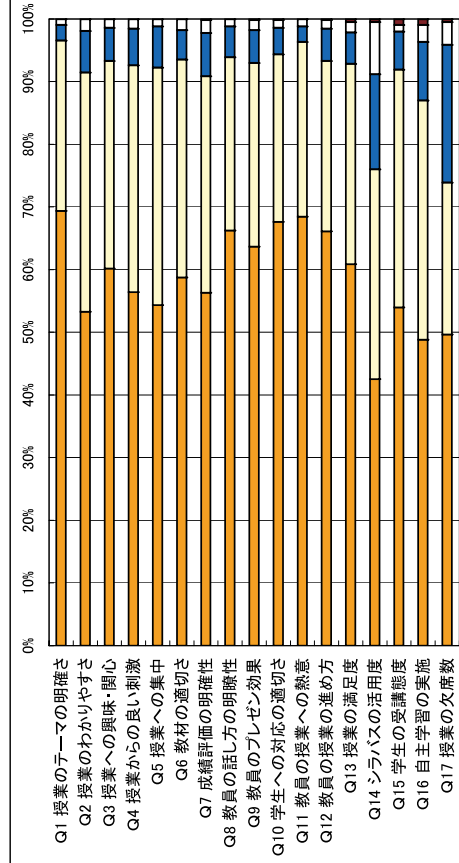
(学生)



(教員)



評価棒グラフ



■ そう思う □ どちらかと言えばそう思う ■ どちらかと言えばそう思わない □ 無回答・その他

平成24年度 授業評価アンケート結果集計表

学部 (60)	その他の資格科目	教員	曜日・講時	履修者数	598名
科目				回収数 (率)	514名 86.0%

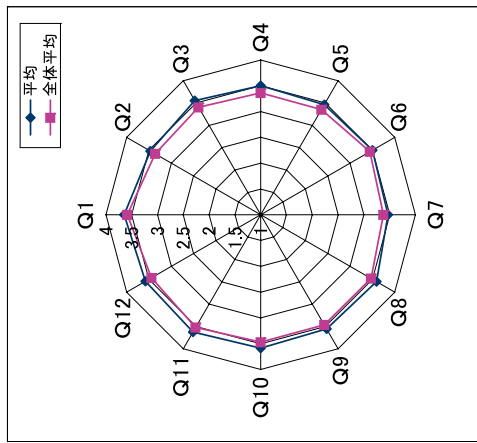
質問事項	回答数					平均	標準偏差	全体平均	標準偏差	全体平均
	4	3	2	1	無回答					
Q1 授業のテーマは、はっきりしていた	人 354	142	12	6	0	3.64	0.59	3.58	0.59	3.58
Q2 授業の内容を理解できた	人 279	204	23	8	0	3.47	0.66	3.36	0.66	3.36
Q3 授業の内容に興味・関心をもちた	人 317	170	20	7	0	3.55	0.64	3.40	0.64	3.40
Q4 この授業からよい刺激を受け、自分の考えが広がってきたようだ	人 294	189	23	8	0	3.50	0.66	3.36	0.66	3.36
Q5 この授業では、学習に集中することができた	人 275	206	26	7	0	3.46	0.66	3.35	0.66	3.35
Q6 授業中に使う教材(テキスト・配布資料など)は適切であった	人 299	181	24	10	0	3.50	0.68	3.44	0.68	3.44
Q7 成績評価の仕方が明確に示されていた	人 293	177	34	10	0	3.46	0.71	3.38	0.71	3.38
Q8 教員の話し方は明確で聞き取りやすかった	人 335	154	17	8	0	3.59	0.63	3.46	0.63	3.46
Q9 教員のプレゼンテーション(授業における伝達方法)は適切であった	人 325	156	23	10	0	3.55	0.67	3.46	0.67	3.46
Q10 教員は学生の質問や相談に適切に対応した	人 337	149	19	9	0	3.58	0.65	3.47	0.65	3.47
Q11 教員の授業への取り組みに、敬意を感じた	人 349	144	13	8	0	3.62	0.62	3.52	0.62	3.52
Q12 教員は学生の反応や理解を見ながら授業を進めた	人 335	147	23	8	1	3.58	0.65	3.44	0.65	3.44
Q13 私はこの授業に満足した	人 316	168	19	9	2	3.54	0.65	3.41	0.65	3.41
Q14 私は履修科目を選ぶ際にシラバスをよく読んだ	人 195	177	83	57	2	3.00	0.99	2.98	0.99	2.98
Q15 授業中は意欲的・積極的に取り組んだ	人 272	209	21	8	4	3.46	0.65	3.32	0.65	3.32
Q16 教員から要求された自主学習(予習/復習、宿題や準備)をしましたか	人 247	199	45	20	3	3.32	0.79	3.20	0.79	3.20
Q17 この授業で、何回欠席しましたか (基準：4(0回)、3(1回)、2(2~3回)、1(4回以上))	人 481	387	88	39	0.6	3.22	0.89	3.15	0.89	3.15

回答群別回答分布表

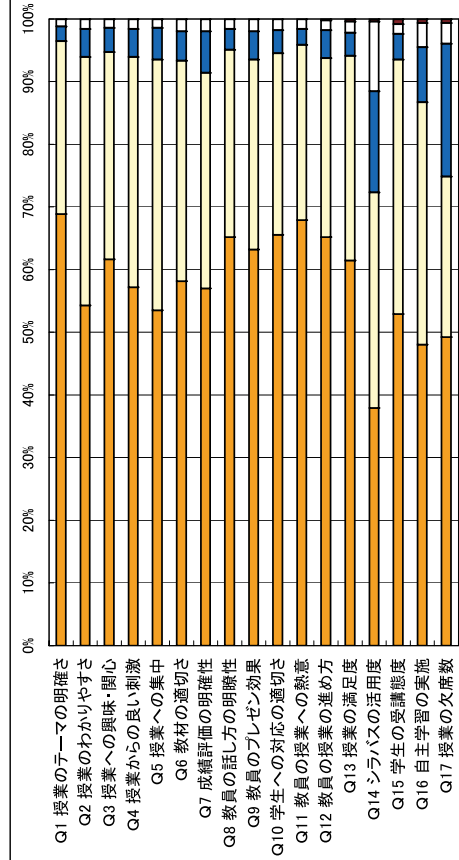
回答群	Q2で授業の理解度が低い群(4.3)の回答分布	Q2で授業の理解度が低い群(2.1)の回答分布
Q2で授業の理解度が低い群(4.3)の回答分布	人 284	166
Q6 授業中に使う教材(テキスト・配布資料など)は適切であった	人 330	140
Q8 教員の話し方は明確で聞き取りやすかった	人 320	145
Q9 教員のプレゼンテーション(授業における伝達方法)は適切であった	人 342	130
Q11 教員の授業への取り組みに、敬意を感じた	人 328	136
Q12 教員は学生の反応や理解を見ながら授業を進めた	人 270	192
Q15 授業中は意欲的・積極的に取り組んだ	人 238	125
Q17 この授業で、何回欠席しましたか	人 5	15
Q2で授業の理解度が低い群(2.1)の回答分布	人 5	14
Q6 授業中に使う教材(テキスト・配布資料など)は適切であった	人 5	11
Q8 教員の話し方は明確で聞き取りやすかった	人 7	14
Q9 教員のプレゼンテーション(授業における伝達方法)は適切であった	人 7	11
Q11 教員の授業への取り組みに、敬意を感じた	人 2	17
Q12 教員は学生の反応や理解を見ながら授業を進めた	人 15	7
Q15 授業中は意欲的・積極的に取り組んだ	人 7	7
Q17 この授業で、何回欠席しましたか	人 3	3

評価レーダーチャート

(学生)



評価棒グラフ



■ 無回答・その他
 □ そう思う □ どちらかと言えばそう思う ■ どちらかと言えばそう思わない □ そう思わない

平成24年度 授業評価アンケート結果集計表

学部 (60)	その他の資格科目	教員	曜日・講時	履修者数 回収数 (率)	452名 342名 (75.7%)
---------	----------	----	-------	-----------------	----------------------

質問事項	回答回数					平均	全体平均
	4	3	2	1	無回答		
Q1 授業のテーマは、はっきりしていた	人 240	91	9	2	0	3.66	0.56
Q2 授業の内容を理解できた	人 177	123	34	8	0	3.37	0.76
Q3 授業の内容に興味・関心をもちた	人 198	114	25	5	0	3.48	0.70
Q4 この授業からよい刺激を受け、自分の考えが広がってきたようだ	人 189	121	27	5	0	3.44	0.70
Q5 この授業では、学習に集中することができた	人 190	119	30	3	0	3.45	0.69
Q6 授業中に使う教材(テキスト・配布資料など)は適切であった	人 204	117	16	5	0	3.52	0.66
Q7 成績評価の仕方が明確に示されていた	人 189	119	25	8	1	3.43	0.73
Q8 教員の話し方は明確で聞き取りやすかった	人 232	83	25	2	0	3.59	0.65
Q9 教員のプレゼンテーション(授業における伝達方法)は適切であった	人 220	95	22	4	1	3.56	0.67
Q10 教員は学生の質問や相談に適切に対応した	人 242	80	17	2	1	3.65	0.60
Q11 教員の授業への取り組みに、敬意を感じた	人 237	95	8	2	0	3.66	0.55
Q12 教員は学生の反応や理解を見ながら授業を進めた	人 231	86	21	4	0	3.59	0.66
Q13 私はこの授業に満足した	人 205	106	24	5	2	3.50	0.69
Q14 私は履修科目を選ぶ際にシラバスをよく読んだ	人 169	110	47	14	2	3.28	0.85
Q15 授業中は意欲的・積極的に取り組んだ	人 180	116	31	1	4	3.46	0.67
Q16 教員から要求された自主学習(予習/復習、宿題や準備)をしましたか	人 171	128	35	3	5	3.39	0.71
Q17 この授業で、何回出席しましたか (基準: 4(10回)、3(1回)、2(2~3回)、1(4回以上))	人 500	374	102	9	1.5	3.19	0.93

回答別回答分布表

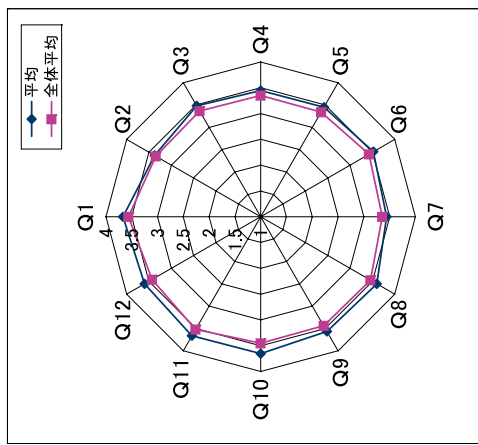
質問事項	4	3	2	1	無回答	平均	全体平均
Q2で授業の理解度が低い(4.3)の回答分布	人 199	95	5	1	0	3.64	0.53
Q6 授業中に使う教材(テキスト・配布資料など)は適切であった	人 222	70	8	0	0	3.71	0.51
Q8 教員の話し方は明確で聞き取りやすかった	人 215	77	8	0	0	3.69	0.52
Q9 教員のプレゼンテーション(授業における伝達方法)は適切であった	人 224	75	1	0	0	3.74	0.44
Q12 教員は学生の反応や理解を見ながら授業を進めた	人 221	73	6	0	0	3.72	0.49
Q15 授業中は意欲的・積極的に取り組んだ	人 184	97	16	0	3	3.57	0.59
Q17 この授業で、何回出席しましたか	人 152	66	69	12	1	3.20	0.93

Q2で授業の理解度が低い(2.1)の回答分布

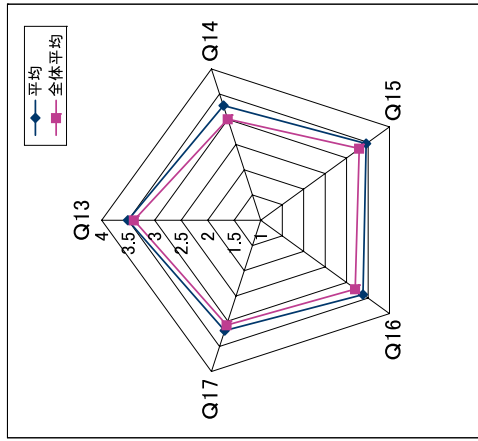
質問事項	4	3	2	1	無回答	平均	全体平均
Q6 授業中に使う教材(テキスト・配布資料など)は適切であった	人 5	22	11	4	0	2.67	0.81
Q8 教員の話し方は明確で聞き取りやすかった	人 10	13	17	2	0	2.74	0.87
Q9 教員のプレゼンテーション(授業における伝達方法)は適切であった	人 5	18	14	4	1	2.59	0.83
Q11 教員の授業への取り組みに、敬意を感じた	人 13	20	7	2	0	3.05	0.82
Q12 教員は学生の反応や理解を見ながら授業を進めた	人 10	13	15	4	0	2.69	0.94
Q15 授業中は意欲的・積極的に取り組んだ	人 6	19	15	1	1	2.73	0.73
Q17 この授業で、何回出席しましたか	人 20	10	10	2	0	3.14	0.94

評価リーダーチャート

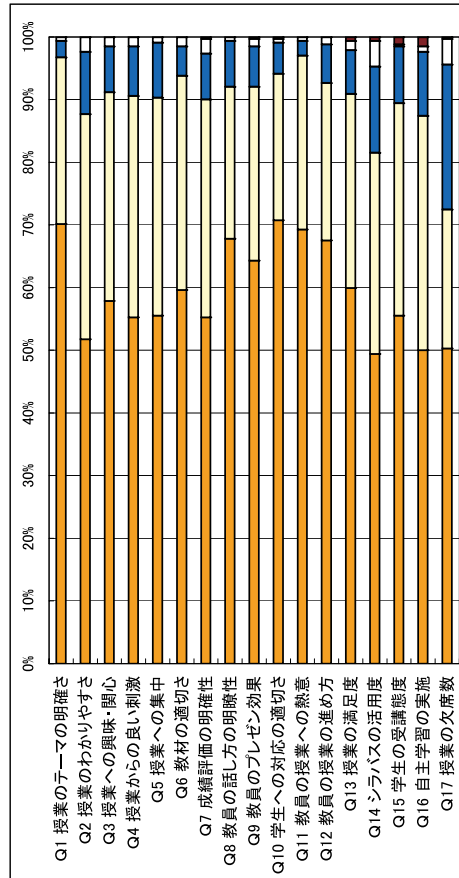
(学生)



(教員)



評価棒グラフ



■ そう思う □ どちらかとも言えない □ どちらかとも言えない □ そう思わない ■ 無回答・その他

平成24年度 授業評価アンケート結果集計表

学部 (20) 英語英文学科	教員	曜日・講時	履修者数	1,728名
科目			回収数 (率)	1,300名 75.2%

集計集計

質問	回答数				平均	標準偏差	全体平均	集計比較
	4	3	2	1				
Q1 授業のテーマは、はっきりしていた	人 986	286	44	4	3.70	0.54	3.58	▲
Q2 授業の内容を理解できた	人 848	381	61	10	3.59	0.62	3.36	○
Q3 授業の内容に興味・関心をもちた	人 882	345	61	11	3.62	0.62	3.40	○
Q4 この授業からよい刺激を受け、自分の考えが広がってきたようだ	人 858	358	75	2	3.59	0.62	3.36	○
Q5 この授業では、学習に集中することができた	人 843	379	64	13	3.58	0.63	3.35	○
Q6 授業中に使う教材(テキスト・配布資料など)は適切であった	人 848	292	49	10	3.62	0.63	3.44	○
Q7 成績評価の仕方が明確に示されていた	人 830	371	87	12	3.55	0.66	3.38	○
Q8 教員の話し方は明確で聞き取りやすかった	人 935	297	61	5	3.67	0.58	3.46	○
Q9 教員のプレゼンテーション(授業における伝達方法)は適切であった	人 911	330	53	6	3.65	0.58	3.46	○
Q10 教員は学生の質問や相談に適切に対応した	人 947	303	45	5	3.69	0.55	3.47	○
Q11 教員の授業への取り組みに、敬意を感じた	人 974	282	38	6	3.71	0.54	3.52	○
Q12 教員は学生の反応や理解を見ながら授業を進めた	人 938	300	57	4	3.67	0.57	3.44	○
Q13 私はこの授業に満足した	人 862	359	65	12	3.60	0.63	3.41	○
Q14 私は履修科目を選ぶ際にシラバスをよく読んだ	人 640	393	183	78	3.23	0.91	2.98	○
Q15 授業中は意欲的・積極的に取り組んだ	人 784	410	86	14	3.52	0.67	3.32	○
Q16 教員から要求された自主学習(予習/復習、宿題や準備)をしましたか	人 666	445	137	45	3.34	0.80	3.20	○
Q17 この授業で、何回欠席しましたか [基準: 4(0回)、3(1回)、2(2~3回)、1(4回以上)]	人 512	342	105	35	3.02	1.00	3.15	○
人 43.6	21.3	27.4	7.3	0.4				

回答別回答分布表

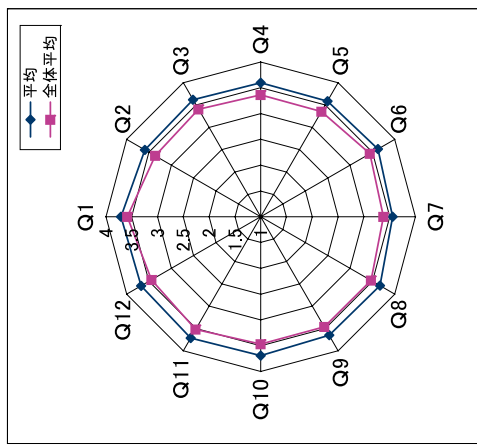
質問	4	3	2	1	平均	標準偏差	全体平均
Q2で授業の理解度が低い(4.3)の回答分布	人 886	302	33	8	3.68	0.56	3.55
Q6 授業中に使う教材(テキスト・配布資料など)は適切であった	人 915	278	32	2	3.72	0.51	3.58
Q8 教員の話し方は明確で聞き取りやすかった	人 883	307	26	3	3.70	0.52	3.57
Q9 教員のプレゼンテーション(授業における伝達方法)は適切であった	人 954	258	15	0	3.76	0.46	3.61
Q12 教員は学生の反応や理解を見ながら授業を進めた	人 921	276	29	2	3.72	0.51	3.56
Q15 授業中は意欲的・積極的に取り組んだ	人 770	387	56	10	3.57	0.62	3.43
Q17 この授業で、何回欠席しましたか	人 538	264	334	88	3.02	1.00	3.16

Q2で授業の理解度が低い(2.1)の回答分布

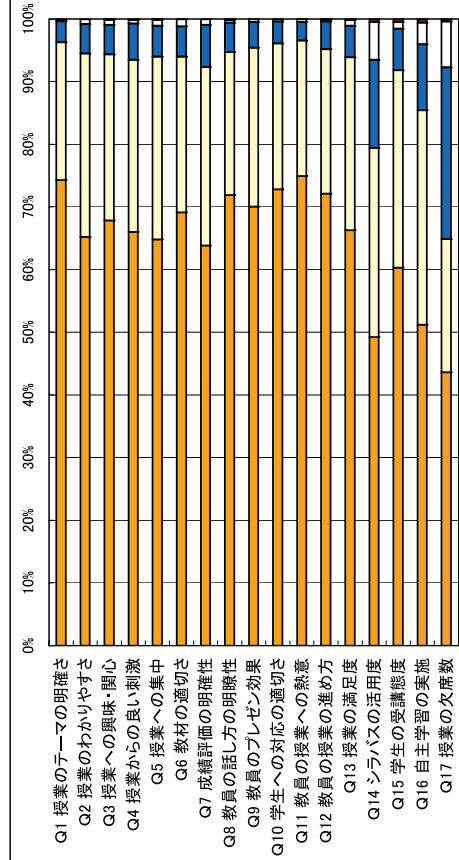
質問	4	3	2	1	平均	標準偏差	全体平均
Q6 授業中に使う教材(テキスト・配布資料など)は適切であった	人 13	21	30	7	2.56	0.90	2.60
Q8 教員の話し方は明確で聞き取りやすかった	人 20	19	29	3	2.79	0.90	2.52
Q9 教員のプレゼンテーション(授業における伝達方法)は適切であった	人 18	23	27	3	2.78	0.87	2.56
Q11 教員の授業への取り組みに、敬意を感じた	人 20	24	23	4	2.85	0.90	2.78
Q12 教員は学生の反応や理解を見ながら授業を進めた	人 17	24	28	2	2.79	0.84	2.52
Q15 授業中は意欲的・積極的に取り組んだ	人 14	23	30	4	2.66	0.85	2.47
Q17 この授業で、何回欠席しましたか	人 29	13	22	7	2.90	1.05	3.05

評価レーダーチャート

(学生)



評価棒グラフ



■ そう思う □ どちらかと言えばそう思う ■ どちらかと言えばそう思わない □ そう思わない ■ 無回答・その他

平成24年度 授業評価アンケート結果集計表

学部 (20) 英語英文学科	教員	曜日・講時	履修者数	1,453名
科目			回収数 (率)	1,040名 71.6%

集計集計

(〇...一審回答の多い選択肢 ㊦...全体平均より高い ㊧...平均が0.1~0.49増加 ㊨...平均が0.1以上減少 ㊩...平均が0.5以上増加 ㊪...平均が0.5以上減少)

質問	4	3	2	1	集計	平均	標準偏差	全体平均	集計比較
Q1 授業のテーマは、はっきりしていた	757	259	21	2	1	3.70	0.51	3.56	▲
Q2 授業の内容を理解できた	675	316	43	5	1	3.60	0.59	3.34	▲
Q3 授業の内容に興味・関心をもてた	691	296	44	7	2	3.61	0.60	3.36	▲
Q4 この授業からよい刺激を受け、自分の考えが広がってきたようだ	700	281	52	6	1	3.61	0.61	3.35	▲
Q5 この授業では、学習に集中することができた	669	311	55	4	1	3.58	0.61	3.34	▲
Q6 授業中に使う教材(テキスト・配布資料など)は適切であった	643	299	53	4	0.1	3.62	0.58	3.42	▲
Q7 成績評価の仕方が明確に示されていた	670	314	44	7	5	3.59	0.61	3.35	▲
Q8 教員の話し方は明確で聞き取りやすかった	731	259	41	7	2	3.65	0.59	3.45	▲
Q9 教員のプレゼンテーション(授業における伝達方法)は適切であった	722	264	32	10	2	3.66	0.59	3.44	▲
Q10 教員は学生の質問や相談に適切に対応した	751	263	19	6	1	3.69	0.53	3.45	▲
Q11 教員の授業への取り組みに、熱意を感じた	780	235	17	6	2	3.72	0.52	3.51	▲
Q12 教員は学生の反応や理解を見ながら授業を進めた	739	250	40	8	3	3.66	0.59	3.43	▲
Q13 私はこの授業に満足した	703	290	36	9	2	3.63	0.60	3.39	▲
Q14 私は履修科目を選ぶ際にシラバスをよく読んだ	519	323	132	64	2	3.25	0.90	3.01	▲
Q15 授業中は意欲的・積極的に取り組んだ	603	380	40	9	8	3.53	0.62	3.30	▲
Q16 教員から要求された自主学習(予習/復習、宿題や準備)をしましたか	540	389	78	24	9	3.40	0.73	3.20	▲
Q17 この授業で、何回欠席しましたか (基準: 4(0回)、3(1回)、2(2~3回)、1(4回以上))	353	374	7.5	2.3	0.9	2.89	0.97	3.08	▼

回答別回答分布表

Q2で授業の理解度が低い(4,3)の回答分布

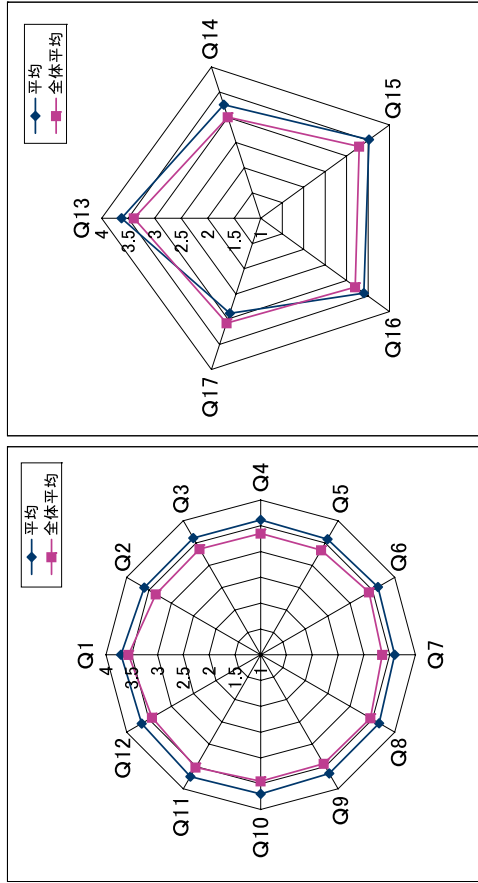
Q6 授業中に使う教材(テキスト・配布資料など)は適切であった	686	279	23	0	3	3.67	0.52	3.53	▲
Q8 教員の話し方は明確で聞き取りやすかった	722	245	21	2	1	3.70	0.51	3.57	▲
Q9 教員のプレゼンテーション(授業における伝達方法)は適切であった	724	247	15	4	1	3.71	0.51	3.56	▲
Q11 教員の授業への取り組みに、熱意を感じた	768	216	4	2	1	3.77	0.45	3.61	▲
Q12 教員は学生の反応や理解を見ながら授業を進めた	795	231	22	1	2	3.72	0.50	3.55	▲
Q15 授業中は意欲的・積極的に取り組んだ	593	359	29	3	7	3.57	0.57	3.41	▲
Q17 この授業で、何回欠席しましたか	339	285	286	78	3	2.90	0.97	3.09	▼

Q2で授業の理解度が低い(2,1)の回答分布

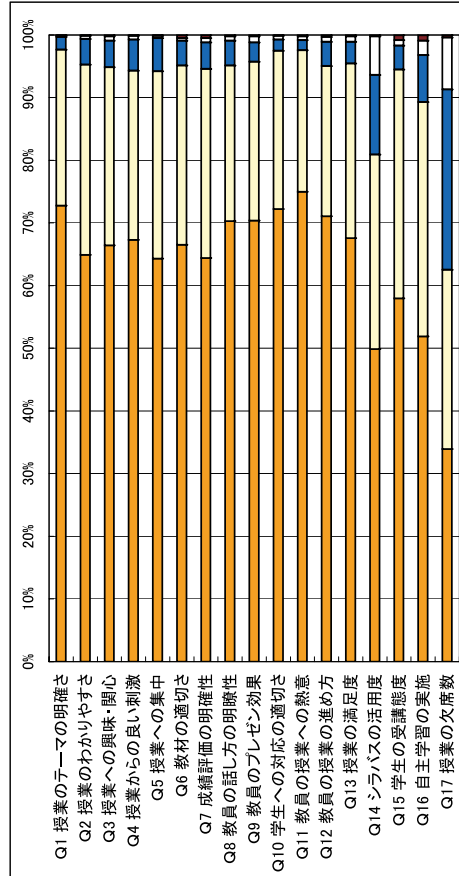
Q6 授業中に使う教材(テキスト・配布資料など)は適切であった	6	19	18	4	1	2.57	0.82	2.53	▼
Q8 教員の話し方は明確で聞き取りやすかった	9	14	20	5	0	2.56	0.91	2.51	▼
Q9 教員のプレゼンテーション(授業における伝達方法)は適切であった	8	17	17	6	0	2.56	0.91	2.49	▼
Q11 教員の授業への取り組みに、熱意を感じた	12	19	13	4	0	2.81	0.90	2.75	▼
Q12 教員は学生の反応や理解を見ながら授業を進めた	4	19	18	7	0	2.42	0.84	2.45	▼
Q15 授業中は意欲的・積極的に取り組んだ	10	21	11	6	0	2.73	0.93	2.47	○
Q17 この授業で、何回欠席しましたか	14	13	13	8	0	2.69	1.06	3.00	▼

評価レーダーチャート

(学生)



評価棒グラフ



■ そう思う □ どちらかと言えばそう思う ■ どちらかと言えばそう思わない □ そう思わない ■ 無回答・その他

平成24年度 授業評価アンケート結果集計表

学部 (30)	人間文化学科	教員	曜日・講時	履修者数	2,542名
科目				回収数 (率)	1,823名 (71.7%)

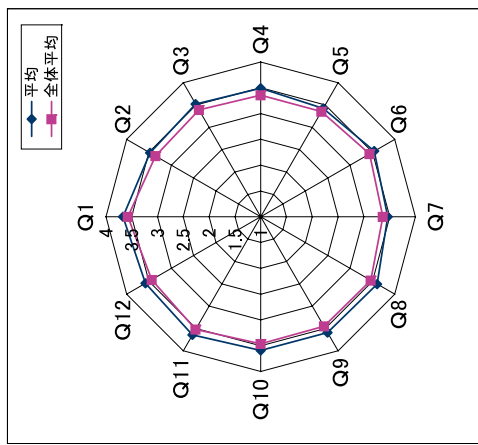
質問集計	回答回数					平均	標準偏差	全体平均	標準偏差	全体平均
	4	3	2	1	集計数					
Q1 授業のテーマは、はっきりしていた	1265	511	44	2	1	3.67	0.53	3.57		
Q2 授業の内容を理解できた	664	280	24	0.1	0.1	3.47	0.66	3.35	○	
Q3 授業の内容に興味・関心をもちた	555	368	69	0.8	0.0	3.52	0.67	3.38		
Q4 この授業からよい刺激を受け、自分の考えが広がってきたようだ	609	314	65	1.1	0.1	3.49	0.66	3.35	○	
Q5 この授業では、学習に集中することができた	953	702	151	16	1	3.42	0.68	3.35		
Q6 授業中に使う教材(テキスト・配布資料など)は適切であった	523	385	83	0.9	0.1	3.54	0.61	3.43		
Q7 成績評価の仕方が明確に示されていた	1003	667	133	19	1	3.46	0.68	3.37		
Q8 教員の話し方は明確で聞き取りやすかった	550	366	73	1.0	0.1	3.60	0.59	3.46		
Q9 教員のプレゼンテーション(授業における伝達方法)は適切であった	649	306	38	0.5	0.1	3.59	0.59	3.45		
Q10 教員は学生の質問や相談に適切に対応した	1156	586	66	11	4	3.59	0.59	3.46		
Q11 教員の授業への取り組みに、敬意を感じた	634	321	36	0.6	0.2	3.64	0.55	3.52		
Q12 教員は学生の反応や理解を見ながら授業を進めた	1230	536	48	7	2	3.58	0.61	3.43		
Q13 私はこの授業に満足した	668	315	42	0.8	0.1	3.53	0.64	3.40		
Q14 私は履修科目を選ぶ際にシラバスをよく読んだ	920	649	204	46	4	3.34	0.78	2.99	○	
Q15 授業中は意欲的・積極的に取り組んだ	505	358	112	2.5	0.2	3.45	0.66	3.31	○	
Q16 教員から要求された自主学習(予習/復習、宿題や準備)をしましたか	997	695	135	11	15	3.36	0.74	3.20	○	
Q17 この授業で、何回欠席しましたか (基準：4(0回)、3(1回)、2(2~3回)、1(4回以上))	481	382	98	19	10	3.04	0.95	3.12		

回答別回答分布表

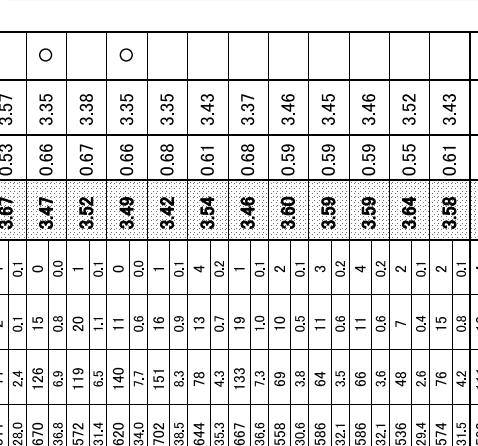
回答	Q2	Q3	Q4	Q5	Q6	Q7	Q8	Q9	Q10	Q11	Q12	Q13	Q14	Q15	Q16	Q17
Q2で授業の理解度が低い(4.3)の回答分布	1070	563	38	7	4	3.61	0.56	3.54								
Q2で授業の理解度が低い(2.1)の回答分布	1160	491	28	3	0	3.67	0.52	3.58								
Q6 授業中に使う教材(テキスト・配布資料など)は適切であった	1193	521	23	3	2	3.69	0.51	3.56								
Q8 教員の話し方は明確で聞き取りやすかった	1190	469	19	2	2	3.64	0.55	3.55								
Q9 教員のプレゼンテーション(授業における伝達方法)は適切であった	954	634	76	5	13	3.52	0.60	3.42								
Q10 教員は学生の質問や相談に適切に対応した	714	442	424	94	8	3.06	0.95	3.13								
Q11 教員の授業への取り組みに、敬意を感じた	14	81	40	6	0	2.73	0.69	2.57								
Q12 教員は学生の反応や理解を見ながら授業を進めた	24	67	41	7	2	2.78	0.79	2.51								
Q13 私はこの授業に満足した	26	65	41	8	1	2.78	0.81	2.52								
Q14 私は履修科目を選ぶ際にシラバスをよく読んだ	40	67	29	5	0	3.01	0.79	2.76								
Q15 授業中は意欲的・積極的に取り組んだ	26	69	37	9	0	2.79	0.81	2.49	○							
Q16 教員から要求された自主学習(予習/復習、宿題や準備)をしましたか	13	61	59	6	2	2.58	0.72	2.47								
Q17 この授業で、何回欠席しましたか	39	36	60	5	1	2.78	0.89	3.03								

評価レーダーチャート

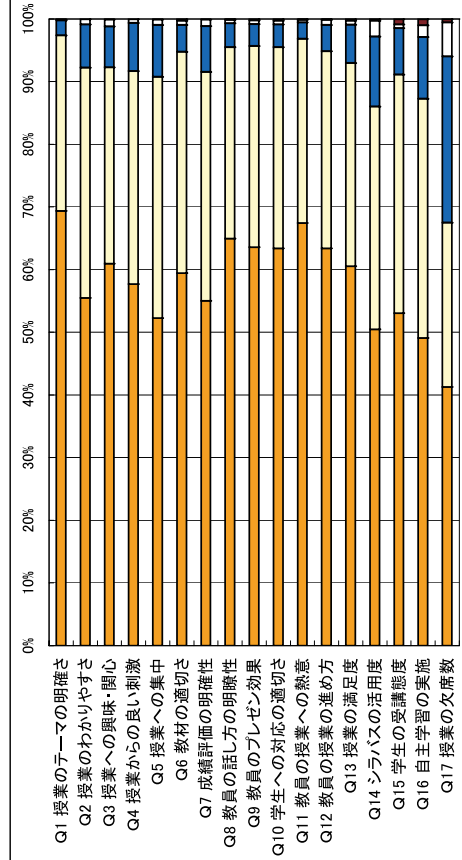
(学生)



(教員)



評価棒グラフ



口 そう思う 口 どちらかと言えばそう思う 口 どちらかと言えばそう思わない 口 無回答・その他

平成24年度 授業評価アンケート結果集計表

学部 (30)	人間文化学科	教員	曜日・講時	履修者数	1,468名
科目				回収数 (率)	1,061名 (72.3%)

質問集計	回答回数					平均	標準偏差	全体平均	標準偏差	全体平均
	4	3	2	1	無回答					
Q1 授業のテーマは、はっきりしていた	人 706	328	27	0	0	3.64	0.53	3.58	0	0
%	66.5	30.9	2.5	0.0	0.0					
Q2 授業の内容を理解できた	人 574	404	75	8	0	3.46	0.66	3.36	0	0
%	54.1	38.1	7.1	0.8	0.0					
Q3 授業の内容に興味・関心をもてた	人 623	356	73	8	1	3.50	0.66	3.40	0	0
%	58.7	33.6	6.9	0.8	0.1					
Q4 この授業からよい刺激を受け、自分の考えが広がってきたようだ	人 592	382	83	4	0	3.47	0.65	3.36	0	0
%	55.8	36.0	7.8	0.4	0.0					
Q5 この授業では、学習に集中することができた	人 538	432	87	5	1	3.41	0.66	3.35	0	0
%	50.5	40.7	8.2	0.5	0.1					
Q6 授業中に使う教材(テキスト・配布資料など)は適切であった	人 603	413	36	7	2	3.52	0.60	3.44	0	0
%	56.8	38.9	3.4	0.7	0.2					
Q7 成績評価の仕方が明確に示されていた	人 555	417	81	8	0	3.43	0.67	3.38	0	0
%	52.3	39.3	7.6	0.8	0.0					
Q8 教員の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	人 651	364	40	5	1	3.57	0.59	3.46	0	0
%	61.4	34.3	3.8	0.5	0.1					
Q9 教員のプレゼンテーション(授業における伝達方法)は適切であった	人 642	381	31	5	2	3.57	0.58	3.46	0	0
%	60.5	35.9	2.9	0.5	0.2					
Q10 教員は学生の質問や相談に適切に対応した	人 632	382	41	3	3	3.55	0.58	3.47	0	0
%	59.6	36.0	3.9	0.3	0.3					
Q11 教員の授業への取り組みに、敬意を感じた	人 680	350	27	2	2	3.61	0.55	3.52	0	0
%	64.1	33.0	2.5	0.2	0.2					
Q12 教員は学生の反応や理解を見ながら授業を進めた	人 635	373	44	7	2	3.54	0.61	3.44	0	0
%	59.8	35.2	4.1	0.7	0.2					
Q13 私はこの授業に満足した	人 623	373	57	5	3	3.53	0.62	3.41	0	0
%	58.7	35.2	5.4	0.5	0.3					
Q14 私は履修科目を選ぶ際にシラバスをよく読んだ	人 514	385	135	24	3	3.31	0.78	2.98	0	0
%	48.4	36.3	12.7	2.3	0.3					
Q15 授業中は意欲的・積極的に取り組んだ	人 541	431	74	6	9	3.43	0.65	3.32	0	0
%	51.0	40.6	7.0	0.6	0.8					
Q16 教員から要求された自主学習(予習/復習、宿題や準備)をしましたか	人 504	419	107	20	11	3.34	0.74	3.20	0	0
%	47.5	39.5	10.1	1.9	1.0					
Q17 この授業で、何回欠席しましたか	人 456	293	251	56	5	3.09	0.93	3.15	0	0
%	43.0	27.6	23.7	5.3	0.5					

回答群別回答分布表

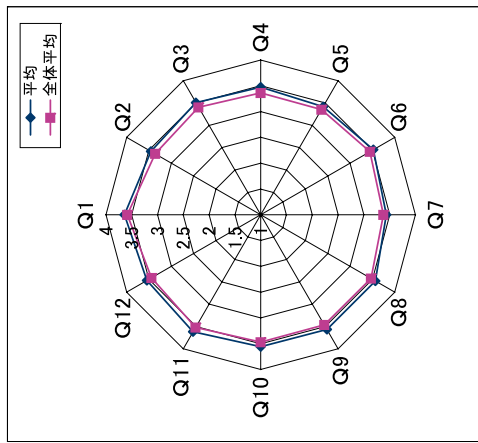
回答群	4	3	2	1	無回答	平均	標準偏差	全体平均	標準偏差	全体平均
Q2で授業の理解度が低い群(4.3)の回答分布	人 594	361	16	5	2	3.58	0.55	3.55	0	0
%	63.5	32.5	1.6	0.2	0.0					
Q8 教員の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	人 624	338	12	2	2	3.62	0.52	3.57	0	0
%	65.6	30.5	1.4	0.2	0.1					
Q12 教員は学生の反応や理解を見ながら授業を進めた	人 617	330	26	3	2	3.60	0.56	3.56	0	0
%	59.2	39.4	4.2	0.3	0.2					
Q15 授業中は意欲的・積極的に取り組んだ	人 431	270	220	53	4	3.11	0.94	3.16	0	0
%	43.1	27.0	22.0	5.3	0.4					

Q2で授業の理解度が低い群(2.1)の回答分布

回答群	4	3	2	1	無回答	平均	標準偏差	全体平均	標準偏差	全体平均
Q6 授業中に使う教材(テキスト・配布資料など)は適切であった	人 9	52	20	2	0	2.82	0.64	2.60	0	0
%	1.8	39	24	3	0					
Q8 教員の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	人 18	43	19	3	0	2.83	0.78	2.52	0	0
%	2.4	45	25	4	0					
Q11 教員の授業への取り組みに、敬意を感じた	人 18	43	18	4	0	2.90	0.79	2.52	0	0
%	2.4	45	23	5	0					
Q15 授業中は意欲的・積極的に取り組んだ	人 9	37	31	3	1	2.85	0.90	3.05	0	0
%	1.2	49	41	4	0.1					

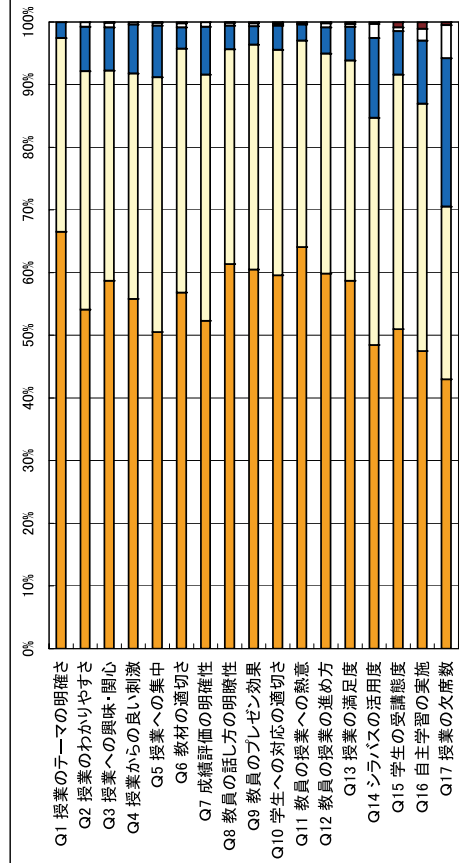
評価リーダーチャート

(学生)



(教員)

評価棒グラフ



■ そう思う □ どちらかと言えばそう思う □ どちらかと言えばそう思わない □ そう思わない ■ 無回答・その他

平成24年度 授業評価アンケート結果集計表

学部 (30)	人間文化学科	教員	曜日・講時	履修者数	1,074名
科目				回収数 (率)	762名 (70.9%)

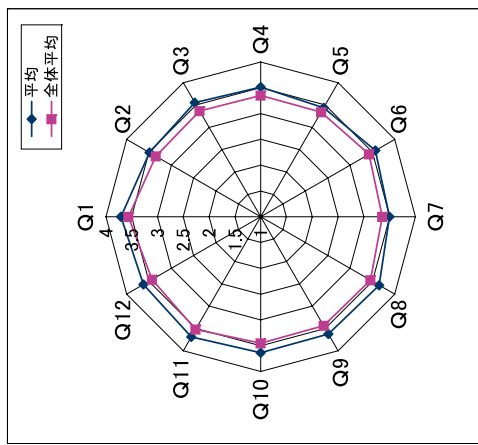
質問集計	回答状況						平均	全体平均
	4	3	2	1	無回答	割合		
Q1 授業のテーマは、はっきりしていた	人 559	183	17	2	1	3.71	0.52	3.56
Q2 授業の内容を理解できた	人 498	266	51	7	0	3.49	0.66	3.34
Q3 授業の内容に興味・関心をもてた	人 488	216	46	12	0	3.55	0.68	3.36
Q4 この授業からよい刺激を受け、自分の考えが広がってきたようだ	人 460	238	57	7	0	3.51	0.67	3.35
Q5 この授業では、学習に集中することができた	人 417	270	64	11	0	3.43	0.71	3.34
Q6 授業中に使う教材(テキスト・配布資料など)は適切であった	人 481	231	42	6	2	3.56	0.64	3.42
Q7 成績評価の仕方が明確に示されていた	人 448	250	52	11	1	3.49	0.69	3.35
Q8 教員の話し方は明確で聞き取りやすかった	人 583	194	29	5	1	3.65	0.59	3.45
Q9 教員のプレゼンテーション(授業における伝達方法)は適切であった	人 517	205	33	6	1	3.62	0.61	3.44
Q10 教員は学生の質問や相談に適切に対応した	人 524	204	25	8	1	3.63	0.60	3.45
Q11 教員の授業への取り組みに、熱意を感じた	人 550	186	21	5	0	3.66	0.56	3.51
Q12 教員は学生の反応や理解を見ながら授業を進めた	人 664	264	42	10	0.0	3.62	0.62	3.43
Q13 私はこの授業に満足した	人 481	219	54	7	1	3.54	0.67	3.39
Q14 私は履修科目を選ぶ際にシラバスをよく読んだ	人 406	264	69	22	1	3.39	0.77	3.01
Q15 授業中は意欲的・積極的に取り組んだ	人 426	264	61	5	6	3.47	0.67	3.30
Q16 教員から要求された自主学習(予習/復習、宿題や準備)をしましたか	人 391	278	72	14	7	3.39	0.73	3.20
Q17 この授業で、何回欠席しましたか (基準: 4(0回)、3(1回)、2(2~3回)、1(4回以上))	人 297	185	233	43	4	2.97	0.96	3.08

回答別回答分布表

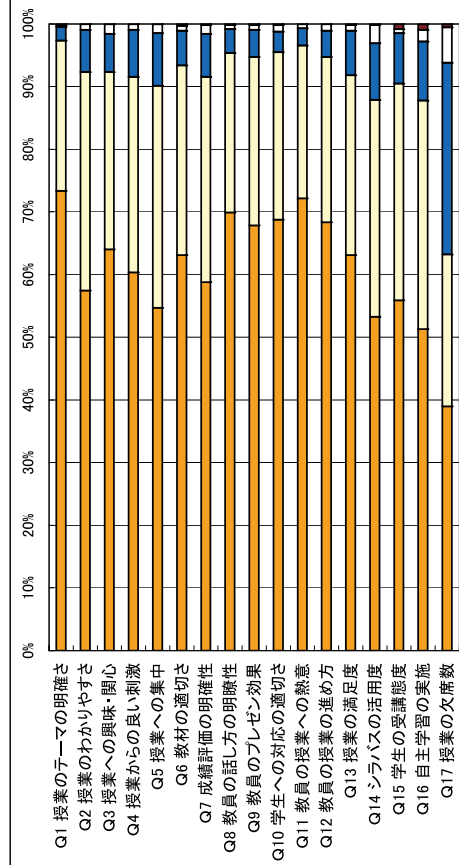
質問	4	3	2	1	無回答	割合	全体平均	
Q2で授業の理解度が低い(4.3)の回答分布	人 476	202	22	2	2	3.64	0.56	3.53
Q6 授業中に使う教材(テキスト・配布資料など)は適切であった	人 525	166	12	1	0	3.73	0.49	3.57
Q8 教員の話し方は明確で聞き取りやすかった	人 509	183	11	1	0	3.70	0.50	3.56
Q9 教員のプレゼンテーション(授業における伝達方法)は適切であった	人 534	164	5	1	0	3.75	0.46	3.61
Q12 教員は学生の反応や理解を見ながら授業を進めた	人 513	175	13	3	0	3.70	0.52	3.55
Q15 授業中は意欲的・積極的に取り組んだ	人 422	240	34	2	6	3.55	0.60	3.41
Q17 この授業で、何回欠席しましたか	人 283	172	204	41	4	3.00	0.96	3.09
Q2で授業の理解度が低い(2.1)の回答分布	人 5	29	20	4	0	2.60	0.74	2.53
Q6 授業中に使う教材(テキスト・配布資料など)は適切であった	人 8	28	17	4	1	2.70	0.79	2.51
Q8 教員の話し方は明確で聞き取りやすかった	人 8	22	22	5	1	2.58	0.84	2.49
Q9 教員のプレゼンテーション(授業における伝達方法)は適切であった	人 16	22	16	4	0	2.86	0.90	2.75
Q11 教員の授業への取り組みに、熱意を感じた	人 8	26	19	5	0	2.64	0.82	2.45
Q12 教員は学生の反応や理解を見ながら授業を進めた	人 4	24	27	3	0	2.50	0.70	2.47
Q15 授業中は意欲的・積極的に取り組んだ	人 14	13	29	2	0	2.67	0.88	3.00

評価レーダーチャート

(学生)



評価棒グラフ



■ そう思う □どちらかと言えばそう思う ■どちらかと言えばそう思わない □そう思わない ■無回答・その他

平成24年度 授業評価アンケート結果集計表

学部 (15)	人間文化学部共通科目	教員	曜日・講時	履修者数 回収数(率)	350名 298名 85.1%
---------	------------	----	-------	----------------	-----------------------

質問集計	回答状況				平均	全体平均
	4	3	2	1		
Q1 授業のテーマは、はっきりしていた	人 184	88	18	0	3.59	0.60 3.57
Q2 授業の内容を理解できた	人 154	113	27	4	3.40	0.71 3.35
Q3 授業の内容に興味・関心をもちた	人 180	94	19	5	3.51	0.69 3.38
Q4 この授業からよい刺激を受け、自分の考えが広がってきたようだ	人 167	94	34	3	3.43	0.73 3.35
Q5 この授業では、学習に集中することができた	人 150	105	37	6	3.34	0.77 3.35
Q6 授業中に使う教材(テキスト・配布資料など)は適切であった	人 168	103	22	5	3.46	0.70 3.43
Q7 成績評価の仕方が明確に示されていた	人 144	100	48	6	3.28	0.80 3.37
Q8 教員の話し方は明確で聞き取りやすかった	人 171	99	21	6	3.46	0.72 3.46
Q9 教員のプレゼンテーション(授業における伝達方法)は適切であった	人 176	94	21	6	3.48	0.72 3.45
Q10 教員は学生の質問や相談に適切に対応した	人 164	106	23	4	3.45	0.69 3.46
Q11 教員の授業への取り組みに、敬意を感じた	人 179	95	19	3	3.52	0.66 3.52
Q12 教員は学生の反応や理解を見ながら授業を進めた	人 167	97	23	8	3.43	0.75 3.43
Q13 私はこの授業に満足した	人 170	95	24	8	3.44	0.75 3.40
Q14 私は履修科目を選んだ際にシラバスをよく読んだ	人 111	98	62	25	3.00	0.96 2.99
Q15 授業中は意欲的・積極的に取り組んだ	人 140	122	29	6	3.33	0.73 3.31
Q16 教員から要求された自主学習(予習/復習、宿題や準備)をしましたか	人 116	111	53	16	3.10	0.88 3.20
Q17 この授業で、何回欠席しましたか (基準: 4(0回)、3(1回)、2(2~3回)、1(4回以上))	人 150	84	53	9	3.27	0.86 3.12

回答別回答分布表

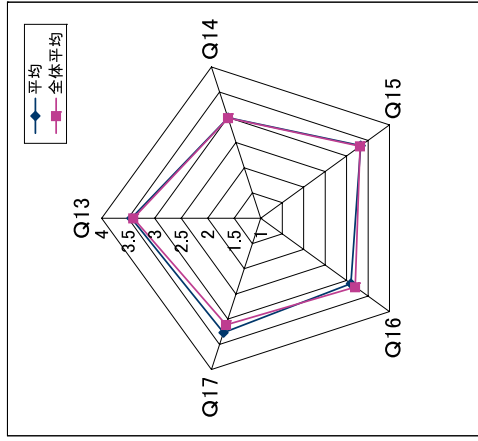
回答	人数	割合	平均	全体平均			
Q2で授業の理解度が低い(4.3)の回答分布	人 168	92	5	2	0	3.60	0.57 3.54
Q6 授業中に使う教材(テキスト・配布資料など)は適切であった	人 169	90	6	1	1	3.61	0.55 3.58
Q8 教員の話し方は明確で聞き取りやすかった	人 176	84	5	1	1	3.64	0.54 3.56
Q9 教員のプレゼンテーション(授業における伝達方法)は適切であった	人 177	81	7	0	2	3.64	0.53 3.61
Q11 教員の授業への取り組みに、敬意を感じた	人 187	87	8	2	3	3.59	0.59 3.55
Q12 教員は学生の反応や理解を見ながら授業を進めた	人 198	113	12	3	1	3.45	0.64 3.42
Q15 授業中は意欲的・積極的に取り組んだ	人 134	77	46	8	2	3.27	0.85 3.13

Q2で授業の理解度が低い(4.3)の回答分布

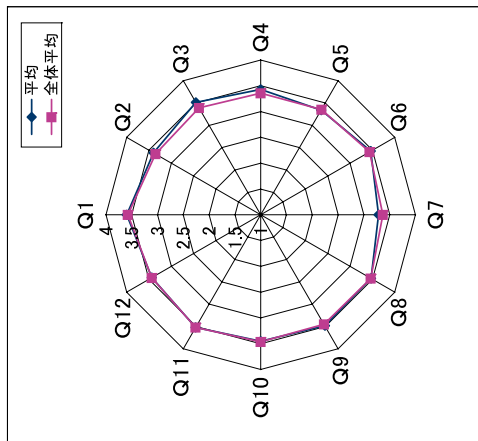
回答	人数	割合	平均	全体平均			
Q6 授業中に使う教材(テキスト・配布資料など)は適切であった	人 0	11	17	3	0	2.26	0.62 2.57
Q8 教員の話し方は明確で聞き取りやすかった	人 2	9	15	5	0	2.26	0.80 2.51
Q9 教員のプレゼンテーション(授業における伝達方法)は適切であった	人 0	10	16	5	0	2.16	0.68 2.52
Q11 教員の授業への取り組みに、敬意を感じた	人 2	14	12	3	0	2.48	0.76 2.76
Q12 教員は学生の反応や理解を見ながら授業を進めた	人 0	10	15	6	0	2.13	0.71 2.49
Q15 授業中は意欲的・積極的に取り組んだ	人 2	9	17	3	0	2.32	0.74 2.47
Q17 この授業で、何回欠席しましたか	人 16	7	7	1	0	3.23	0.91 3.03

評価レーダーチャート

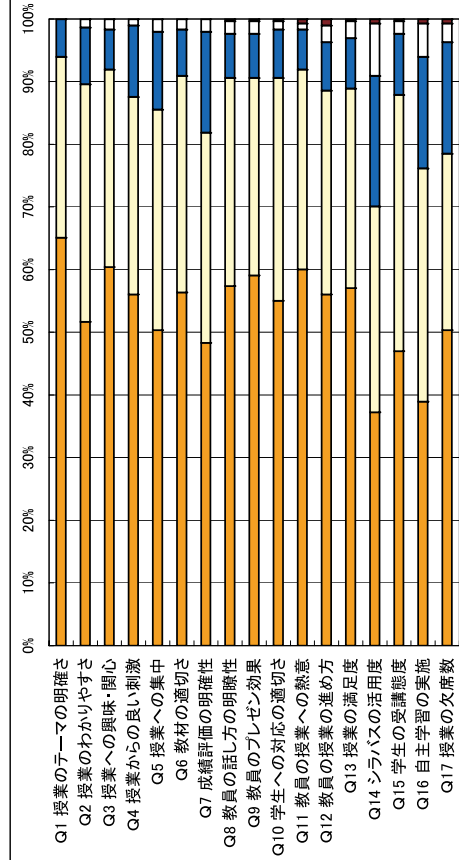
(学生)



(教員)



評価棒グラフ



〇 そう思う □ どちらかと言えばそう思う ■ どちらかと言えばそう思わない □ そう思わない ■ 無回答・その他

平成24年度 授業評価アンケート結果集計表

学部 (15)	人間文化学部共通科目	教員	曜日・講時	履修者数	183名
科目				回収数(率)	161名 88.0%

質問集計	回答回数					平均	標準偏差	全体平均	毎年比較
	4	3	2	1	無回答				
Q1 授業のテーマは、はっきりしていた	人 108	46	7	0	0	3.63	0.57	3.58	-
%	67.1	28.6	4.3	0.0	0.0				
Q2 授業の内容を理解できた	人 85	61	14	1	0	3.43	0.68	3.36	-
%	52.8	37.9	8.7	0.6	0.0				
Q3 授業の内容に興味・関心をもちた	人 97	52	10	2	0	3.52	0.67	3.40	-
%	60.2	32.3	6.2	1.2	0.0				
Q4 この授業からよい刺激を受け、自分の考えが広がってきたようだ	人 89	51	20	1	0	3.42	0.73	3.36	-
%	55.3	31.7	12.4	0.6	0.0				
Q5 この授業では、学習に集中することができた	人 81	58	20	2	0	3.35	0.74	3.35	-
%	50.3	36.0	12.4	1.2	0.0				
Q6 授業中に使う教材(テキスト・配布資料など)は適切であった	人 94	52	13	2	0	3.48	0.70	3.44	-
%	58.4	32.3	8.1	1.2	0.0				
Q7 成績評価の仕方が明確に示されていた	人 82	52	25	2	0	3.33	0.78	3.38	-
%	50.9	32.3	15.5	1.2	0.0				
Q8 教員の話し方は明確で聞き取りやすかった	人 96	54	10	1	0	3.52	0.64	3.46	-
%	59.6	33.5	6.2	0.6	0.0				
Q9 教員のプレゼンテーション(授業における伝達方法)は適切であった	人 98	50	10	2	1	3.53	0.67	3.46	-
%	60.9	31.1	6.2	1.2	0.6				
Q10 教員は学生の質問や相談に適切に対応した	人 90	59	10	1	1	3.49	0.64	3.47	-
%	55.9	36.6	6.2	0.6	0.6				
Q11 教員の授業への取り組みに、熱意を感じた	人 96	52	11	0	2	3.53	0.62	3.52	-
%	59.6	32.3	6.8	0.0	1.2				
Q12 教員は学生の反応や理解を見ながら授業を進めた	人 88	59	10	1	3	3.48	0.64	3.44	-
%	54.7	36.6	6.2	0.6	1.9				
Q13 私はこの授業に満足した	人 93	50	14	3	1	3.46	0.73	3.41	-
%	57.8	31.1	8.7	1.9	0.6				
Q14 私は履修科目を選ぶ際にシラバスをよく読んだ	人 64	53	30	13	1	3.05	0.95	2.98	-
%	39.8	32.9	18.6	8.1	0.6				
Q15 授業中は意欲的・積極的に取り組んだ	人 77	67	13	3	1	3.36	0.71	3.32	-
%	47.8	41.6	8.1	1.9	0.6				
Q16 教員から要求された自主学習(予習/復習、宿題や準備)をしましたか	人 58	66	27	9	1	3.08	0.87	3.20	-
%	36.0	41.0	16.8	5.6	0.6				
Q17 この授業で、何回欠席しましたか (基準：4(0回)、3(1回)、2(2~3回)、1(4回以上))	人 89	41	26	4	1	3.34	0.84	3.15	-
%	55.3	25.5	16.1	2.5	0.6				

回答別回答分布表

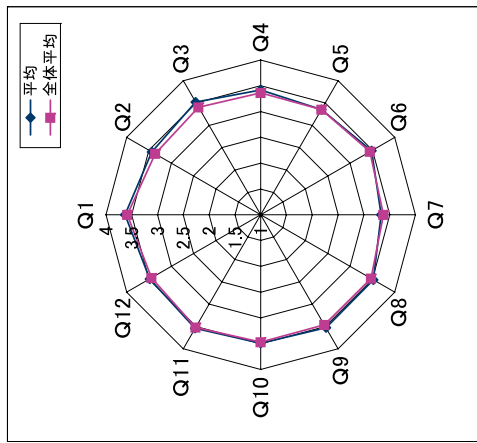
Q2で授業の理解度が低い(4,3)の回答分布	4	3	2	1	0	平均	標準偏差	全体平均
Q6 授業中に使う教材(テキスト・配布資料など)は適切であった	人 94	47	4	1	0	3.60	0.58	3.55
%	58.4	29.2	2.5	0.6	0.0			
Q8 教員の話し方は明確で聞き取りやすかった	人 95	48	3	0	0	3.63	0.52	3.58
%	58.4	29.2	1.9	0.0	0.0			
Q11 教員の授業への取り組みに、熱意を感じた	人 98	44	5	0	2	3.63	0.55	3.61
%	59.6	27.3	3.1	0.0	1.2			
Q12 教員は学生の反応や理解を見ながら授業を進めた	人 88	52	3	0	3	3.59	0.53	3.56
%	54.7	32.3	1.9	0.0	1.9			
Q15 授業中は意欲的・積極的に取り組んだ	人 76	63	4	2	1	3.47	0.62	3.43
%	46.6	39.2	2.5	1.2	0.6			
Q17 この授業で、何回欠席しましたか	人 81	38	23	3	1	3.36	0.82	3.16
%	50.3	23.6	14.3	1.9	0.6			

Q2で授業の理解度が低い(4,3)の回答分布

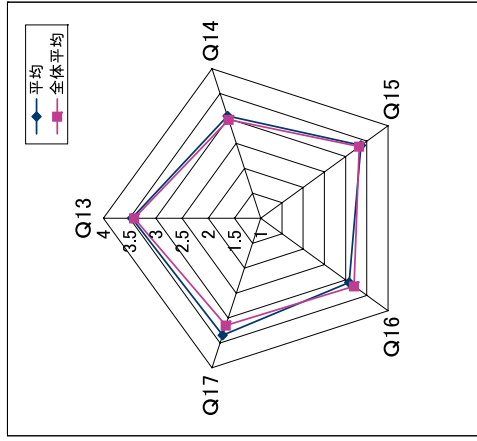
Q2で授業の理解度が低い(4,3)の回答分布	4	3	2	1	0	平均	標準偏差	全体平均
Q6 授業中に使う教材(テキスト・配布資料など)は適切であった	人 0	5	9	1	0	2.27	0.57	2.60
%	0.0	3.1	5.6	0.6	0.0			
Q8 教員の話し方は明確で聞き取りやすかった	人 1	6	7	1	0	2.47	0.72	2.52
%	1.2	3.7	4.3	0.6	0.0			
Q9 教員のプレゼンテーション(授業における伝達方法)は適切であった	人 0	5	8	2	0	2.20	0.65	2.56
%	0.0	3.1	5.0	1.2	0.0			
Q11 教員の授業への取り組みに、熱意を感じた	人 1	8	6	0	0	2.67	0.60	2.78
%	1.2	5.0	3.7	0.0	0.0			
Q12 教員は学生の反応や理解を見ながら授業を進めた	人 0	7	7	1	0	2.40	0.61	2.52
%	0.0	4.3	4.3	0.6	0.0			
Q15 授業中は意欲的・積極的に取り組んだ	人 1	4	9	1	0	2.33	0.70	2.47
%	1.2	2.5	5.6	0.6	0.0			
Q17 この授業で、何回欠席しましたか	人 8	3	3	1	0	3.20	0.98	3.05
%	5.0	1.9	1.9	0.6	0.0			

評価リーダーチャート

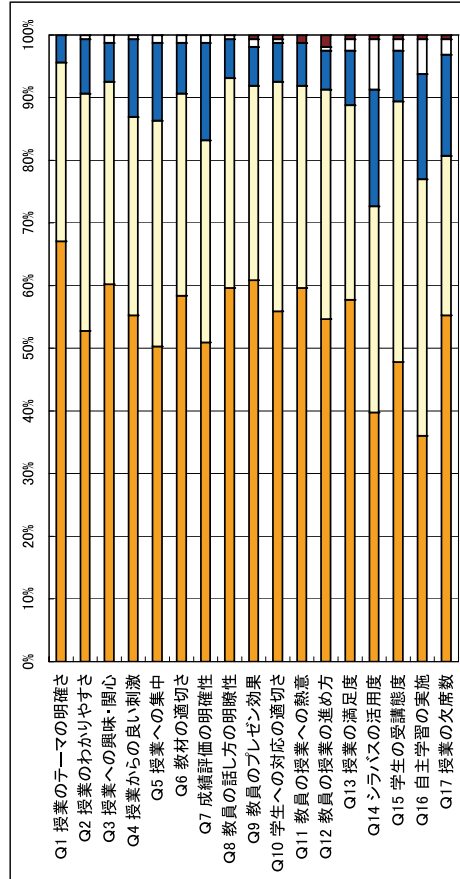
(教員)



(学生)



評価棒グラフ



〇 そう思う □ どちらかと言えばそう思う □ どちらかと言えばそう思わない □ そう思わない □ 無回答・その他

平成24年度 授業評価アンケート結果集計表

学部 (15)	人間文化学部共通科目	教員	履修者数	167名
科目			回収数(率)	137名 82.0%

質問事項	回答状況					平均	全体平均
	4	3	2	1	無回答		
Q1 授業のテーマは、はっきりしていた	人 86	40	11	0	0	3.55	0.64 3.56
%	62.8	29.2	8.0	0.0	0.0		
Q2 授業の内容を理解できた	人 69	52	13	3	0	3.36	0.74 3.34
%	50.4	38.0	9.5	2.2	0.0		
Q3 授業の内容に興味・関心をもちた	人 83	42	9	3	0	3.50	0.72 3.36
%	60.6	30.7	6.6	2.2	0.0		
Q4 この授業からよい刺激を受け、自分の考えが広がってきたようだ	人 78	43	14	2	0	3.44	0.73 3.35
%	56.9	31.4	10.2	1.5	0.0		
Q5 この授業では、学習に集中することができた	人 69	47	17	4	0	3.32	0.80 3.34
%	50.4	34.3	12.4	2.9	0.0		
Q6 授業中に使う教材(テキスト・配布資料など)は適切であった	人 74	51	9	3	0	3.43	0.71 3.42
%	54.0	37.2	6.6	2.2	0.0		
Q7 成績評価の仕方が明確に示されていた	人 62	48	23	4	0	3.23	0.83 3.35
%	45.3	35.0	16.8	2.9	0.0		
Q8 教員の話し方は明確で聞き取りやすかった	人 75	45	11	5	1	3.40	0.79 3.45
%	54.7	32.8	8.0	3.6	0.7		
Q9 教員のプレゼンテーション(授業における伝達方法)は適切であった	人 78	44	11	4	0	3.43	0.76 3.44
%	56.9	32.1	8.0	2.9	0.0		
Q10 教員は学生の質問や相談に適切に対応した	人 74	47	13	3	0	3.40	0.75 3.45
%	54.0	34.3	9.5	2.2	0.0		
Q11 教員の授業への取り組みに、熱意を感じた	人 83	43	8	3	0	3.50	0.71 3.51
%	60.6	31.4	5.8	2.2	0.0		
Q12 教員は学生の反応や理解を見ながら授業を進めた	人 79	38	13	7	0	3.38	0.86 3.43
%	57.7	27.7	9.5	5.1	0.0		
Q13 私はこの授業に満足した	人 77	45	10	5	0	3.42	0.78 3.39
%	56.2	32.8	7.3	3.6	0.0		
Q14 私は履修科目を選ぶ際にシラバスをよく読んだ	人 47	45	32	12	1	2.93	0.96 3.01
%	34.3	32.8	23.4	8.8	0.7		
Q15 授業中は意欲的・積極的に取り組んだ	人 63	55	16	3	0	3.30	0.76 3.30
%	46.0	40.1	11.7	2.2	0.0		
Q16 教員から要求された自主学習(予習/復習、宿題や準備)をしましたか	人 58	45	26	7	1	3.13	0.90 3.20
%	42.3	32.8	19.0	5.1	0.7		
Q17 この授業で、何回欠席しましたか [基準: 4(0回)、3(1回)、2(2~3回)、1(4回以上)]	人 61	43	27	5	1	3.18	0.87 3.08
%	44.5	31.4	19.7	3.6	0.7		

回答別回答分布表

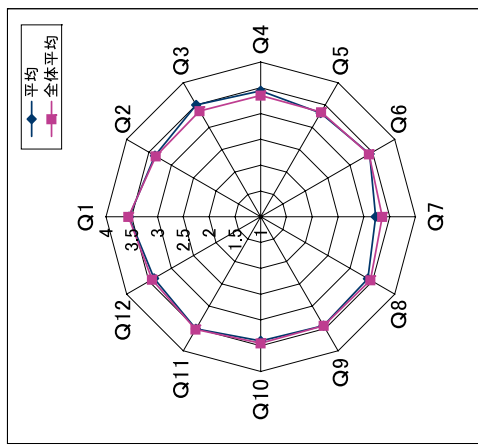
回答	Q1	Q2	Q3	Q4	Q5	Q6	Q7	Q8	Q9	Q10	Q11	Q12	Q13	Q14	Q15	Q16	Q17
Q2で授業の理解度が低い(4.3)の回答分布	人 74	45	1	1	0	3.59	0.56 3.53	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
%	54.0	32.8	0.7	0.7	0.0	2.6	0.59 3.57	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Q8 教員の話し方は明確で聞き取りやすかった	人 78	39	3	1	0	3.60	0.58 3.56	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
%	56.9	28.5	2.2	0.7	0.0	2.6	0.58 3.56	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Q11 教員の授業への取り組みに、熱意を感じた	人 82	37	2	0	0	3.66	0.51 3.61	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
%	60.0	27.0	1.5	0.0	0.0	2.6	0.51 3.61	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Q12 教員は学生の反応や理解を見ながら授業を進めた	人 79	35	5	2	0	3.55	0.65 3.55	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
%	57.7	25.5	3.6	1.5	0.0	2.6	0.65 3.55	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Q15 授業中は意欲的・積極的に取り組んだ	人 62	50	8	1	0	3.43	0.65 3.41	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
%	45.3	36.5	5.8	0.7	0.0	2.6	0.65 3.41	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Q17 この授業で、何回欠席しましたか	人 53	39	23	5	1	3.17	0.88 3.09	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
%	38.7	28.5	16.8	3.6	0.7	2.6	0.88 3.09	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

Q2で授業の理解度が低い(4.3)の回答分布

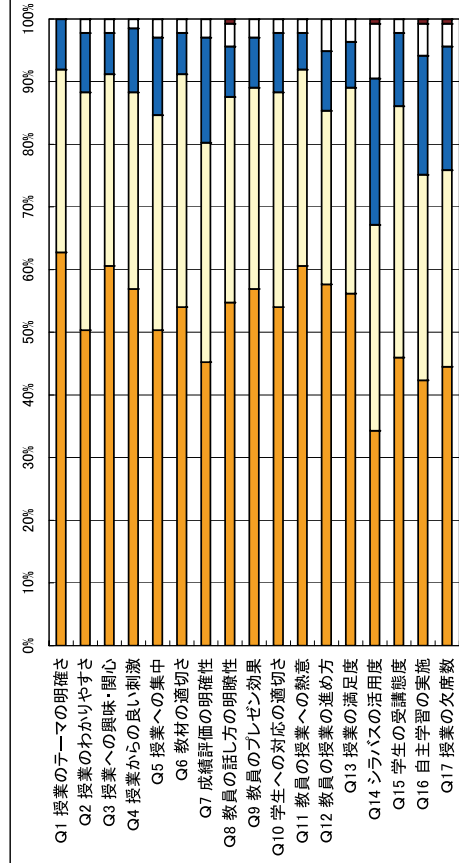
回答	Q1	Q2	Q3	Q4	Q5	Q6	Q7	Q8	Q9	Q10	Q11	Q12	Q13	Q14	Q15	Q16	Q17
Q6 授業中に使う教材(テキスト・配布資料など)は適切であった	人 0	6	8	2	0	2.25	0.66 2.53	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
%	0.0	4.4	5.8	1.5	0.0	1.6	0.66 2.53	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Q8 教員の話し方は明確で聞き取りやすかった	人 1	3	8	4	0	2.06	0.83 2.51	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
%	0.7	2.2	5.8	2.9	0.0	1.5	0.83 2.51	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Q9 教員のプレゼンテーション(授業における伝達方法)は適切であった	人 1	0	5	3	0	2.13	0.70 2.49	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
%	0.7	0.0	3.6	2.2	0.0	1.6	0.70 2.49	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Q11 教員の授業への取り組みに、熱意を感じた	人 1	6	6	3	0	2.31	0.85 2.75	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
%	0.7	4.4	4.4	2.2	0.0	1.7	0.85 2.75	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Q12 教員は学生の反応や理解を見ながら授業を進めた	人 0	3	8	5	0	1.88	0.70 2.45	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
%	0.0	2.2	5.8	3.6	0.0	1.4	0.70 2.45	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Q15 授業中は意欲的・積極的に取り組んだ	人 1	5	8	2	0	2.31	0.77 2.47	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
%	0.7	3.6	5.8	1.5	0.0	1.7	0.77 2.47	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Q17 この授業で、何回欠席しましたか	人 8	4	4	0	0	3.25	0.83 3.00	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
%	5.8	2.9	2.9	0.0	0.0	2.2	0.83 3.00	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

評価リーダーチャート

(学生)



評価棒グラフ



〇 そう思う □ どちらかと言えばそう思う □ どちらかと言えばそう思わない ■ 無回答・その他

平成24年度 授業評価アンケート結果集計表

学部 (40)	生活福祉文化学部	教員	曜日・講時	履修者数	4,919名
科目				回収数(率)	3,796名 77.2%

集計集計

(〇...一審回答の多い選択肢 ㊦...全体平均より高い ㊧...全体平均より低い ㊨...平均が0.1~0.49増加 ㊩...平均が0.1以上減少)

質問	4	3	2	1	集計	平均	標準偏差	全体平均	標準比率
Q1 授業のテーマは、はっきりしていた	人 2320	1302	145	27	2	3.56	0.60	3.57	
%	61.1	34.3	3.8	0.7	0.1				
Q2 授業の内容を理解できた	人 1758	1621	354	59	4	3.34	0.71	3.35	
%	46.3	42.7	9.3	1.6	0.1				
Q3 授業の内容に興味・関心をもてた	人 1908	1497	330	57	4	3.39	0.71	3.38	
%	50.3	39.4	8.7	1.5	0.1				
Q4 この授業からよい刺激を受け、自分の考えが広がってきたようだ	人 1814	1554	369	55	4	3.35	0.71	3.35	
%	47.8	40.9	9.7	1.4	0.1				
Q5 この授業では、学習に集中することができた	人 1740	1628	369	54	5	3.33	0.71	3.35	
%	45.8	42.9	9.7	1.4	0.1				
Q6 授業中に使う教材(テキスト・配布資料など)は適切であった	人 1974	1555	213	48	6	3.44	0.66	3.43	
%	52.0	41.0	5.6	1.3	0.2				
Q7 成績評価の仕方が明確に示されていた	人 1867	1594	281	47	7	3.39	0.68	3.37	
%	49.2	42.0	7.4	1.2	0.2				
Q8 教員の話し方は明確で聞き取りやすかった	人 2087	1392	256	53	8	3.46	0.68	3.46	
%	55.0	36.7	6.7	1.4	0.2				
Q9 教員のプレゼンテーション(授業における伝達方法)は適切であった	人 1982	1478	273	55	8	3.42	0.69	3.45	
%	52.2	38.9	7.2	1.4	0.2				
Q10 教員は学生の質問や相談に適切に対応した	人 1988	1518	229	52	9	3.44	0.67	3.46	
%	52.4	40.0	6.0	1.4	0.2				
Q11 教員の授業への取り組みに、熱意を感じた	人 2122	1456	177	36	5	3.49	0.63	3.52	
%	55.9	38.4	4.7	0.9	0.1				
Q12 教員は学生の反応や理解を見ながら授業を進めた	人 1980	1494	278	59	5	3.41	0.69	3.43	
%	51.6	39.4	7.3	1.6	0.1				
Q13 私はこの授業に満足した	人 1916	1553	254	63	10	3.41	0.69	3.40	
%	50.5	40.9	6.7	1.7	0.3				
Q14 私は履修科目を選ぶ際にシラバスをよく読んだ	人 1293	1511	721	257	14	3.02	0.90	2.99	
%	34.1	39.8	19.0	6.8	0.4				
Q15 授業中は意欲的・積極的に取り組んだ	人 1608	1719	393	58	18	3.29	0.71	3.31	
%	42.4	45.3	10.4	1.5	0.5				
Q16 教員から要求された自主学習(予習/復習、宿題や準備)をしましたか	人 1461	1574	563	160	38	3.15	0.83	3.20	
%	36.5	41.5	14.8	4.2	1.0				
Q17 この授業で、何回欠席しましたか (基準: 4(0回)、3(1回)、2(2~3回)、1(4回以上))	人 1695	989	875	225	12	3.10	0.95	3.12	
%	44.7	26.1	23.1	5.9	0.3				

回答別回答分布表

Q2で授業の理解度が低い群(4.3)の回答分布

質問	4	3	2	1	集計	平均	標準偏差	全体平均	標準比率
Q6 授業中に使う教材(テキスト・配布資料など)は適切であった	人 1938	1349	79	10	3	3.54	0.56	3.54	
%	20.44	12.25	0.96	0.11	4	3.57	0.57	3.58	
Q8 教員の話し方は明確で聞き取りやすかった	人 1944	1311	107	11	6	3.54	0.58	3.56	
%	20.65	12.39	0.96	0.11	5	3.59	0.54	3.61	
Q12 教員は学生の反応や理解を見ながら授業を進めた	人 1925	1322	116	14	2	3.53	0.59	3.55	
%	15.81	15.46	2.20	0.12	12	3.39	0.64	3.42	
Q17 この授業で、何回欠席しましたか	人 1529	882	758	203	7	3.11	0.95	3.13	

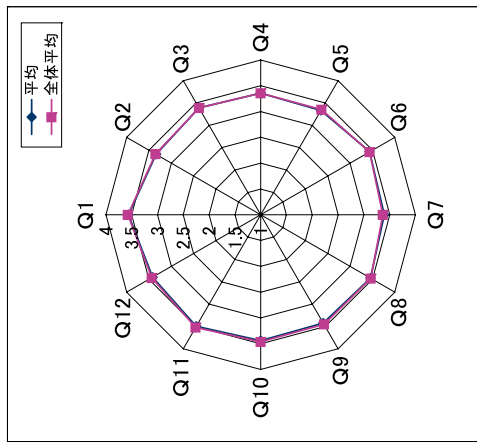
Q2で授業の理解度が低い群(2.1)の回答分布

質問	4	3	2	1	集計	平均	標準偏差	全体平均	標準比率
Q6 授業中に使う教材(テキスト・配布資料など)は適切であった	人 36	205	133	38	1	2.58	0.78	2.57	▼
%	43	165	160	43	2	2.51	0.82	2.51	▼
Q8 教員の話し方は明確で聞き取りやすかった	人 38	166	165	44	0	2.48	0.80	2.52	▼
%	57	216	107	31	2	2.73	0.79	2.76	
Q12 教員は学生の反応や理解を見ながら授業を進めた	人 35	172	160	45	1	2.48	0.80	2.49	▼
%	27	173	171	38	4	2.46	0.75	2.47	○
Q17 この授業で、何回欠席しましたか	人 165	106	117	22	3	3.01	0.95	3.03	

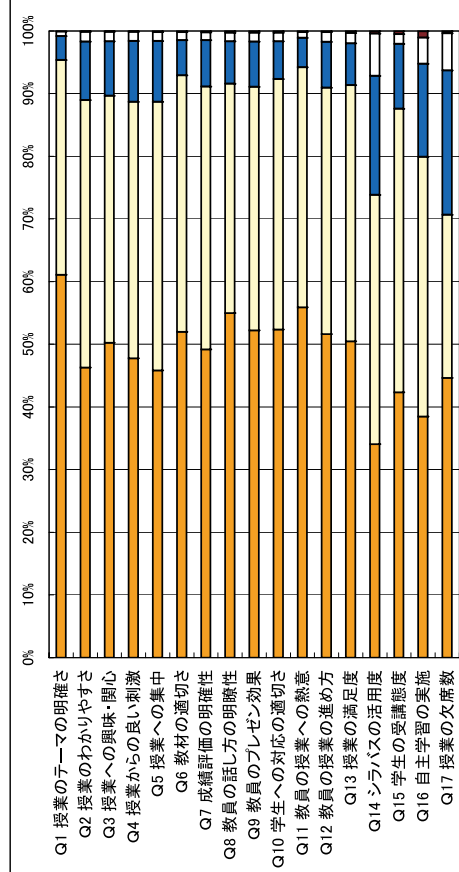
評価レダーチャート

(学生)

(教員)



評価棒グラフ



■ そう思う □ どちらかと言えばそう思う ▨ どちらかと言えばそう思わない □ 無回答・その他

平成24年度 授業評価アンケート結果集計表

学部 (40)	生活福祉文化学部	教員	曜日・講時	履修者数	2,708名
科目				回収数(率)	2,148名 79.3%

集計集計

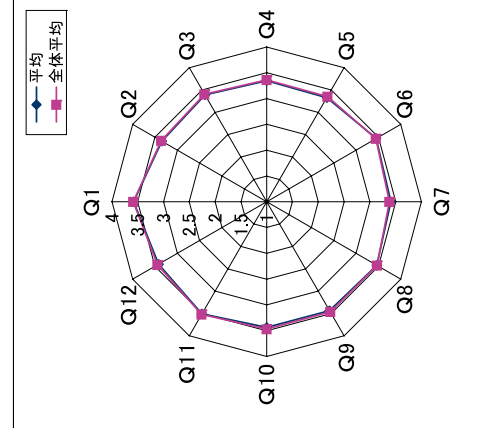
Q	回答数					平均	標準偏差	全体平均	標準偏差	全体平均
	1	2	3	4	5					
Q1	1329	736	69	13	1	3.57	0.59	3.58		
Q2	1007	900	208	30	3	3.34	0.71	3.36		
Q3	1068	832	195	32	3	3.39	0.71	3.40		
Q4	1014	889	209	34	2	3.34	0.72	3.36		
Q5	993	894	224	33	4	3.33	0.72	3.35		
Q6	462	416	104	15	0.2	3.45	0.65	3.44		
Q7	1047	929	148	19	5	3.40	0.66	3.38		
Q8	1188	774	155	25	6	3.46	0.68	3.46		
Q9	1130	836	153	25	4	3.43	0.68	3.46		
Q10	1113	868	139	25	3	3.43	0.67	3.47		
Q11	1204	828	96	16	4	3.50	0.62	3.52		
Q12	1108	847	169	23	3	3.42	0.68	3.44		
Q13	1104	848	153	34	9	3.41	0.69	3.41		
Q14	710	869	402	158	9	3.00	0.90	2.98		
Q15	903	963	239	33	10	3.28	0.72	3.32		
Q16	828	864	324	103	29	3.14	0.85	3.20		
Q17	988	569	448	136	9	3.12	0.95	3.15		

回答別回答分布表

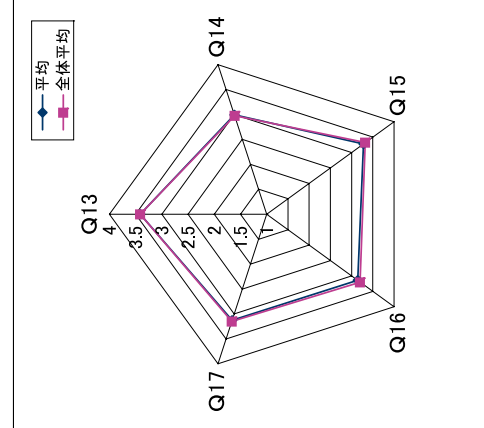
Q	1	2	3	4	5	平均	標準偏差	全体平均	標準偏差	全体平均
Q2で授業の理解度が低い(4.3)の回答分布										
Q6 授業中に使う教材(テキスト・配布資料など)は適切であった	1088	753	47	6	3	3.55	0.56	3.55		
Q8 教員の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	1161	677	60	5	4	3.57	0.57	3.58		
Q9 教員のプレゼンテーション(授業における伝達方法)は適切であった	1106	733	60	5	3	3.54	0.57	3.57		
Q11 教員の授業への取り組みに、熱意を感じた	1167	696	41	2	1	3.59	0.54	3.61		
Q12 教員は学生の反応や理解を見ながら授業を進めた	1088	744	70	6	1	3.53	0.58	3.56		
Q15 授業中は意欲的・積極的に取り組んだ	889	861	134	17	6	3.38	0.66	3.43		
Q17 この授業で、何回出席しましたか (基準：4(10回)、3(1回)、2(2~3回)、1(4回以上))	885	508	384	125	5	3.13	0.96	3.16		
Q2で授業の理解度が低い(2.1)の回答分布										
Q6 授業中に使う教材(テキスト・配布資料など)は適切であった	25	129	65	18	1	2.68	0.76	2.60		
Q8 教員の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	24	95	95	20	1	2.54	0.80	2.52		
Q9 教員のプレゼンテーション(授業における伝達方法)は適切であった	24	102	92	20	0	2.55	0.79	2.56		
Q11 教員の授業への取り組みに、熱意を感じた	37	131	54	14	2	2.81	0.77	2.78		
Q12 教員は学生の反応や理解を見ながら授業を進めた	20	103	97	17	1	2.53	0.75	2.52		
Q15 授業中は意欲的・積極的に取り組んだ	14	102	103	16	3	2.48	0.71	2.47		
Q17 この授業で、何回出席しましたか	100	60	64	11	3	3.06	0.94	3.05		

評価レーダーチャート

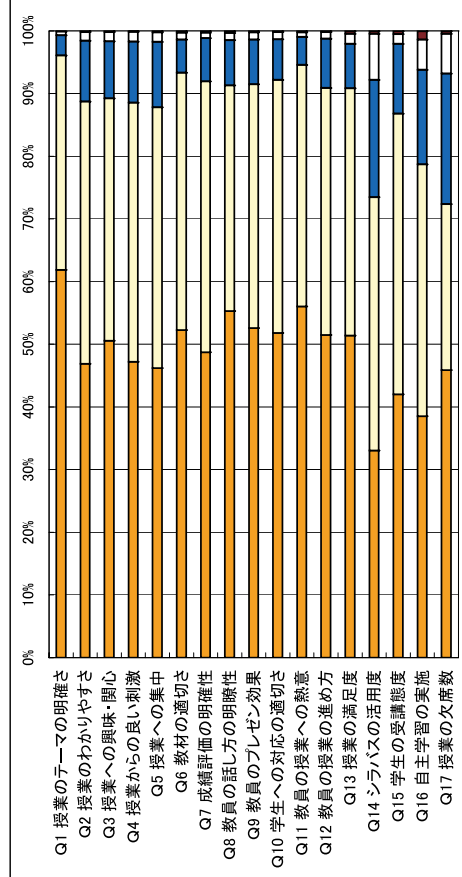
(教員)



(学生)



評価棒グラフ



■ そう思う □どちらかと言えばそう思う ■ どちらかと言えばそう思わない □ そう思わない ■ 無回答・その他

平成24年度 授業評価アンケート結果集計表

学部 (40)	生活福祉文化学部	教員	曜日・講時	履修者数	2,211名
科目				回収数 (率)	1,648名 74.5%

集計集計

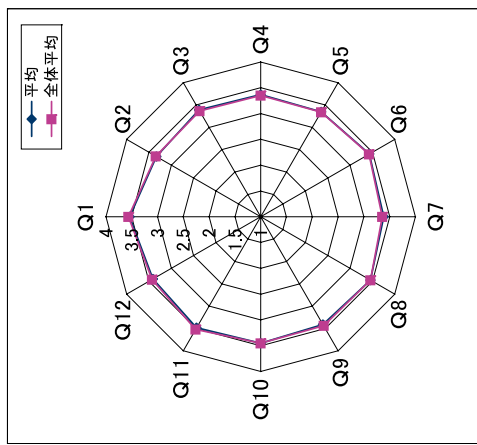
Q	回答数					平均	標準偏差	全体平均	集計比較
	4	3	2	1	集計率				
Q1	991	566	76	14	1	3.54	0.63	3.56	▲
Q2	601	343	4.6	0.8	0.1	3.33	0.71	3.34	▼
Q3	456	438	8.9	1.8	0.1	3.39	0.70	3.36	▼
Q4	800	665	160	21	2	3.36	0.71	3.35	▼
Q5	747	734	145	21	1	3.34	0.69	3.34	▼
Q6	851	672	100	24	1	3.43	0.67	3.42	▼
Q7	820	665	133	28	2	3.36	0.71	3.35	▼
Q8	899	618	101	28	2	3.45	0.69	3.45	▼
Q9	882	642	120	30	4	3.41	0.71	3.44	▼
Q10	875	650	90	27	6	3.45	0.67	3.45	▼
Q11	918	628	81	20	1	3.48	0.65	3.51	▼
Q12	854	647	109	36	2	3.41	0.71	3.43	▼
Q13	812	705	101	22	1	3.40	0.68	3.39	▼
Q14	583	642	319	99	5	3.04	0.89	3.01	▼
Q15	705	756	154	25	8	3.31	0.70	3.30	▼
Q16	633	710	239	57	9	3.17	0.80	3.20	▼
Q17	709	431	145	35	0.5	3.06	0.95	3.08	▼

回答別回答分布表

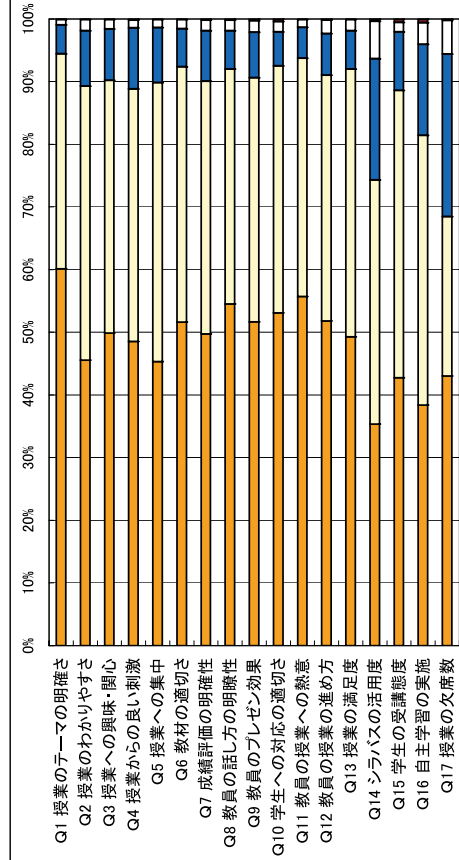
Q	4	3	2	1	集計率	平均	標準偏差	全体平均	集計比較
Q2で授業の理解度が低い(4.3)の回答分布	840	596	32	4	0	3.54	0.55	3.53	▼
Q6 授業中に使う教材(テキスト・配布資料など)は適切であった	883	548	36	5	0	3.57	0.56	3.57	▼
Q8 教員の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	888	578	47	6	3	3.53	0.58	3.56	▼
Q9 教員のプレゼンテーション(授業における伝達方法)は適切であった	898	543	28	3	0	3.59	0.54	3.61	▼
Q12 教員は学生の反応や理解を見ながら授業を進めた	889	578	46	8	1	3.53	0.59	3.55	▼
Q15 授業中は意欲的・積極的に取り組んだ	692	685	86	3	6	3.41	0.61	3.41	▼
Q17 この授業で、何回出席しましたか	644	374	374	78	2	3.08	0.95	3.09	▼
Q2で授業の理解度が低い(2.1)の回答分布	11	76	68	20	0	2.45	0.78	2.53	▼
Q6 授業中に使う教材(テキスト・配布資料など)は適切であった	16	70	65	23	1	2.45	0.83	2.51	▼
Q8 教員の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	14	64	73	24	0	2.39	0.82	2.49	▼
Q9 教員のプレゼンテーション(授業における伝達方法)は適切であった	20	85	53	17	0	2.62	0.81	2.75	▼
Q11 教員の授業への取り組みに、熱意を感じた	15	69	63	28	0	2.41	0.86	2.45	▼
Q12 教員は学生の反応や理解を見ながら授業を進めた	13	71	68	22	1	2.43	0.80	2.47	▼
Q15 授業中は意欲的・積極的に取り組んだ	65	46	53	11	0	2.94	0.96	3.00	○

評価レーダーチャート

(学生)



評価棒グラフ



■ そう思う □ どちらかとも言えない ■ どちらかとも言えない □ そう思わない ■ 無回答・その他

平成24年度 授業評価アンケート結果集計表

学部 (50)	心理学部	教員	曜日・講時	履修者数	6,041名
科目				回収数 (率)	4,586名 75.9%

集計集計

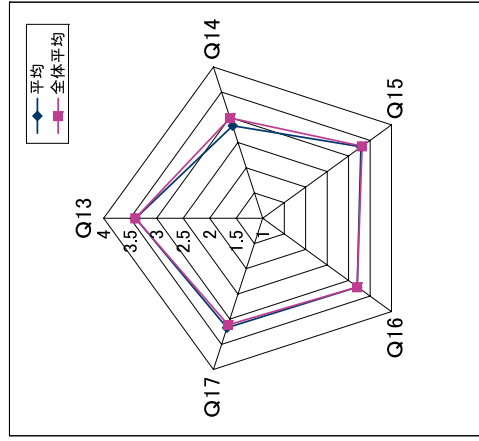
Q	質問	回答数				平均	標準偏差	全体平均	標準偏差	全体平均
		4	3	2	1					
Q1	授業のテーマは、はっきりしていた	人 2780	1644	135	26	3.57	0.58	3.57	0.58	3.57
Q2	授業の内容を理解できた	人 1968	2082	426	89	3.30	0.72	3.35	0.72	3.35
Q3	授業の内容に興味・関心をもちました	人 2328	1834	342	79	3.40	0.70	3.38	0.70	3.38
Q4	この授業からよい刺激を受け、自分の考えが広がってきたように感じた	人 2182	1916	415	70	3.36	0.71	3.35	0.71	3.35
Q5	この授業では、学習に集中することができた	人 2036	2064	411	70	3.32	0.70	3.35	0.70	3.35
Q6	授業中に使う教材(テキスト・配布資料など)は適切であった	人 2297	1928	297	58	3.41	0.67	3.43	0.67	3.43
Q7	成績評価の仕方が明確に示されていた	人 2108	2005	396	74	3.34	0.70	3.37	0.70	3.37
Q8	教員の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	人 2443	1726	323	91	3.42	0.71	3.46	0.71	3.46
Q9	教員のプレゼンテーション(授業における伝達方法)は適切であった	人 2397	1830	292	63	3.43	0.67	3.45	0.67	3.45
Q10	教員は学生の質問や相談に適切に対応した	人 2439	1842	244	53	3.46	0.65	3.46	0.65	3.46
Q11	教員の授業への取り組みに、敬意を感じた	人 2541	1793	205	42	3.49	0.63	3.52	0.63	3.52
Q12	教員は学生の反応や理解を見ながら授業を進めた	人 2422	1787	289	80	3.43	0.69	3.43	0.69	3.43
Q13	私はこの授業に満足した	人 2276	1915	309	80	3.39	0.69	3.40	0.69	3.40
Q14	私は履修科目を選ぶ際にシラバスをよく読んだ	人 1365	1824	1029	558	2.83	0.99	2.99	0.99	2.99
Q15	授業中は意欲的・積極的に取り組んだ	人 1933	354	224	122	3.29	0.70	3.31	0.70	3.31
Q16	教員から要求された自主学習(予習/復習、宿題や準備)をしましたか	人 1870	1942	565	171	3.21	0.80	3.20	0.80	3.20
Q17	この授業で、何回欠席しましたか (基準: 4(0回)、3(1回)、2(2~3回)、1(4回以上))	人 2180	1198	1001	193	3.17	0.91	3.12	0.91	3.12

回答別回答分布表

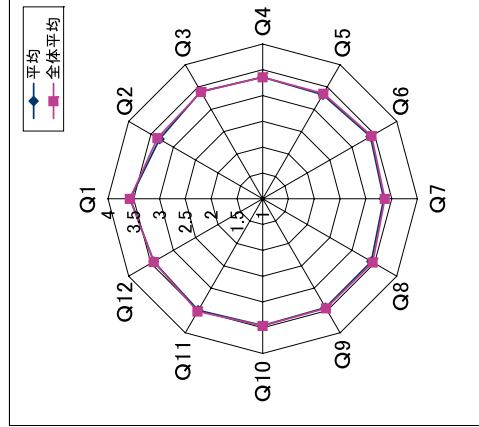
Q	質問	4	3	2	1	平均	標準偏差	全体平均	標準偏差	全体平均
Q2	授業の理解度が低い(4.3)の回答分布	人 2233	1684	135	12	3.51	0.58	3.54	0.58	3.54
Q8	教員の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	人 2375	1516	157	18	3.54	0.59	3.58	0.59	3.58
Q9	教員のプレゼンテーション(授業における伝達方法)は適切であった	人 2330	1593	133	10	3.54	0.57	3.56	0.57	3.56
Q11	教員は学生の反応や理解を見ながら授業を進めた	人 2431	1532	94	8	3.57	0.55	3.61	0.55	3.61
Q12	教員は意欲的・積極的に取り組んだ	人 2337	1564	142	19	3.53	0.59	3.55	0.59	3.55
Q15	授業中は意欲的・積極的に取り組んだ	人 1879	1876	270	22	3.39	0.63	3.42	0.63	3.42
Q17	この授業で、何回欠席しましたか	人 1924	1086	888	158	3.18	0.90	3.13	0.90	3.13
Q2	授業の理解度が低い(2.1)の回答分布	人 64	249	161	46	2.63	0.81	2.57	0.81	2.57
Q8	教員の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	人 67	209	166	73	2.52	0.89	2.51	0.89	2.51
Q9	教員のプレゼンテーション(授業における伝達方法)は適切であった	人 67	235	159	53	2.61	0.84	2.52	0.84	2.52
Q11	教員は学生の反応や理解を見ながら授業を進めた	人 110	200	110	34	2.87	0.82	2.76	0.82	2.76
Q12	教員は意欲的・積極的に取り組んだ	人 85	221	147	61	2.64	0.89	2.49	0.89	2.49
Q15	授業中は意欲的・積極的に取り組んだ	人 54	221	196	42	2.56	0.79	2.47	0.79	2.47
Q17	この授業で、何回欠席しましたか	人 256	110	113	35	3.14	0.98	3.03	0.98	3.03

評価レダーチャート

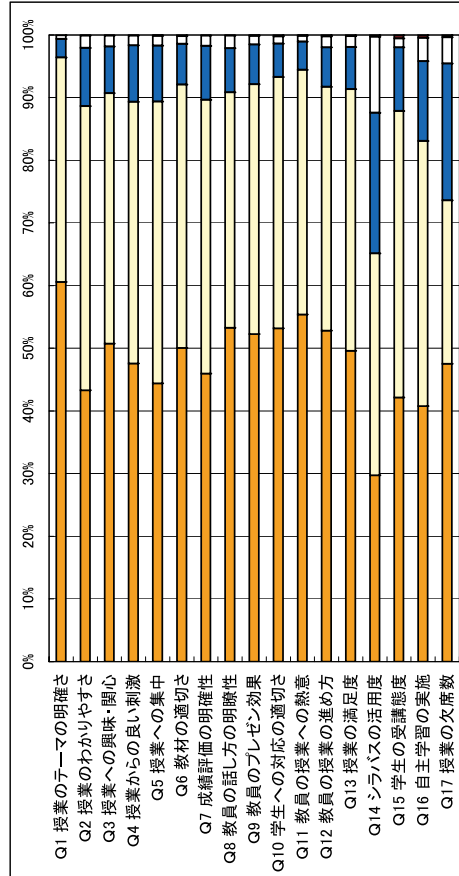
(学生)



(教員)



評価棒グラフ



口 そう思う □ どちらかと言えばそう思う □ どちらかと言えばそう思わない □ 無回答・その他

平成24年度 授業評価アンケート結果集計表

学部 (50) 心理学部	教員	履修者数	3,017名
科目		回収数 (率)	2,359名 78.2%

集計集計

(〇...一連回答の多い選択肢 〻...全体平均より高い 〼...全体平均より低い 〽...平均が0.1~0.49増加 〿...平均が0.1以上減少)

質問	4	3	2	1	集計	平均	標準偏差	全体平均	集計比較
Q1 授業のテーマは、はっきりしていた	人 1480	797	69	12	1	3.59	0.58	3.58	〽
Q2 授業の内容を理解できた	人 1074	1057	183	44	1	3.34	0.70	3.36	〽
Q3 授業の内容に興味・関心をもちた	人 1285	893	144	35	2	3.45	0.68	3.40	〽
Q4 この授業からよい刺激を受け、自分の考えが広がってきたようだ	人 1185	953	182	37	2	3.39	0.70	3.36	〽
Q5 この授業では、学習に集中することができた	人 1083	1058	184	30	4	3.36	0.68	3.35	〽
Q6 授業中に使う教材(テキスト・配布資料など)は適切であった	人 1235	954	140	25	5	3.44	0.66	3.44	〽
Q7 成績評価の仕方が明確に示されていた	人 1128	992	202	34	3	3.36	0.70	3.38	〽
Q8 教員の話し方は明確で聞き取りやすかった	人 1306	847	161	43	2	3.45	0.70	3.46	〽
Q9 教員のプレゼンテーション(授業における伝達方法)は適切であった	人 1278	910	137	31	3	3.46	0.67	3.46	〽
Q10 教員は学生の質問や相談に適切に対応した	人 1325	886	118	24	6	3.49	0.64	3.47	〽
Q11 教員の授業への取り組みに、敬意を感じた	人 1347	881	105	23	3	3.51	0.63	3.52	〽
Q12 教員は学生の反応や理解を見ながら授業を進めた	人 1288	867	146	45	3	3.45	0.70	3.44	〽
Q13 私はこの授業に満足した	人 1240	943	132	41	3	3.44	0.68	3.41	〽
Q14 私は履修科目を選ぶ際にシラバスをよく読んだ	人 701	803	554	296	5	2.81	1.00	2.98	〽
Q15 授業中は意欲的・積極的に取り組んだ	人 1050	1059	206	27	17	3.34	0.68	3.32	〽
Q16 教員から要求された自主学習(予習/復習、宿題や準備)をしましたか	人 1016	973	278	83	9	3.24	0.80	3.20	〽
Q17 この授業で、何回欠席しましたか (基準: 4.0回)、3(1回)、2(2~3回)、1(4回以上))	人 431	412	11.8	3.5	0.4	3.23	0.93	3.15	〽

回答別回答分布表

Q2で授業の理解度が低い群(4.3)の回答分布

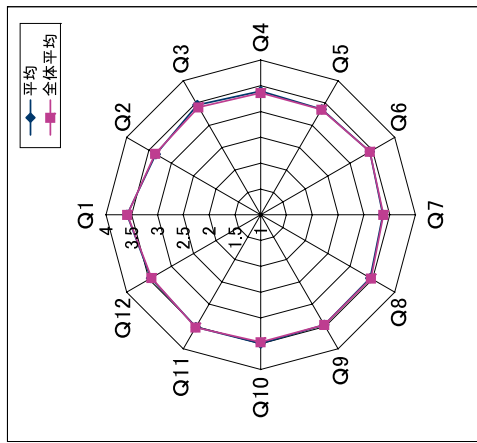
質問	4	3	2	1	集計	平均	標準偏差	全体平均	集計比較
Q6 授業中に使う教材(テキスト・配布資料など)は適切であった	人 1204	857	61	5	4	3.53	0.57	3.55	〽
Q8 教員の話し方は明確で聞き取りやすかった	人 1281	767	74	8	1	3.56	0.58	3.58	〽
Q9 教員のプレゼンテーション(授業における伝達方法)は適切であった	人 1251	819	54	6	1	3.56	0.56	3.57	〽
Q11 教員の授業への取り組みに、敬意を感じた	人 1302	778	45	5	1	3.59	0.55	3.61	〽
Q12 教員は学生の反応や理解を見ながら授業を進めた	人 1263	784	72	11	1	3.55	0.59	3.56	〽
Q15 授業中は意欲的・積極的に取り組んだ	人 1029	964	117	7	14	3.42	0.61	3.43	〽
Q17 この授業で、何回欠席しましたか	人 1116	497	418	95	5	3.24	0.92	3.16	〽

Q2で授業の理解度が低い群(2.1)の回答分布

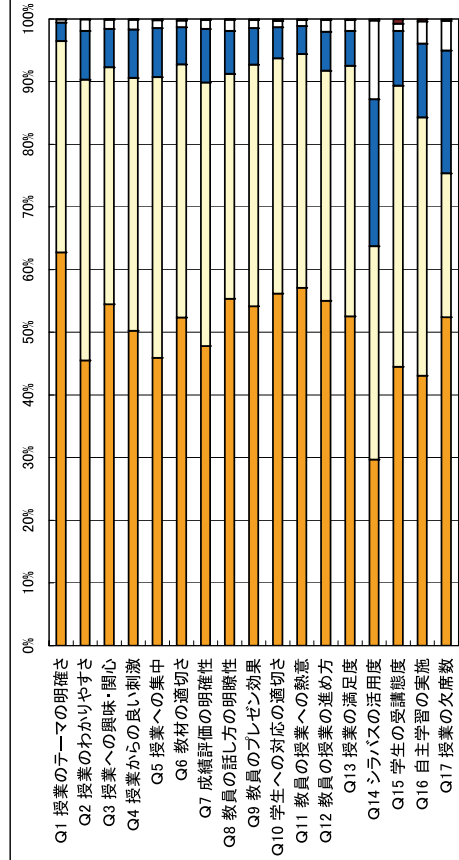
質問	4	3	2	1	集計	平均	標準偏差	全体平均	集計比較
Q6 授業中に使う教材(テキスト・配布資料など)は適切であった	人 31	87	79	20	0	2.61	0.83	2.60	〽
Q8 教員の話し方は明確で聞き取りやすかった	人 25	80	87	35	0	2.42	0.88	2.52	〽
Q9 教員のプレゼンテーション(授業における伝達方法)は適切であった	人 27	91	83	25	1	2.53	0.84	2.56	〽
Q11 教員の授業への取り組みに、敬意を感じた	人 45	103	60	18	1	2.77	0.86	2.78	〽
Q12 教員は学生の反応や理解を見ながら授業を進めた	人 35	83	74	34	1	2.53	0.93	2.52	〽
Q15 授業中は意欲的・積極的に取り組んだ	人 21	95	89	20	2	2.52	0.78	2.47	〽
Q17 この授業で、何回欠席しましたか	人 120	46	44	16	1	3.19	0.99	3.05	〽

評価リーダーチャート

(学生)



評価棒グラフ



〻 そう思う 〼 どちらかと言えばそう思う 〽 そう思う 〿 どちらかと言えばそう思わない 〽 そう思わない 〼 無回答・その他

平成24年度 授業評価アンケート結果集計表

学部 (50)	心理学部	教員	曜日・講時	履修者数	3,024名
科目				回収数 (率)	2,227名 (73.6%)

集計集計

Q1-Q17	回答数				平均	標準偏差	全体平均	標準偏差	全体平均
	4	3	2	1					
Q1 授業のテーマは、はっきりしていた	人 1300	847	66	14	0	3.54	0.59	3.56	
%	56.4	38.0	3.0	0.6	0.0				
Q2 授業の内容を理解できた	人 912	1025	243	45	2	3.26	0.73	3.34	
%	41.0	46.0	10.9	2.0	0.1				
Q3 授業の内容に興味・関心をもちた	人 1043	941	198	44	1	3.34	0.72	3.36	
%	46.8	42.3	8.9	2.0	0.0				
Q4 この授業からよい刺激を受け、自分の考えが広がってきたようだ	人 997	963	233	33	1	3.31	0.72	3.35	
%	44.8	43.2	10.5	1.5	0.0				
Q5 この授業では、学習に集中することができた	人 1062	1006	227	40	1	3.29	0.72	3.34	
%	42.8	45.2	10.2	1.8	0.0				
Q6 授業中に使う教材(テキスト・配布資料など)は適切であった	人 980	1013	194	40	0	3.38	0.68	3.42	
%	44.0	45.5	8.7	1.8	0.0				
Q7 成績評価の仕方が明確に示されていた	人 1137	879	162	48	1	3.39	0.72	3.45	
%	51.1	39.5	7.3	2.2	0.0				
Q8 教員の話し方は明確で聞き取りやすかった	人 1119	920	155	32	1	3.40	0.68	3.44	
%	50.2	41.3	7.0	1.4	0.0				
Q9 教員のプレゼンテーション(授業における伝達方法)は適切であった	人 1114	956	126	29	2	3.42	0.66	3.45	
%	50.0	42.9	5.7	1.3	0.1				
Q10 教員は学生の質問や相談に適切に対応した	人 1194	912	100	19	2	3.47	0.62	3.51	
%	53.6	41.0	4.5	0.9	0.1				
Q11 教員の授業への取り組みに、熱意を感じた	人 1124	920	143	35	5	3.41	0.68	3.43	
%	50.5	41.3	6.4	1.6	0.2				
Q12 教員は学生の反応や理解を見ながら授業を進めた	人 1036	972	177	39	3	3.35	0.70	3.39	
%	46.5	43.6	7.9	1.8	0.1				
Q13 私はこの授業に満足した	人 664	821	475	262	5	2.85	0.98	3.01	
%	23.8	38.9	21.3	11.8	0.2				
Q14 私は履修科目を選んだ際にシラバスをよく読んだ	人 883	1040	260	37	7	3.25	0.72	3.30	
%	39.6	46.7	11.7	1.7	0.3				
Q15 授業中は意欲的・積極的に取り組んだ	人 854	969	307	88	9	3.17	0.81	3.20	
%	36.3	43.5	13.8	4.0	0.4				
Q16 教員から要求された自主学習(予習/復習、宿題や準備)をしましたか	人 944	655	539	82	7	3.11	0.90	3.08	
%	42.4	29.4	24.2	3.7	0.3				

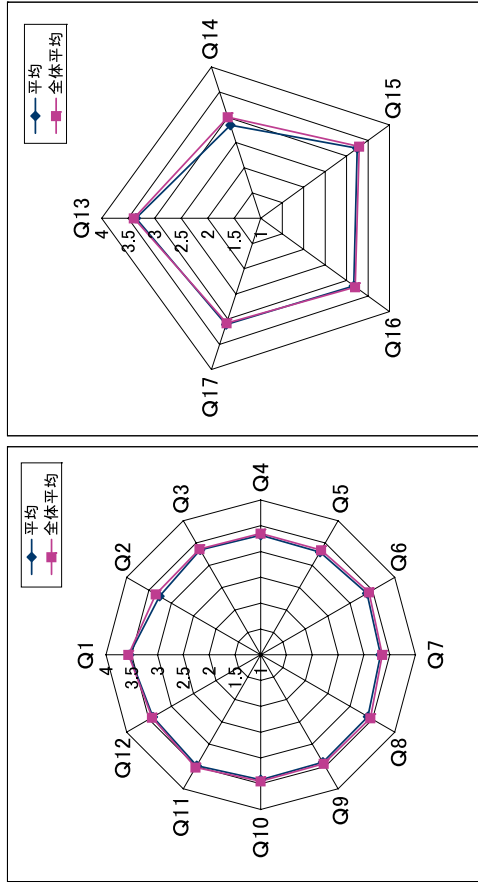
回答群別回答分布表

Q2で授業の理解度が低い群(4.3)の回答分布	Q2で授業の理解度が低い群(2.1)の回答分布							
Q6 授業中に使う教材(テキスト・配布資料など)は適切であった	人 1029	827	74	7	0	3.49	0.59	3.53
Q8 教員の話し方は明確で聞き取りやすかった	人 1094	749	83	10	1	3.51	0.61	3.57
Q9 教員のプレゼンテーション(授業における伝達方法)は適切であった	人 1079	774	79	4	1	3.51	0.59	3.56
Q11 教員の授業への取り組みに、熱意を感じた	人 1129	754	49	3	2	3.56	0.55	3.61
Q12 教員は学生の反応や理解を見ながら授業を進めた	人 1074	780	70	8	5	3.51	0.59	3.55
Q15 授業中は意欲的・積極的に取り組んだ	人 850	912	153	15	7	3.35	0.66	3.41
Q17 この授業で、何回出席しましたか	人 808	589	470	63	7	3.11	0.88	3.09

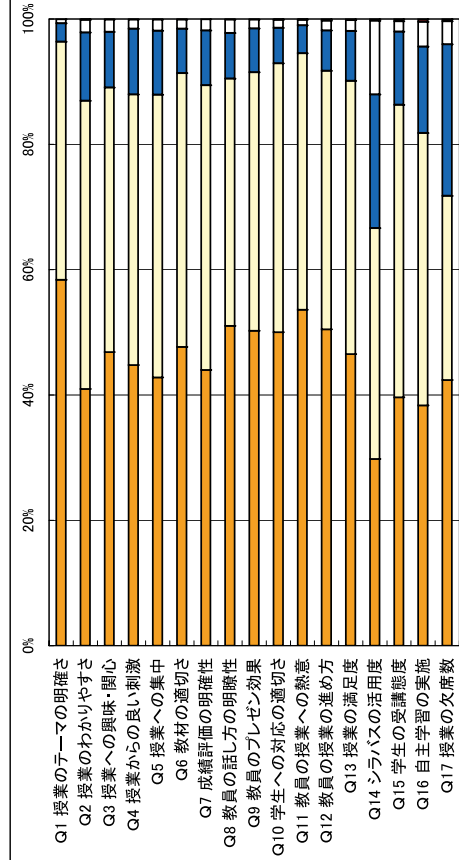
Q2で授業の理解度が低い群(2.1)の回答分布								
Q6 授業中に使う教材(テキスト・配布資料など)は適切であった	人 33	146	82	26	1	2.65	0.80	2.53
Q8 教員の話し方は明確で聞き取りやすかった	人 42	129	79	38	0	2.61	0.89	2.51
Q9 教員のプレゼンテーション(授業における伝達方法)は適切であった	人 40	144	76	28	0	2.68	0.83	2.49
Q11 教員の授業への取り組みに、熱意を感じた	人 65	157	50	16	0	2.94	0.79	2.75
Q12 教員は学生の反応や理解を見ながら授業を進めた	人 50	136	73	27	0	2.73	0.85	2.45
Q15 授業中は意欲的・積極的に取り組んだ	人 33	128	107	22	0	2.59	0.79	2.47
Q17 この授業で、何回出席しましたか	人 136	64	69	19	0	3.10	0.98	3.00

評価レーダーチャート

(学生)



評価棒グラフ



■ そう思う □ どちらかと言えばそう思う □ どちらかと言えばそう思わない □ そう思わない ■ 無回答・その他

平成24年度 授業評価アンケート結果集計表

研究科 全学	教員	曜日・講時	
専攻		履修者数	381名
科目		回収数(率)	353名 92.7%

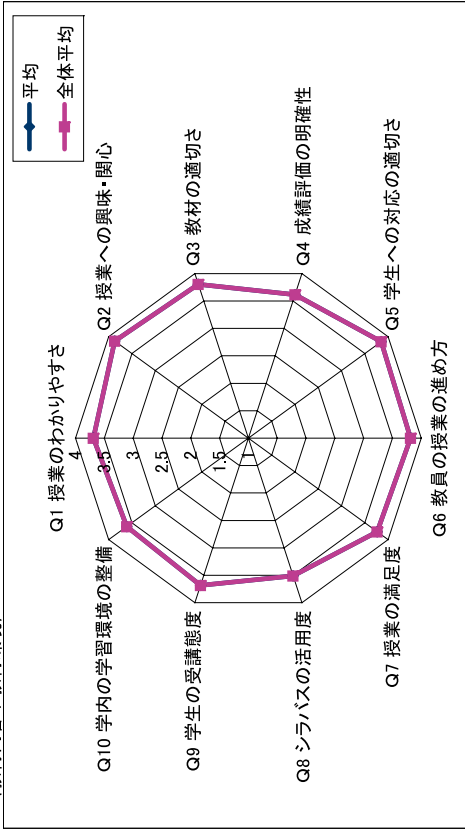
単集計

Q	内容	回答数					平均	標準偏差	全体平均	経年比較
		4	3	2	1	無回答				
Q1	授業の内容を理解できた	人 249 % 70.5	97 27.5	7 2.0	0 0.0	0 0.0	3.69	0.51	3.69	○
Q2	授業の内容に興味・関心をもてた	人 309 % 87.5	41 11.6	3 0.8	0 0.0	0 0.0	3.87	0.36	3.87	
Q3	授業中に使う教材(テキスト・配布資料など)は適切であった	人 291 % 82.4	57 16.1	4 1.1	1 0.3	0 0.0	3.81	0.44	3.81	
Q4	成績評価の仕方が明確に示されていた	人 225 % 63.7	117 33.1	9 2.5	0 0.0	2 0.6	3.62	0.54	3.62	○
Q5	教員は学生の質問や相談に適切に対応した	人 301 % 85.3	50 14.2	1 0.3	0 0.0	0 0.0	3.84	0.39	3.84	
Q6	教員は学生の反応や理解を見ながら授業を進めた	人 291 % 82.4	58 16.4	3 0.8	1 0.3	0 0.0	3.81	0.43	3.81	
Q7	私はこの授業に満足した	人 273 % 77.3	75 21.2	5 1.4	0 0.0	0 0.0	3.76	0.46	3.76	
Q8	私は履修科目を選ぶ際にシラバスをよく読んだ	人 196 % 55.5	142 40.2	14 4.0	1 0.3	0 0.0	3.51	0.59	3.51	○
Q9	授業中は意欲的・積極的に取り組んだ	人 248 % 70.3	98 27.8	7 2.0	0 0.0	0 0.0	3.68	0.51	3.68	
Q10	自習室、研究設備等、学内の学習環境は十分に整備されている	人 240 % 66.0	80 22.7	25 7.1	2 0.6	6 1.7	3.61	0.65	3.61	▼

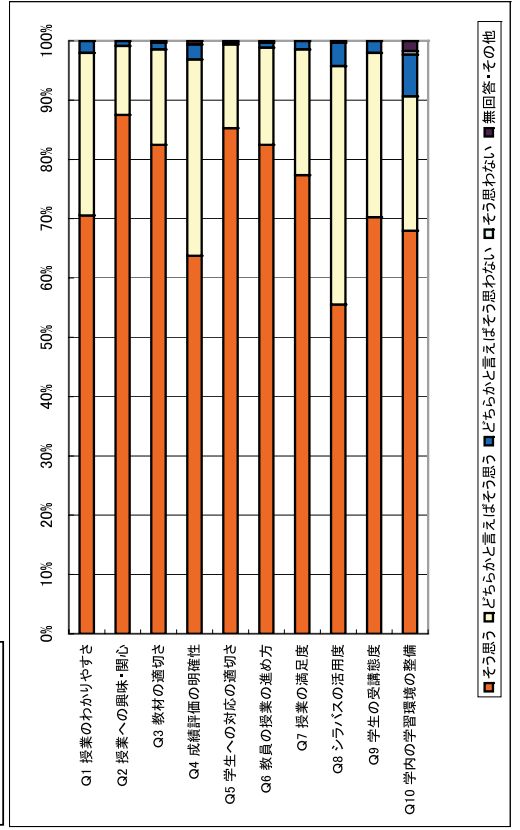
(□ ……一番回答の多い選択肢 □ ……全体平均より高い ◎ ……去年より平均が0.5以上増加 ○ ……平均が0.1~0.49増加 ▼ ……平均が0.1以上減少)

評価レーダーチャート

(教育内容や学習環境)



評価帯グラフ



平成24年度 授業評価アンケート結果集計表

研究科 全学	教員	曜日・講時	
専攻		履修者数	209名
科目		回収数(率)	191名 91.4%

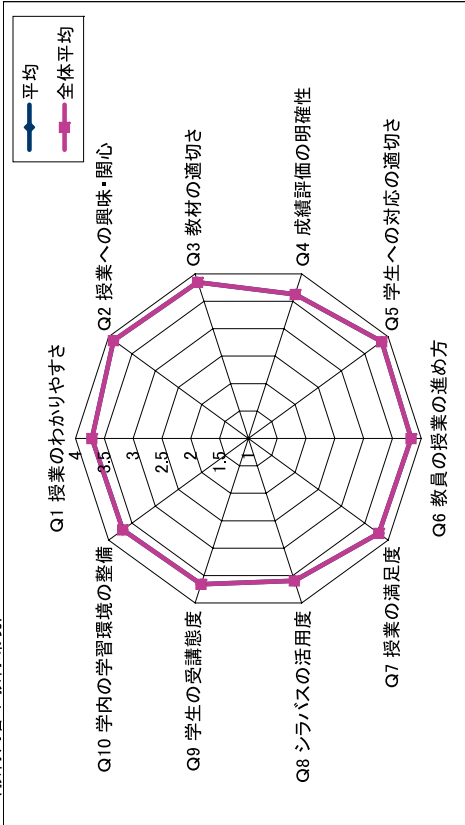
単純集計

(■ ……一番回答の多い選択肢 □ ……全体平均より高い ◎ ……去年より平均が0.5以上増加 ○ ……平均が0.1～0.49増加 ▼ ……平均が0.1以上減少)

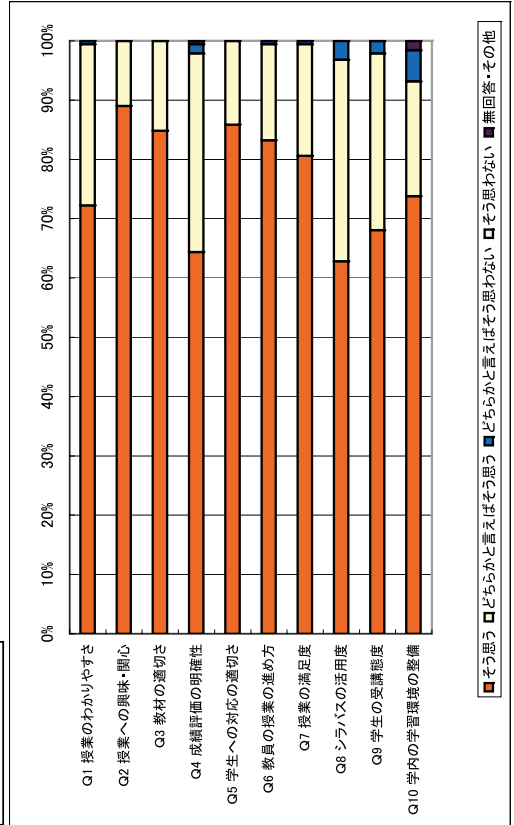
	4	3	2	1	無回答	平均	標準偏差	全体平均	経年比較
Q1 授業の内容を理解できた	人 138 % 72.3	52 27.2	1 0.5	0 0.0	0 0.0	3.72	0.46	3.72	○
Q2 授業の内容に興味・関心をもてた	人 170 % 89.0	21 11.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	3.89	0.31	3.89	
Q3 授業中に使う教材(テキスト・配布資料など)は適切であった	人 162 % 84.8	29 15.2	0 0.0	0 0.0	0 0.0	3.85	0.36	3.85	○
Q4 成績評価の仕方が明確に示されていた	人 123 % 64.4	64 33.5	3 1.6	0 0.0	1 0.5	3.63	0.51	3.63	○
Q5 教員は学生の質問や相談に適切に対応した	人 164 % 85.9	27 14.1	0 0.0	0 0.0	0 0.0	3.86	0.35	3.86	
Q6 教員は学生の反応や理解を見ながら授業を進めた	人 159 % 83.2	31 16.2	1 0.5	0 0.0	0 0.0	3.83	0.39	3.83	
Q7 私はこの授業に満足した	人 154 % 80.6	36 18.8	1 0.5	0 0.0	0 0.0	3.80	0.41	3.80	
Q8 私は履修科目を選ぶ際にシラバスをよく読んだ	人 120 % 62.8	65 34.0	6 3.1	0 0.0	0 0.0	3.60	0.55	3.60	○
Q9 授業中は意欲的・積極的に取り組んだ	人 130 % 68.1	57 29.8	4 2.1	0 0.0	0 0.0	3.66	0.52	3.66	
Q10 自習室、研究設備等、学内の学習環境は十分に整備されている	人 141 % 73.8	37 19.4	10 5.2	0 0.0	3 1.6	3.70	0.56	3.70	

評価レダーチャート

(教育内容や教育環境)



評価帯グラフ



平成24年度 授業評価アンケート結果集計表

研究科 全学	教員	曜日・講時
専攻	履修者数	172名
科目	回収数(率)	162名 94.2%

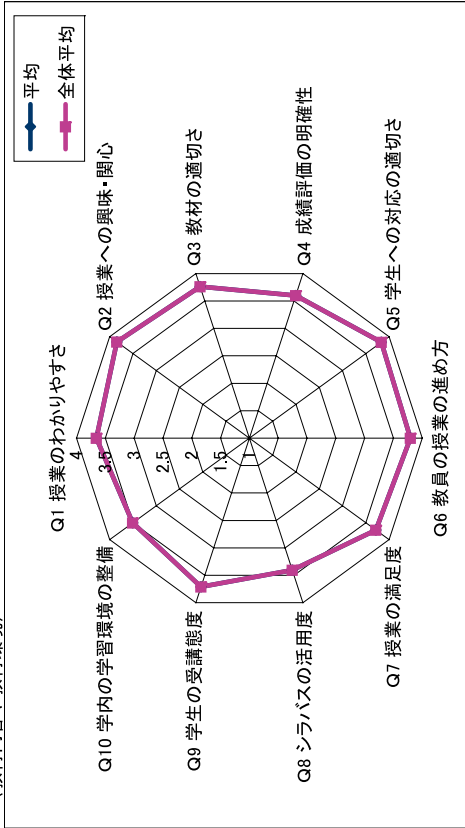
単集計

(■ …一番回答の多い選択肢 □ …全体平均より高い ◎ …去年より平均が0.5以上増加 ○ …平均が0.1～0.49増加 ▼ …平均が0.1以上減少)

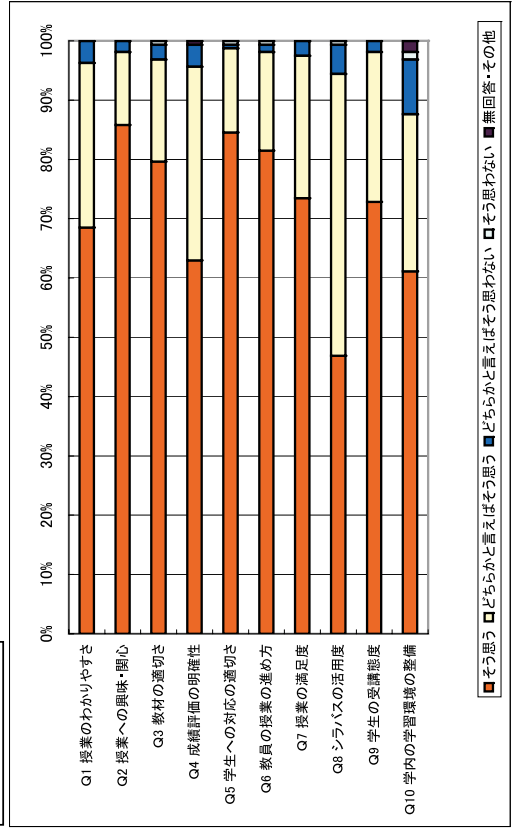
	4	3	2	1	無回答	平均	標準偏差	全体平均	経年比較
Q1 授業の内容を理解できた	人 111	45	6	0	0	3.65	0.55	3.65	○
	% 68.5	27.8	3.7	0.0	0.0				
Q2 授業の内容に興味・関心をもてた	人 139	20	3	0	0	3.84	0.41	3.84	
	% 85.8	12.3	1.9	0.0	0.0				
Q3 授業中に使う教材(テキスト・配布資料など)は適切であった	人 129	28	4	1	0	3.76	0.52	3.76	
	% 79.6	17.3	2.5	0.6	0.0				
Q4 成績評価の仕方が明確に示されていた	人 102	53	6	0	1	3.60	0.56	3.60	○
	% 63.0	32.7	3.7	0.0	0.6				
Q5 教員は学生の質問や相談に適切に対応した	人 137	23	1	1	0	3.83	0.44	3.83	
	% 84.6	14.2	0.6	0.6	0.0				
Q6 教員は学生の反応や理解を見ながら授業を進めた	人 132	27	2	1	0	3.79	0.48	3.79	
	% 81.5	16.7	1.2	0.6	0.0				
Q7 私はこの授業に満足した	人 119	39	4	0	0	3.71	0.51	3.71	
	% 73.5	24.1	2.5	0.0	0.0				
Q8 私は履修科目を選ぶ際にシラバスをよく読んだ	人 76	77	8	1	0	3.41	0.61	3.41	○
	% 46.9	47.5	4.9	0.6	0.0				
Q9 授業中は意欲的・積極的に取り組んだ	人 118	41	3	0	0	3.71	0.49	3.71	
	% 72.8	25.3	1.9	0.0	0.0				
Q10 自習室、研究設備等、学内の学習環境は十分に整備されている	人 99	43	15	2	3	3.50	0.72	3.50	▼
	% 61.1	26.5	9.3	1.2	1.9				

評価レーダーチャート

(教育内容や学習環境)



評価帯グラフ



平成24年度 授業評価アンケート結果集計表

研究科(001) 人間文化研究科	教員	曜日・講時	
専攻		履修者数	92名
科目		回収数(率)	81名 88.0%

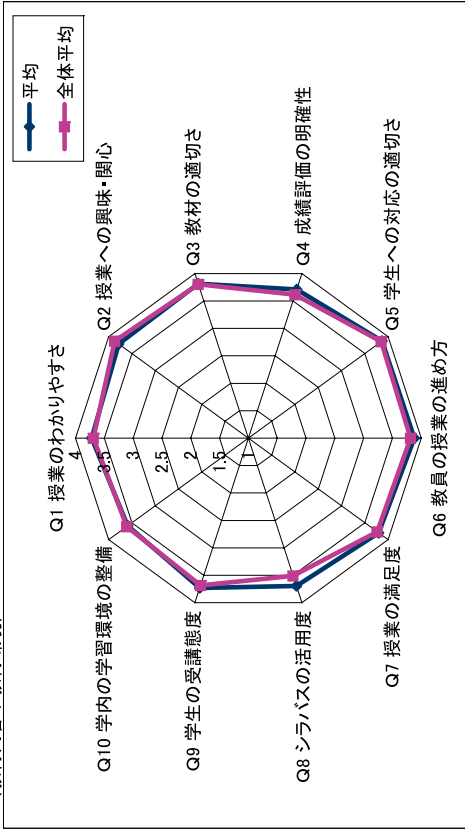
単集計

質問	回答数					平均	標準偏差	全体平均	経年比較
	4	3	2	1	無回答				
Q1 授業の内容を理解できた	60 74.1%	19 23.5%	2 2.5%	0 0.0%	0 0.0%	3.72	0.50	3.69	○
Q2 授業の内容に興味・関心をもてた	64 79.0%	16 19.8%	1 1.2%	0 0.0%	0 0.0%	3.78	0.44	3.87	
Q3 授業中に使う教材(テキスト・配布資料など)は適切であった	67 82.7%	13 16.0%	1 1.2%	0 0.0%	0 0.0%	3.81	0.42	3.81	
Q4 成績評価の仕方が明確に示されていた	59 72.8%	19 23.5%	2 2.5%	0 0.0%	1 1.2%	3.71	0.50	3.62	
Q5 教員は学生の質問や相談に適切に対応した	70 86.4%	11 13.6%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	3.86	0.34	3.84	
Q6 教員は学生の反応や理解を見ながら授業を進めた	71 87.7%	10 12.3%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	3.88	0.33	3.81	
Q7 私はこの授業に満足した	65 80.2%	15 18.5%	1 1.2%	0 0.0%	0 0.0%	3.79	0.44	3.76	
Q8 私は履修科目を選ぶ際にシラバスをよく読んだ	59 72.8%	19 23.5%	3 3.7%	0 0.0%	0 0.0%	3.69	0.54	3.51	○
Q9 授業中は意欲的・積極的に取り組んだ	60 74.1%	20 24.7%	1 1.2%	0 0.0%	0 0.0%	3.73	0.47	3.68	
Q10 自習室、研究設備等、学内の学習環境は十分に整備されている	54 66.7%	20 24.7%	5 6.2%	1 1.2%	1 1.2%	3.59	0.67	3.61	

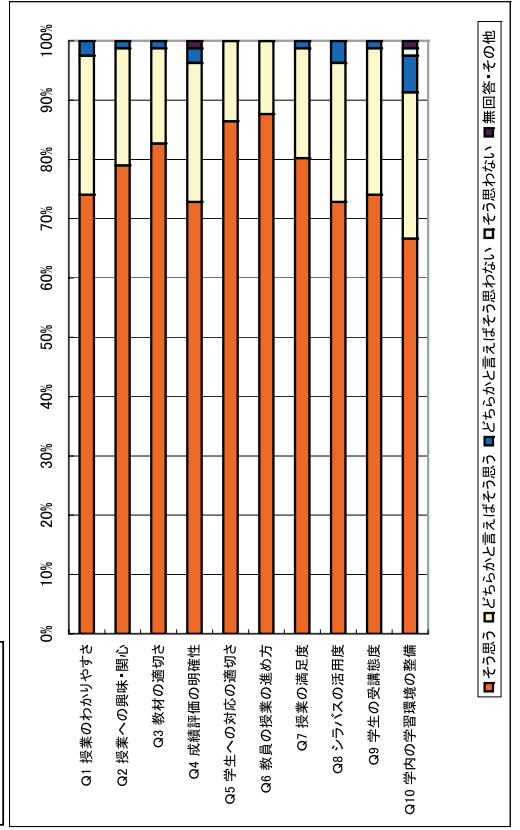
(・・・一番回答の多い選択肢 □・・・去年より平均が0.5以上増加 ○・・・平均が0.1～0.49増加 ▼・・・平均が0.1以上減少)

評価レダーチャート

(教育内容や学習環境)



評価帯グラフ



平成24年度 授業評価アンケート結果集計表

研究科(001) 人間文化研究科	教員	曜日・講時	
専攻		履修者数	57名
科目		回収数(率)	48名 84.2%

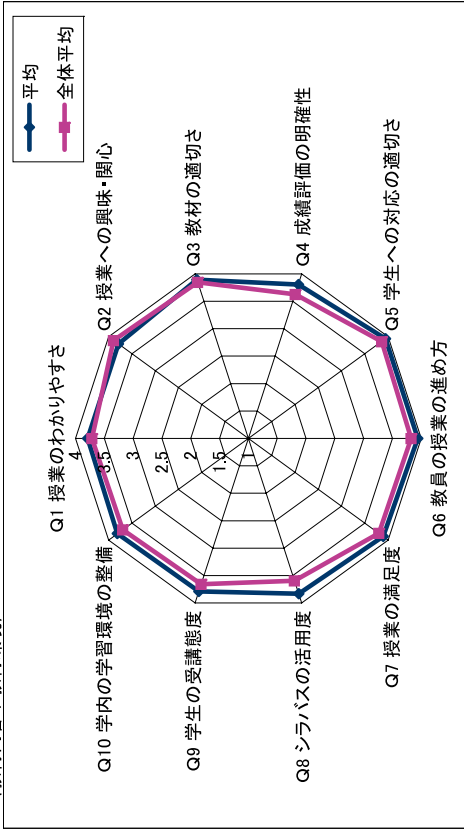
単純集計

Q	回答数					平均	標準偏差	全体平均	経年比較
	4	3	2	1	無回答				
Q1	38 79.2%	10 20.8%	0	0	0	3.79	0.41	3.72	○
Q2	38 79.2%	10 20.8%	0	0	0	3.79	0.41	3.89	
Q3	43 89.6%	5 10.4%	0	0	0	3.90	0.31	3.85	○
Q4	38 79.2%	9 18.8%	0	0	1	3.81	0.39	3.63	○
Q5	45 93.8%	3 6.3%	0	0	0	3.94	0.24	3.86	○
Q6	45 93.8%	3 6.3%	0	0	0	3.94	0.24	3.83	○
Q7	43 89.6%	5 10.4%	0	0	0	3.90	0.31	3.80	○
Q8	40 83.3%	8 16.7%	0	0	0	3.83	0.37	3.60	◎
Q9	38 79.2%	10 20.8%	0	0	0	3.79	0.41	3.66	○
Q10	38 79.2%	9 18.8%	0	0	1	3.81	0.39	3.70	○

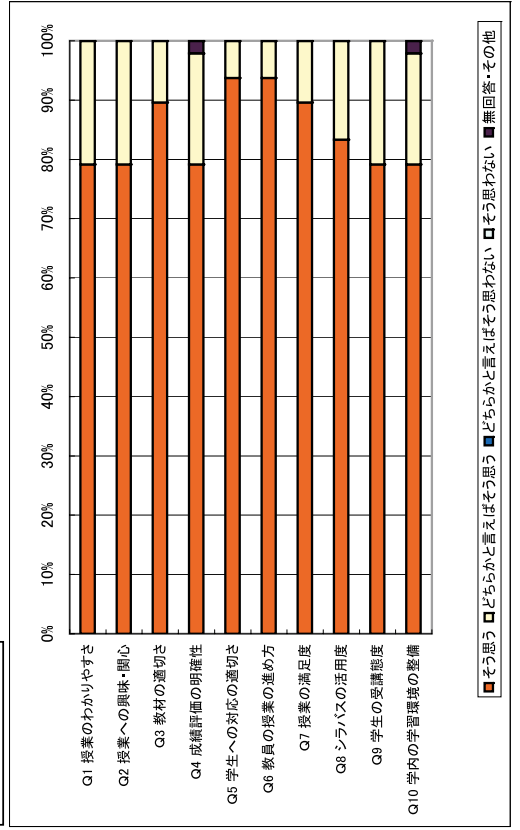
(□…一番回答の多い選択肢 □…全体平均より高い ◎…去年より平均が0.5以上増加 ○…平均が0.1~0.49増加 ▼…平均が0.1以上減少)

評価レダーチャート

(教育内容や教育環境)



評価帯グラフ



平成24年度 授業評価アンケート結果集計表

研究科(001) 人間文化研究科	教員	曜日・講時	
専攻		履修者数	35名
科目		回収数(率)	33名 94.3%

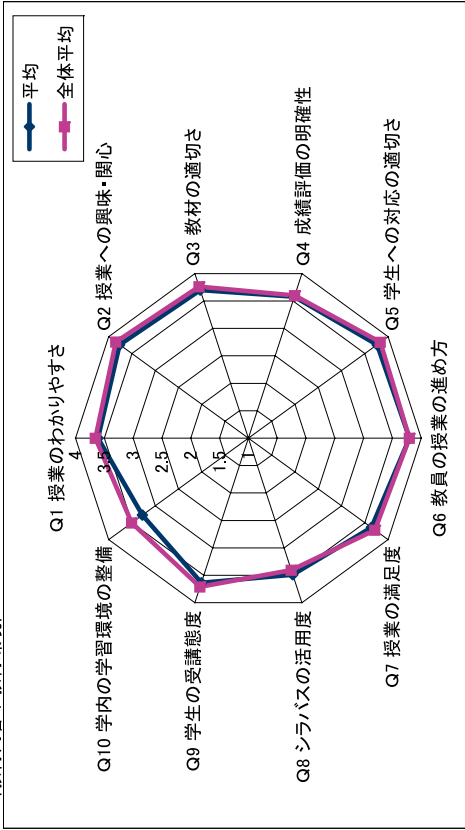
単純集計

(■ ……一番回答の多い選択肢 □ ……全体平均より高い ◎ ……去年より平均が0.5以上増加 ○ ……平均が0.1~0.49増加 ▼ ……平均が0.1以上減少)

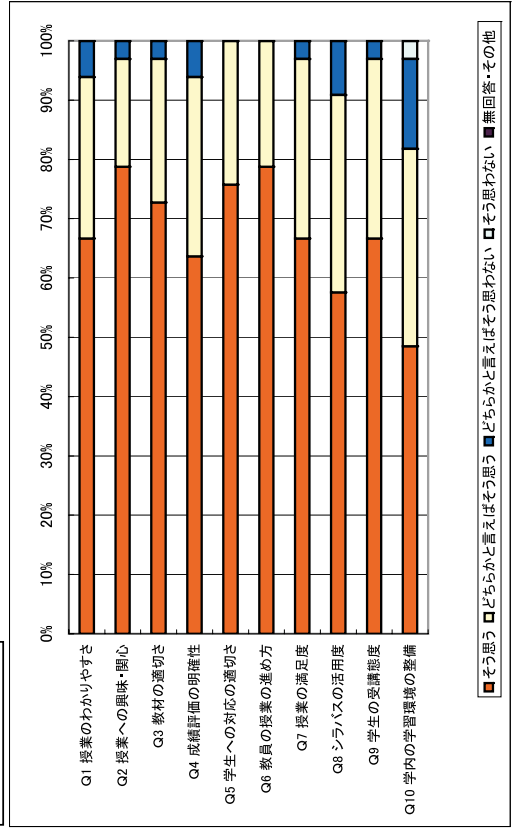
質問	4	3	2	1	無回答	平均	標準偏差	全体平均	経年比較
Q1 授業の内容を理解できた	人 22 % 66.7	9 27.3	2 6.1	0 0.0	0 0.0	3.61	0.60	3.65	
Q2 授業の内容に興味・関心をもてた	人 26 % 78.8	6 18.2	1 3.0	0 0.0	0 0.0	3.76	0.49	3.84	
Q3 授業中に使う教材(テキスト・配布資料など)は適切であった	人 24 % 72.7	8 24.2	1 3.0	0 0.0	0 0.0	3.70	0.52	3.76	▼
Q4 成績評価の仕方が明確に示されていた	人 21 % 63.6	10 30.3	2 6.1	0 0.0	0 0.0	3.58	0.60	3.60	▼
Q5 教員は学生の質問や相談に適切に対応した	人 25 % 75.8	8 24.2	0 0.0	0 0.0	0 0.0	3.76	0.43	3.83	
Q6 教員は学生の反応や理解を見ながら授業を進めた	人 26 % 78.8	7 21.2	0 0.0	0 0.0	0 0.0	3.79	0.41	3.79	
Q7 私はこの授業に満足した	人 22 % 66.7	10 30.3	1 3.0	0 0.0	0 0.0	3.64	0.54	3.71	▼
Q8 私は履修科目を選ぶ際にシラバスをよく読んだ	人 19 % 57.6	11 33.3	3 9.1	0 0.0	0 0.0	3.48	0.66	3.41	▼
Q9 授業中は意欲的・積極的に取り組んだ	人 22 % 66.7	10 30.3	1 3.0	0 0.0	0 0.0	3.64	0.54	3.71	▼
Q10 自習室、研究設備等、学内の学習環境は十分に整備されている	人 16 % 48.5	11 33.3	5 15.2	1 3.0	0 0.0	3.27	0.83	3.50	▼

評価レーダーチャート

(教育内容や学習環境)



評価帯グラフ



平成24年度 授業評価アンケート結果集計表

研究科(001) 人間文化研究科	教員	曜日・講時	
専攻 (21) 応用英語専攻		履修者数	10名
科目		回収数(率)	10名 100.0%

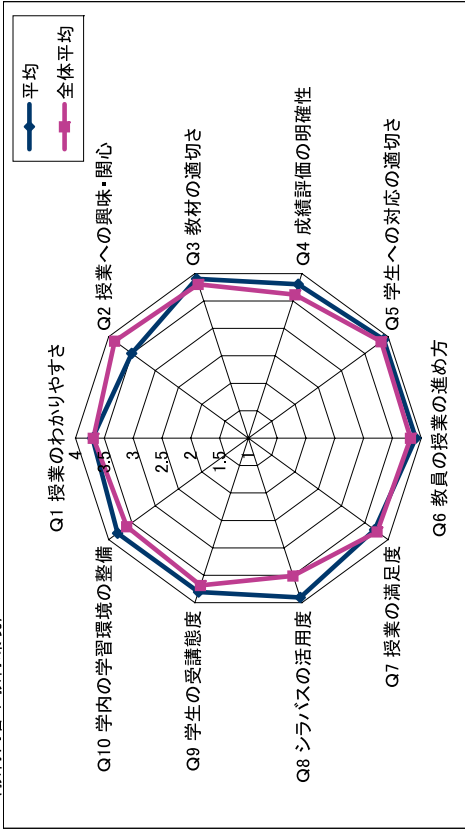
単集計

Q	回答数					平均	標準偏差	全体平均	経年比較
	4	3	2	1	無回答				
Q1	7	3	0	0	0	3.70	0.46	3.69	○
Q2	5	5	0	0	0	3.50	0.50	3.87	▼
Q3	9	1	0	0	0	3.90	0.30	3.81	○
Q4	8	2	0	0	0	3.80	0.40	3.62	○
Q5	9	1	0	0	0	3.90	0.30	3.84	○
Q6	9	1	0	0	0	3.90	0.30	3.81	○
Q7	7	3	0	0	0	3.70	0.46	3.76	○
Q8	9	1	0	0	0	3.90	0.30	3.51	○
Q9	8	2	0	0	0	3.80	0.40	3.68	○
Q10	8	2	0	0	0	3.80	0.40	3.61	○

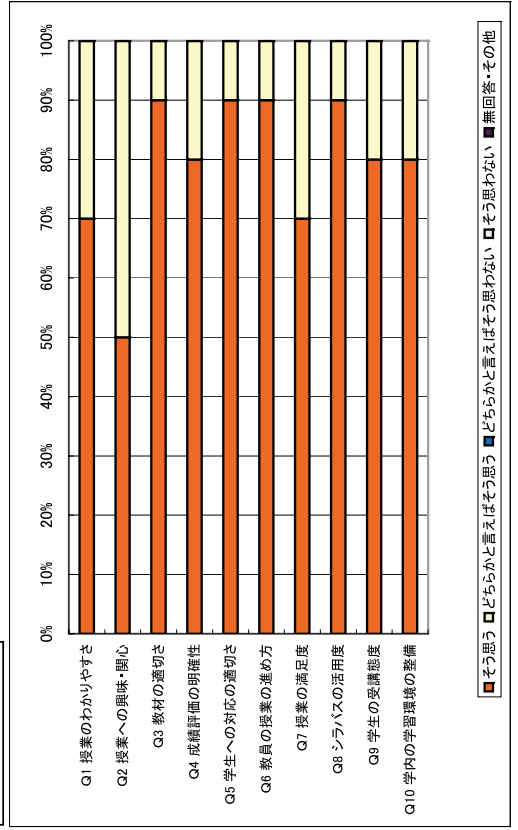
(□ ……一番回答の多い選択肢 □ ……全体平均より高い ◎ ……去年より平均が0.5以上増加 ○ ……平均が0.1～0.49増加 ▼ ……平均が0.1以上減少)

評価リーダーチャート

(教育内容や学習環境)



評価帯グラフ



平成24年度 授業評価アンケート結果集計表

研究科(001) 人間文化研究科	教員	曜日・講時	
専攻 (21) 応用英語専攻		履修者数	6名
科目		回収数(率)	6名 100.0%

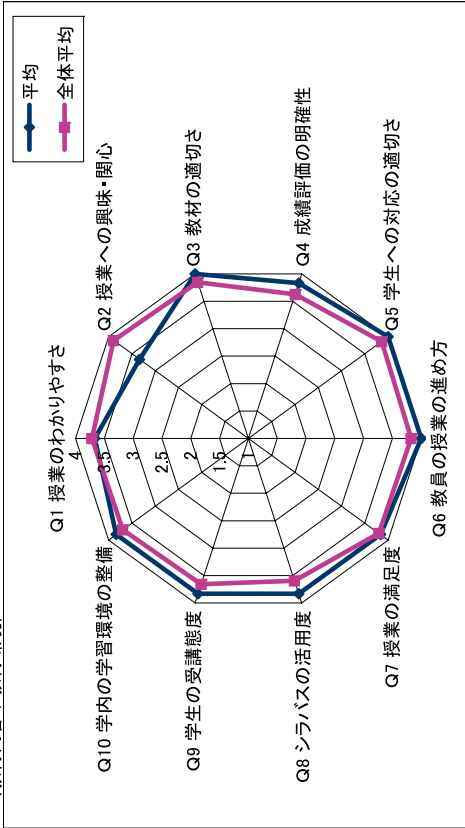
単純集計

Q	回答数					平均	標準偏差	全体平均	経年比較
	4	3	2	1	無回答				
Q1	人 4	33.3	0	0	0	3.67	0.47	3.72	○
Q2	人 2	66.7	4	0	0	3.33	0.47	3.89	▼
Q3	人 6	100.0	0	0	0	4.00	0.00	3.85	◎
Q4	人 5	83.3	1	0	0	3.83	0.37	3.63	○
Q5	人 6	100.0	0	0	0	4.00	0.00	3.86	◎
Q6	人 6	100.0	0	0	0	4.00	0.00	3.83	○
Q7	人 5	83.3	1	0	0	3.83	0.37	3.80	◎
Q8	人 5	83.3	1	0	0	3.83	0.37	3.60	○
Q9	人 5	83.3	1	0	0	3.83	0.37	3.66	◎
Q10	人 5	83.3	1	0	0	3.83	0.37	3.70	○

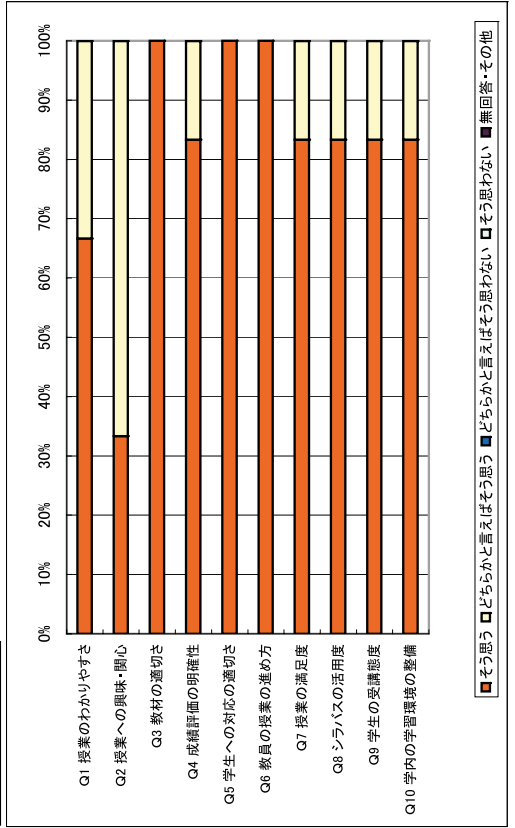
(〇 ……一番回答の多い選択肢 □ ……全体平均より高い ◎ ……去年より平均が0.5以上増加 ○ ……平均が0.1~0.49増加 ▼ ……平均が0.1以上減少)

評価レーダーチャート

(教育内容や教育環境)



評価棒グラフ



平成24年度 授業評価アンケート結果集計表

研究科(001) 人間文化研究科	教員	曜日・講時	
専攻 (21) 応用英語専攻		履修者数	4名
科目		回収数(率)	4名 100.0%

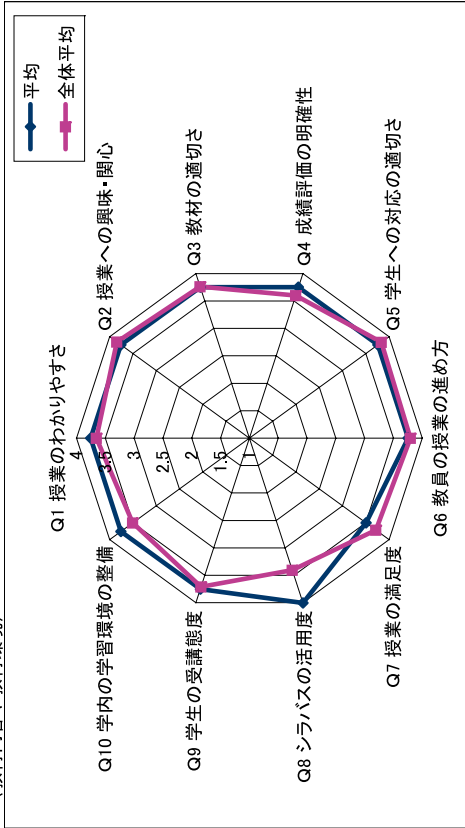
単純集計

(〇 ……一番回答の多い選択肢 □ ……全体平均より高い ◎ ……去年より平均が0.5以上増加 ○ ……平均が0.1~0.49増加 ▼ ……平均が0.1以上減少)

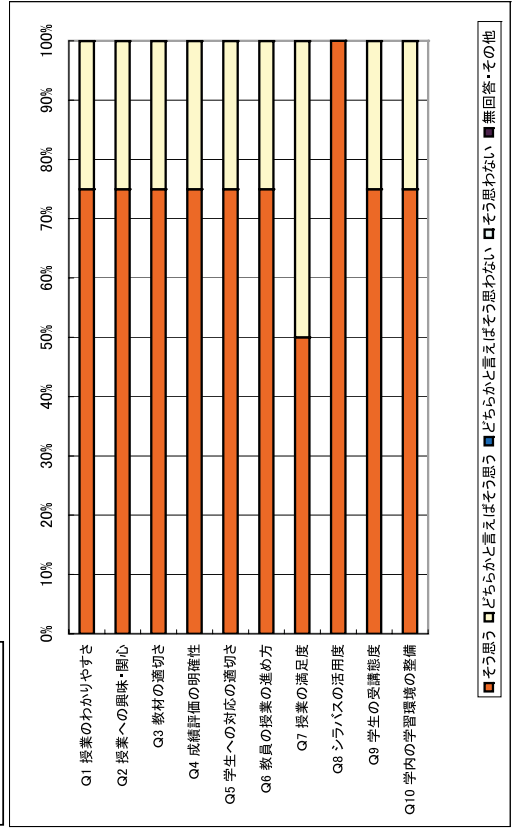
質問	4	3	2	1	無回答	平均	標準偏差	全体平均	経年比較
Q1 授業の内容を理解できた	人 3 % 75.0	1 25.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	3.75	0.43	3.65	○
Q2 授業の内容に興味・関心をもてた	人 3 % 75.0	1 25.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	3.75	0.43	3.84	
Q3 授業中に使う教材(テキスト・配布資料など)は適切であった	人 3 % 75.0	1 25.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	3.75	0.43	3.76	▼
Q4 成績評価の仕方が明確に示されていた	人 3 % 75.0	1 25.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	3.75	0.43	3.60	
Q5 教員は学生の質問や相談に適切に対応した	人 3 % 75.0	1 25.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	3.75	0.43	3.83	
Q6 教員は学生の反応や理解を見ながら授業を進めた	人 3 % 75.0	1 25.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	3.75	0.43	3.79	
Q7 私はこの授業に満足した	人 2 % 50.0	2 50.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	3.50	0.50	3.71	▼
Q8 私は履修科目を選ぶ際にシラバスをよく読んだ	人 4 % 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4.00	0.00	3.41	○
Q9 授業中は意欲的・積極的に取り組んだ	人 3 % 75.0	1 25.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	3.75	0.43	3.71	▼
Q10 自習室、研究設備等、学内の学習環境は十分に整備されている	人 3 % 75.0	1 25.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	3.75	0.43	3.50	

評価リーダーチャート

(教育内容や学習環境)



評価帯グラフ



平成24年度 授業評価アンケート結果集計表

研究科(001) 人間文化研究科	教員	曜日・講時	
専攻(28) 人間文化専攻		履修者数	61名
科目		回収数(率)	55名 90.2%

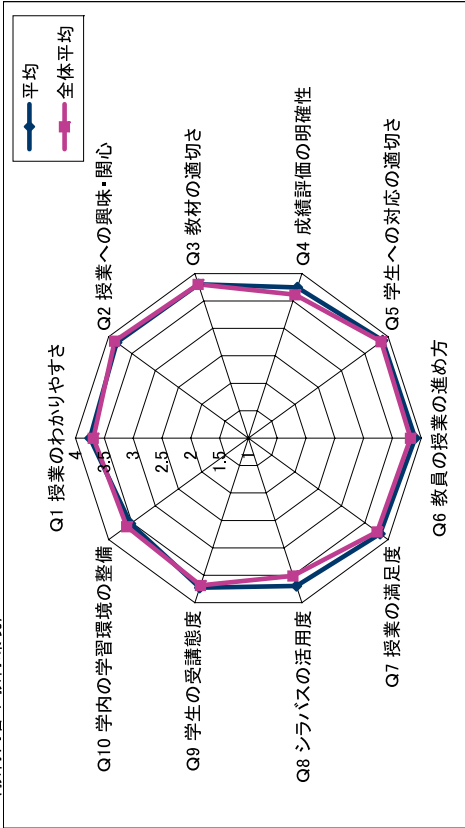
単純集計

Q	回答の多い選択肢				平均	標準偏差	全体平均	経年比較
	4	3	2	1				
Q1	人 43 % 78.2	10 18.2	2 3.6	0 0.0	3.75	0.51	3.69	
Q2	人 46 % 83.6	8 14.5	1 1.8	0 0.0	3.82	0.43	3.87	
Q3	人 45 % 81.8	9 16.4	1 1.8	0 0.0	3.80	0.44	3.81	
Q4	人 43 % 78.2	10 18.2	2 3.6	0 0.0	3.75	0.51	3.62	
Q5	人 48 % 87.3	7 12.7	0 0.0	0 0.0	3.87	0.33	3.84	
Q6	人 49 % 89.1	6 10.9	0 0.0	0 0.0	3.89	0.31	3.81	
Q7	人 46 % 83.6	8 14.5	1 1.8	0 0.0	3.82	0.43	3.76	
Q8	人 40 % 72.7	13 23.6	2 3.6	0 0.0	3.69	0.54	3.51	○
Q9	人 41 % 74.5	13 23.6	1 1.8	0 0.0	3.73	0.48	3.68	
Q10	人 36 % 65.5	13 23.6	5 9.1	1 1.8	3.53	0.73	3.61	▼

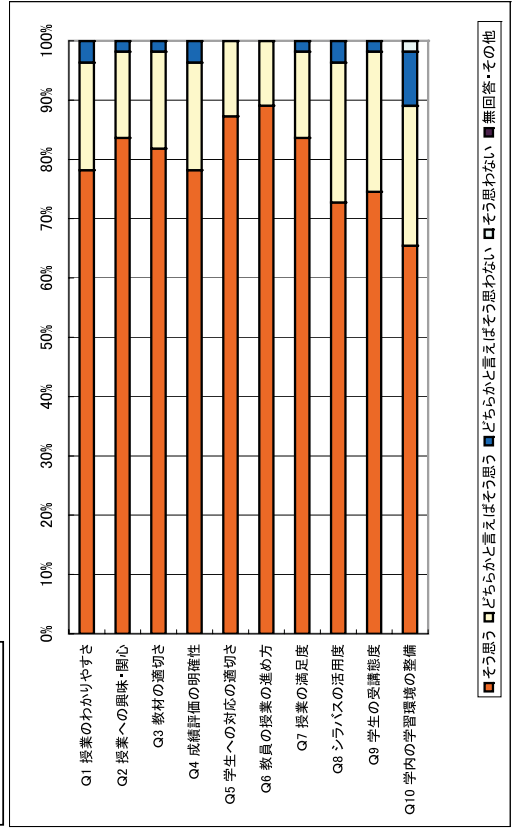
(□ ……一番回答の多い選択肢 □ ……全体平均より高い ◎ ……去年より平均が0.5以上増加 ○ ……平均が0.1～0.49増加 ▼ ……平均が0.1以上減少)

評価レーダーチャート

(教育内容や学習環境)



評価帯グラフ



平成24年度 授業評価アンケート結果集計表

研究科(001) 人間文化研究科	教員	曜日・講時	
専攻 (28) 人間文化専攻		履修者数	37名
科目		回収数(率)	32名 86.5%

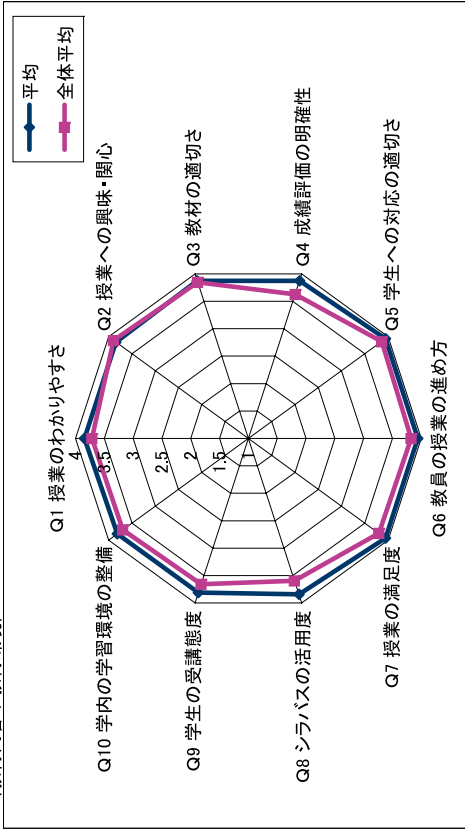
単集計

Q	回答数					平均	標準偏差	全体平均	経年比較
	4	3	2	1	無回答				
Q1	人 27 % 84.4	5 15.6	0 0.0	0 0.0	0 0.0	3.84	0.36	3.72	○
Q2	人 27 % 84.4	5 15.6	0 0.0	0 0.0	0 0.0	3.84	0.36	3.89	
Q3	人 28 % 87.5	4 12.5	0 0.0	0 0.0	0 0.0	3.88	0.33	3.85	
Q4	人 28 % 87.5	4 12.5	0 0.0	0 0.0	0 0.0	3.88	0.33	3.63	○
Q5	人 30 % 93.8	2 6.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	3.94	0.24	3.86	○
Q6	人 30 % 93.8	2 6.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	3.94	0.24	3.83	○
Q7	人 30 % 93.8	2 6.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	3.94	0.24	3.80	○
Q8	人 27 % 84.4	5 15.6	0 0.0	0 0.0	0 0.0	3.84	0.36	3.60	◎
Q9	人 26 % 81.3	6 18.8	0 0.0	0 0.0	0 0.0	3.81	0.39	3.66	
Q10	人 26 % 81.3	6 18.8	0 0.0	0 0.0	0 0.0	3.81	0.39	3.70	

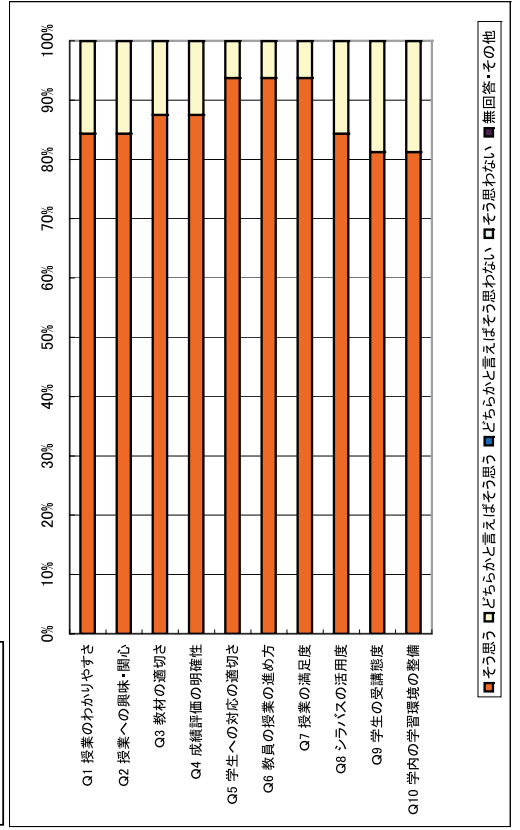
(□ ……一番回答の多い選択肢 □ ……全体平均より高い ◎ ……去年より平均が0.5以上増加 ○ ……平均が0.1～0.49増加 ▼ ……平均が0.1以上減少)

評価レダーチャート

(教育内容や教育環境)



評価帯グラフ



平成24年度 授業評価アンケート結果集計表

研究科(001) 人間文化研究科	教員	曜日・講時	
専攻 (28) 人間文化専攻		履修者数	24名
科目		回収数(率)	23名 95.8%

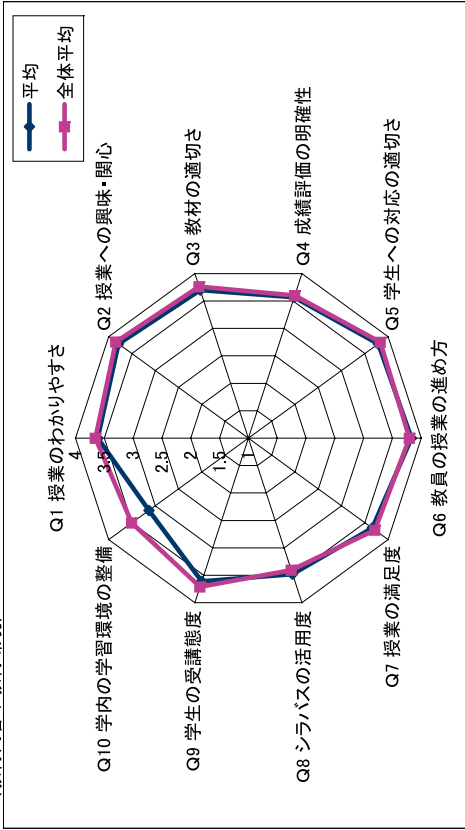
単純集計

(■ ……一番回答の多い選択肢 □ ……全体平均より高い ◎ ……去年より平均が0.5以上増加 ○ ……平均が0.1~0.49増加 ▼ ……平均が0.1以上減少)

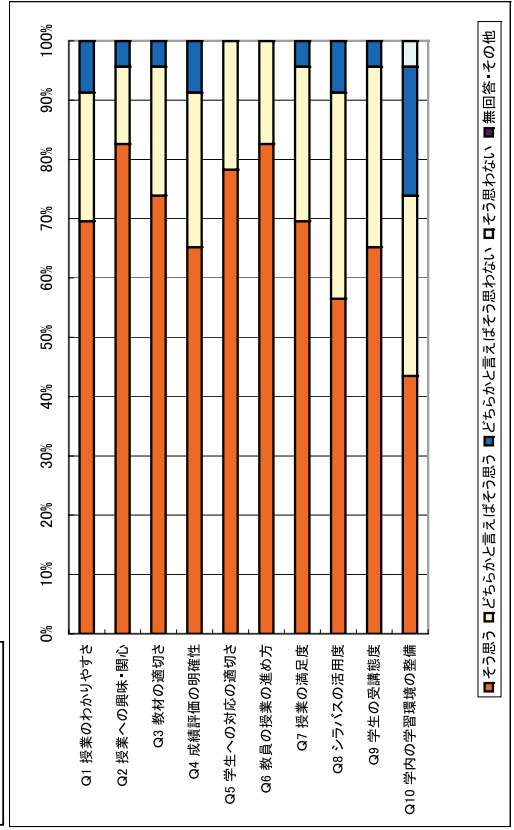
Q	回答数				平均	標準偏差	全体平均	経年比較
	4	3	2	1				
Q1	16人 69.6%	5 21.7%	2 8.7%	0 0.0%	3.61	0.64	3.65	▼
Q2	19人 82.6%	3 13.0%	1 4.3%	0 0.0%	3.78	0.51	3.84	
Q3	17人 73.9%	5 21.7%	1 4.3%	0 0.0%	3.70	0.55	3.76	▼
Q4	15人 65.2%	6 26.1%	2 8.7%	0 0.0%	3.57	0.65	3.60	▼
Q5	18人 78.3%	5 21.7%	0 0.0%	0 0.0%	3.78	0.41	3.83	
Q6	19人 82.6%	4 17.4%	0 0.0%	0 0.0%	3.83	0.38	3.79	
Q7	16人 69.6%	6 26.1%	1 4.3%	0 0.0%	3.65	0.56	3.71	▼
Q8	13人 56.5%	8 34.8%	2 8.7%	0 0.0%	3.48	0.65	3.41	▼
Q9	15人 65.2%	7 30.4%	1 4.3%	0 0.0%	3.61	0.57	3.71	▼
Q10	10人 43.5%	7 30.4%	5 21.7%	1 4.3%	3.13	0.90	3.50	▼

評価レーダーチャート

(教育内容や学習環境)



評価帯グラフ



平成24年度 授業評価アンケート結果集計表

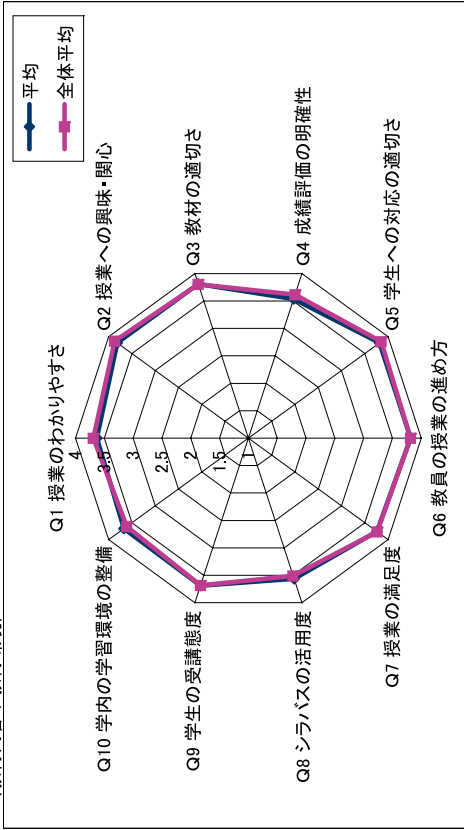
研究科(001) 人間文化研究科	教員	曜日・講時	
専攻(260) 生活福祉文化専攻		履修者数	21名
科目		回収数(率)	16名 76.2%

単集計

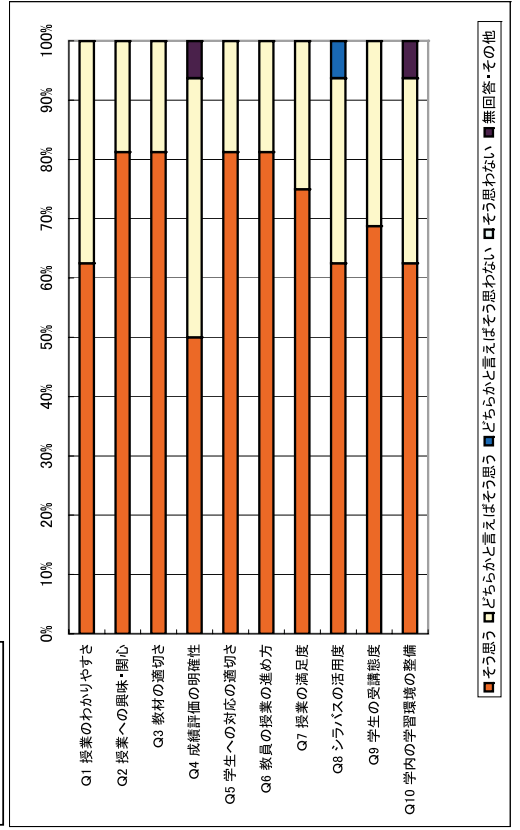
Q	回答数					平均	標準偏差	全体平均	経年比較
	4	3	2	1	無回答				
Q1	10	6	0	0	0	3.63	0.48	3.69	○
	62.5%	37.5%	0.0%	0.0%	0.0%				
Q2	13	3	0	0	0	3.81	0.39	3.87	
	81.3%	18.8%	0.0%	0.0%	0.0%				
Q3	13	3	0	0	0	3.81	0.39	3.81	
	81.3%	18.8%	0.0%	0.0%	0.0%				
Q4	8	7	0	0	1	3.53	0.50	3.62	
	50.0%	43.8%	0.0%	0.0%	6.3%				
Q5	13	3	0	0	0	3.81	0.39	3.84	
	81.3%	18.8%	0.0%	0.0%	0.0%				
Q6	13	3	0	0	0	3.81	0.39	3.81	
	81.3%	18.8%	0.0%	0.0%	0.0%				
Q7	12	4	0	0	0	3.75	0.43	3.76	
	75.0%	25.0%	0.0%	0.0%	0.0%				
Q8	10	5	1	0	0	3.56	0.61	3.51	○
	62.5%	31.3%	6.3%	0.0%	0.0%				
Q9	11	5	0	0	0	3.69	0.46	3.68	
	68.8%	31.3%	0.0%	0.0%	0.0%				
Q10	10	5	0	0	1	3.67	0.47	3.61	○
	62.5%	31.3%	0.0%	0.0%	6.3%				

評価リーダーチャート

(教育内容や学習環境)



評価帯グラフ



平成24年度 授業評価アンケート結果集計表

研究科(001) 人間文化研究科	教員	曜日・講時	
専攻(260) 生活福祉文化専攻		履修者数	14名
科目		回収数(率)	10名 71.4%

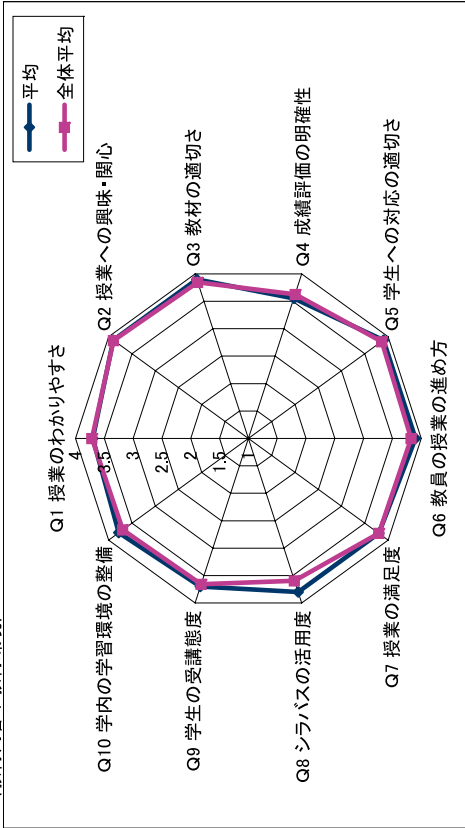
単集計

Q	回答数					平均	標準偏差	全体平均	経年比較
	4	3	2	1	無回答				
Q1	7人	3人	0人	0人	0人	3.70	0.46	3.72	○
	70%	30%	0%	0%	0%				
Q2	9人	1人	0人	0人	0人	3.90	0.30	3.89	
	90%	10%	0%	0%	0%				
Q3	9人	1人	0人	0人	0人	3.90	0.30	3.85	
	90%	10%	0%	0%	0%				
Q4	5人	4人	0人	0人	1人	3.56	0.50	3.63	
	50%	40%	0%	0%	10%				
Q5	9人	1人	0人	0人	0人	3.90	0.30	3.86	
	90%	10%	0%	0%	0%				
Q6	9人	1人	0人	0人	0人	3.90	0.30	3.83	
	90%	10%	0%	0%	0%				
Q7	8人	2人	0人	0人	0人	3.80	0.40	3.80	
	80%	20%	0%	0%	0%				
Q8	8人	2人	0人	0人	0人	3.80	0.40	3.60	◎
	80%	20%	0%	0%	0%				
Q9	7人	3人	0人	0人	0人	3.70	0.46	3.66	
	70%	30%	0%	0%	0%				
Q10	7人	2人	0人	0人	1人	3.78	0.42	3.70	○
	70%	20%	0%	0%	10%				

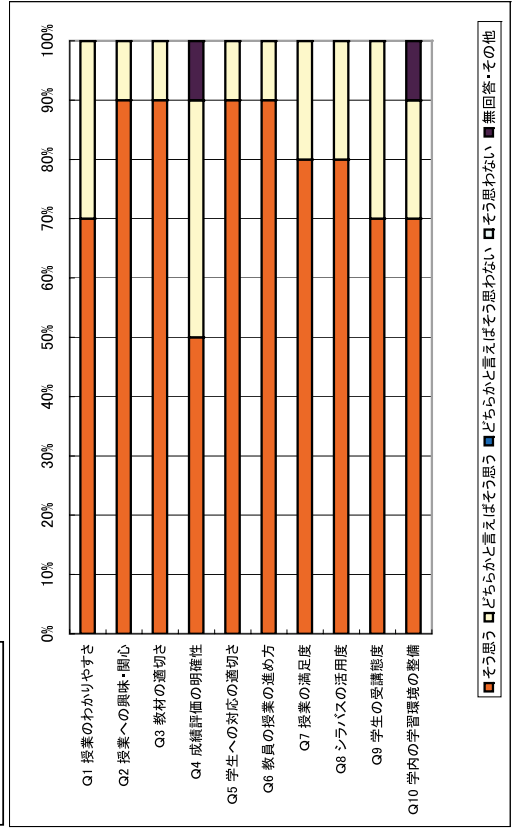
(□…一番回答の多い選択肢 □…全体平均より高い ◎…去年より平均が0.5以上増加 ○…平均が0.1~0.49増加 ▼…平均が0.1以上減少)

評価レーダーチャート

(教育内容や学習環境)



評価帯グラフ



平成24年度 授業評価アンケート結果集計表

研究科(001) 人間文化研究科	教員	曜日・講時	
専攻 (260) 生活福祉文化専攻		履修者数	7名
科目		回収数(率)	6名 85.7%

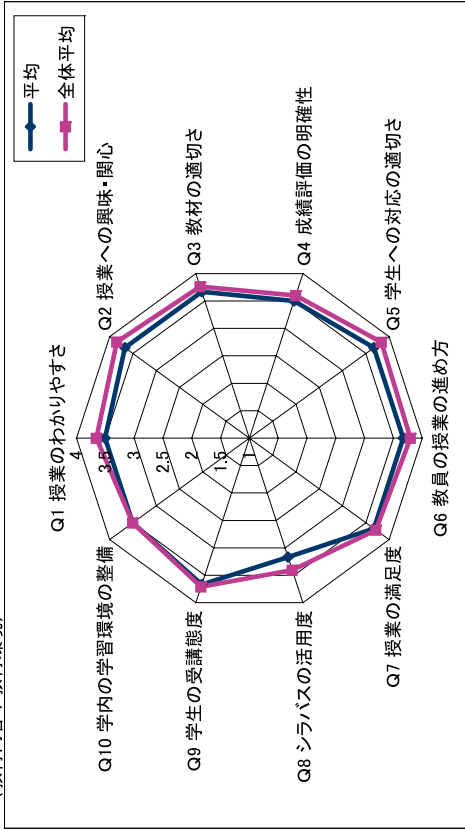
単集計

(〇…一番回答の多い選択肢 □…全体平均より高い ◎…去年より平均が0.5以上増加 ○…平均が0.1～0.49増加 ▼…平均が0.1以上減少)

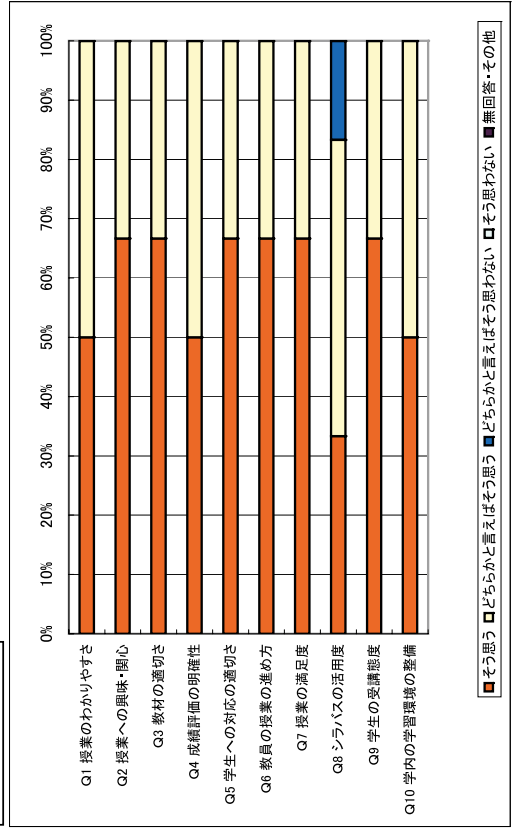
Q	回答数				平均	標準偏差	全体平均	経年比較
	4	3	2	1				
Q1	人 3	人 3	人 0	人 0	3.50	0.50	3.65	
Q2	人 4	人 2	人 0	人 0	3.67	0.47	3.84	▼
Q3	人 4	人 2	人 0	人 0	3.67	0.47	3.76	▼
Q4	人 3	人 3	人 0	人 0	3.50	0.50	3.60	○
Q5	人 4	人 2	人 0	人 0	3.67	0.47	3.83	▼
Q6	人 4	人 2	人 0	人 0	3.67	0.47	3.79	▼
Q7	人 4	人 2	人 0	人 0	3.67	0.47	3.71	
Q8	人 2	人 3	人 1	人 0	3.17	0.69	3.41	▼
Q9	人 4	人 2	人 0	人 0	3.67	0.47	3.71	
Q10	人 3	人 3	人 0	人 0	3.50	0.50	3.50	

評価リーダーチャート

(教育内容や学習環境)



評価帯グラフ



平成24年度 授業評価アンケート結果集計表

研究科(002) 心理学研究科	教員	曜日・講時	
専攻		履修者数	289名
科目		回収数(率)	272名 94.1%

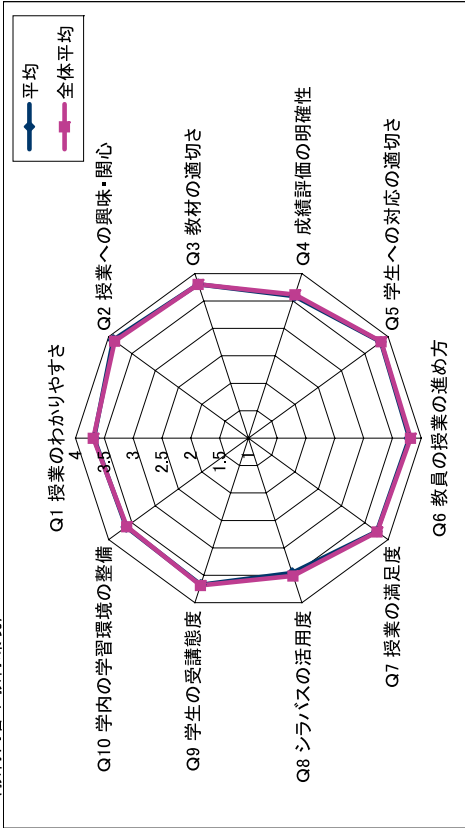
単純集計

(□ ……一番回答の多い選択肢 □ ……全体平均より高い ◎ ……去年より平均が0.5以上増加 ○ ……平均が0.1～0.49増加 ▼ ……平均が0.1以上減少)

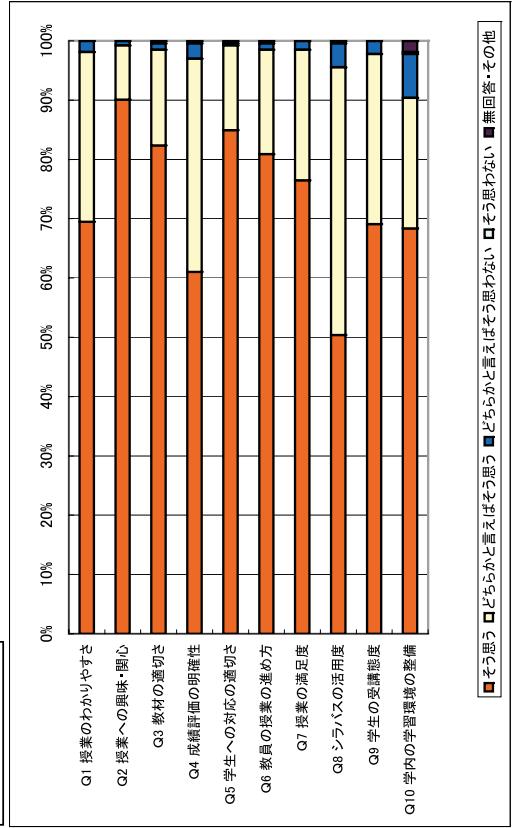
質問	4	3	2	1	無回答	平均	標準偏差	全体平均	経年比較
Q1 授業の内容を理解できた	人 189 % 69.5	78 28.7	5 1.8	0 0.0	0 0.0	3.68	0.51	3.69	○
Q2 授業の内容に興味・関心をもてた	人 245 % 90.1	25 9.2	2 0.7	0 0.0	0 0.0	3.89	0.33	3.87	
Q3 授業中に使う教材(テキスト・配布資料など)は適切であった	人 224 % 82.4	44 16.2	3 1.1	1 0.4	0 0.0	3.81	0.45	3.81	
Q4 成績評価の仕方が明確に示されていた	人 166 % 61.0	98 36.0	7 2.6	0 0.0	1 0.4	3.59	0.54	3.62	○
Q5 教員は学生の質問や相談に適切に対応した	人 231 % 84.9	39 14.3	1 0.4	1 0.4	0 0.0	3.84	0.41	3.84	
Q6 教員は学生の反応や理解を見ながら授業を進めた	人 220 % 80.9	48 17.6	3 1.1	1 0.4	0 0.0	3.79	0.46	3.81	
Q7 私はこの授業に満足した	人 208 % 76.5	60 22.1	4 1.5	0 0.0	0 0.0	3.75	0.47	3.76	
Q8 私は履修科目を選ぶ際にシラバスをよく読んだ	人 137 % 50.4	123 45.2	11 4.0	1 0.4	0 0.0	3.46	0.59	3.51	○
Q9 授業中は意欲的・積極的に取り組んだ	人 188 % 69.1	78 28.7	6 2.2	0 0.0	0 0.0	3.67	0.52	3.68	
Q10 自習室、研究設備等、学内の学習環境は十分に整備されている	人 186 % 68.4	60 22.1	20 7.4	1 0.4	5 1.8	3.61	0.64	3.61	▼

評価レーダーチャート

(教育内容や学習環境)



評価帯グラフ



平成24年度 授業評価アンケート結果集計表

研究科(002) 心理学研究科	教員	曜日・講時	
専攻		履修者数	152名
科目		回収数(率)	143名 94.1%

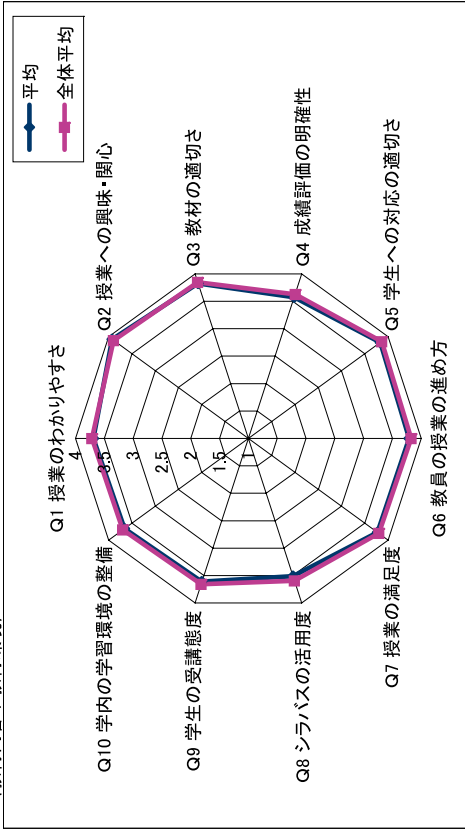
単純集計

(■ ……一番回答の多い選択肢 □ ……全体平均より高い ◎ ……去年より平均が0.5以上増加 ○ ……平均が0.1～0.49増加 ▼ ……平均が0.1以上減少)

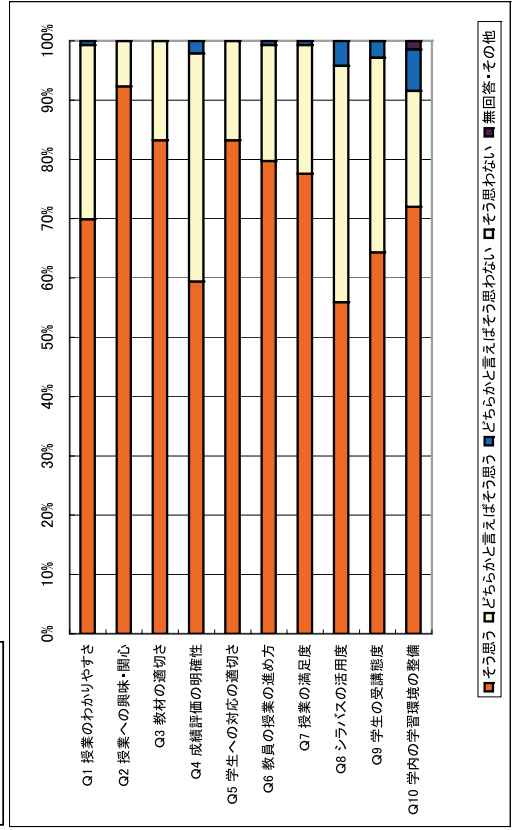
	4	3	2	1	無回答	平均	標準偏差	全体平均	経年比較
Q1 授業の内容を理解できた	人 100	42	1	0	0	3.69	0.48	3.72	○
	% 69.9	29.4	0.7	0.0	0.0				
Q2 授業の内容に興味・関心をもちた	人 132	11	0	0	0	3.92	0.27	3.89	
	% 92.3	7.7	0.0	0.0	0.0				
Q3 授業中に使う教材(テキスト・配布資料など)は適切であった	人 119	24	0	0	0	3.83	0.37	3.85	○
	% 83.2	16.8	0.0	0.0	0.0				
Q4 成績評価の仕方が明確に示されていた	人 85	55	3	0	0	3.57	0.54	3.63	○
	% 58.4	38.5	2.1	0.0	0.0				
Q5 教員は学生の質問や相談に適切に対応した	人 119	24	0	0	0	3.83	0.37	3.86	
	% 83.2	16.8	0.0	0.0	0.0				
Q6 教員は学生の反応や理解を見ながら授業を進めた	人 114	28	1	0	0	3.79	0.42	3.83	
	% 79.7	19.6	0.7	0.0	0.0				
Q7 私はこの授業に満足した	人 111	31	1	0	0	3.77	0.44	3.80	
	% 77.6	21.7	0.7	0.0	0.0				
Q8 私は履修科目を選ぶ際にシラバスをよく読んだ	人 80	57	6	0	0	3.52	0.58	3.60	○
	% 55.9	39.9	4.2	0.0	0.0				
Q9 授業中は意欲的・積極的に取り組んだ	人 92	47	4	0	0	3.62	0.54	3.66	
	% 64.3	32.9	2.8	0.0	0.0				
Q10 自習室、研究設備等、学内の学習環境は十分に整備されている	人 103	28	10	0	2	3.66	0.61	3.70	
	% 72.0	19.6	7.0	0.0	1.4				

評価リーダーチャート

(教育内容や教育環境)



評価帯グラフ



平成24年度 授業評価アンケート結果集計表

研究科(002) 心理学研究科	教員	曜日・講時	
専攻		履修者数	137名
科目		回収数(率)	129名 94.2%

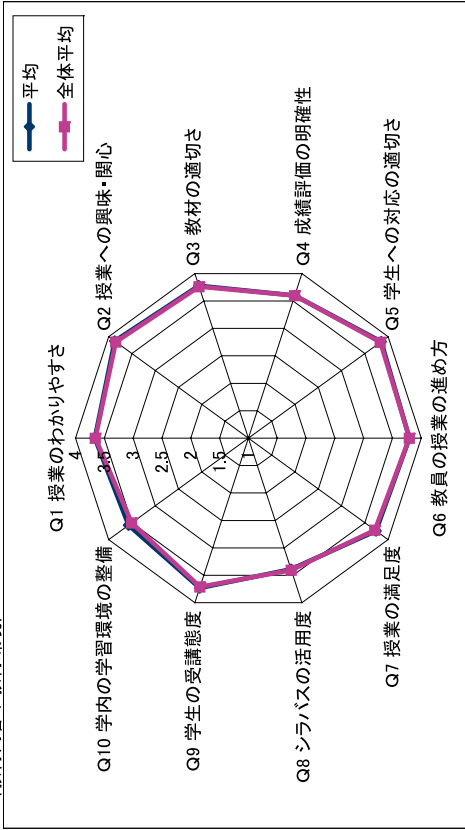
単純集計

Q	回答数				平均	標準偏差	全体平均	経年比較
	4	3	2	1				
Q1	89	36	4	0	3.66	0.54	3.65	○
Q2	113	14	2	0	3.86	0.39	3.84	
Q3	105	20	3	1	3.78	0.52	3.76	
Q4	81	43	4	0	3.60	0.55	3.60	○
Q5	112	15	1	0	3.84	0.44	3.83	
Q6	106	20	2	0	3.79	0.49	3.79	
Q7	97	29	3	0	3.73	0.49	3.71	
Q8	57	66	5	1	3.39	0.60	3.41	○
Q9	96	31	2	0	3.73	0.48	3.71	○
Q10	83	32	10	1	3.56	0.67	3.50	▶

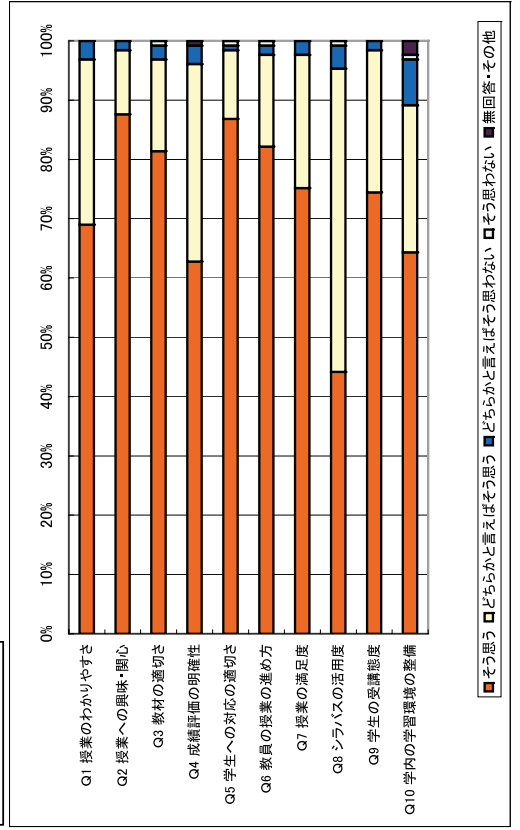
(□ ……一番回答の多い選択肢 □ ……全体平均より高い ◎ ……去年より平均が0.5以上増加 ○ ……平均が0.1～0.49増加 ▼ ……平均が0.1以上減少)

評価リーダーチャート

(教育内容や教育環境)



評価帯グラフ



4. 学部における全学的観点からみた回答の傾向

(1) 2012 (平成 24) の全体的傾向

2012 (平成 24) 年度授業評価アンケート集計結果を全学的に分析した結果、以下のよう
な傾向がみられた。

1) 全体的には、昨年度と比較して特に変化はみられなかった。しかし、Q1「授業のテーマは、はっきりしていた」、Q6「授業中に使う教材(テキスト・配付資料など)は適切であった」、Q8「教員の話し方は明瞭で聞き取りやすかった」、Q9「教員のプレゼンテーション(授業における伝達方法)は適切であった」、Q10「教員は学生の質問や相談に適切に対応した」、Q11「教員の授業の取り組みに、熱意を感じた」、Q12「教員は学生の反応や理解を見ながら授業を進めた」、Q13「私はこの授業に満足した」の8項目については、「4: そう思う」「3: どちらかと言えばそう思う」が90.1%~95.3%であった。Q2「授業の内容を理解できた」、Q3「授業の内容に興味・関心をもてた」、Q4「この授業からよい刺激を受け、自分の考えが広がってきたようだ」、Q5「この授業では、学習に集中することができた」、Q7「成績評価の仕方が明確に示されていた」、Q15「授業中は意欲的・積極的に取り組んだ」、Q16「教員から要求された自主学習(予習/復習、宿題や準備)をしましたか」の7項目については「4: そう思う」「3: どちらかと言えばそう思う」が81.6%~88.9%であった。Q14「私は履修科目を選ぶ際にシラバスをよく読んだ」、Q17「この授業で、何回欠席しましたか」の2項目については、「2: 2~3回」「1: 4回以上」が70.9%~71.9%であった。すなわち、昨年度の結果と同様、全体的には満足度が高い傾向がみられた。

2) 平均が3.5以上の評価が高い2項目についてみる。平均が3.57であったQ1「授業のテーマは、はっきりしていた」については、本学の学生の62.6%が「4: そう思う」と答えており、「3: どちらかと言えばそう思う」を加えると95.3%の学生が授業のテーマが明確だったと答えていた。また平均が3.52であったQ11「教員の授業への取り組みに、熱意を感じた」については、58.8%が「4: そう思う」と答えており、「3: どちらかと言えばそう思う」を加えると93.8%の学生がQ11「教員の授業への取り組みに、熱意を感じた」と答えていた。しかし、これらの評価が高い項目であっても、4.6%~6.1%の学生が「2: どちらかと言えばそう思わない」「1: そう思わない」と答えていた。すなわち、高く評価されていても、更なる改善の余地があることを示唆する結果となっている。

3) 一方、平均が3.2未満の評価が低い2項目についてみる。平均が2.99であったQ14「私は履修科目を選ぶ際にシラバスをよく読んだ」については、「2: どちらかと言えばそう思わない」「1: そう思わない」と答えた学生が27.8%いた。平均が3.12であった「この授業で、何回欠席しましたか」については、「2: 2~3回」「1: 4回以上」と答えた学生が28.6%いた。このことから3割弱の学生が、履修科目を選ぶ際にシラバスをよく読まずに授業に参加していること、また授業に2回以上欠席していることがわかった。

(2) 2012年(平成24)年度アンケート項目別全学的回答傾向(学部)

次に、2012年(平成24)年度のそれぞれの質問項目について、全学的回答傾向をまとめて以下に報告する。

1) 教員(授業)について

①授業のテーマは、はっきりしていた

全学(学部)の平均は3.57であった。「英語英文学科」の3.70、「人間文化学科」の3.67および「その他の資格科目」の3.65は平均を上回っていた。「人間文化学部 共通科目」の3.59は平均をやや上回り、「心理学部」は3.57で平均と同じであった。「生活福祉文化学部」3.56で平均よりやや低めで、「共通教育科目」は3.51で低めであった。

②授業の内容を理解できた

全学(学部)の平均は3.35であった。「英語英文学科」の3.59、「人間文化学科」の3.47、「その他の資格科目」の3.43および「人間文化学部共通科目」の3.40は平均を上回っていた。「生活福祉文化学部」の3.34はほぼ平均と同じであった。「心理学部」の3.30と「共通教育科目」の3.27は平均より低めであった。

③授業の内容に興味・感心をもてた

全学(学部)の平均は3.38であった。「英語英文学科」の3.61、「人間文化学科」と「その他の資格科目」は3.52、および「人間文化学部共通科目」は3.51で平均を上回った。「心理学部」の3.40、「生活福祉文化学部」の3.39はほぼ平均と同じであった。「共通教育科目」の3.25は平均より低めであった。

④この授業からよい刺激を受け、自分の考えが広がってきたようだ

全学(学部)の平均は3.35であった。「英語英文学科」の3.60、「人間文化学科」の3.49、「その他の資格科目」の3.48および「人間文化学部共通科目」の3.43は平均を上回っていた。「心理学部」の3.36は平均とほぼ同じで、やや上回っていた。「生活福祉文化学部」の3.35は平均と同じであった。「共通教育科目」の3.23は平均より低めであった。

⑤この授業では、学習に集中することができた

全学(学部)の平均は3.35であった。「英語英文学科」の3.58、「その他の資格科目」の3.45および「人間文化学科」の3.42が平均を上回っていた。「人間文化学部共通科目」の3.34、「生活福祉文化学部」の3.33および「心理学部」の3.32は平均とほぼ同じながらもやや低めであった。「共通教育科目」の3.26は平均より低めであった。

⑥授業中に使う教材(テキスト・配付資料など)は適切であった

全学(学部)の平均は3.43であった。「英語英文学科」の3.62、「人間文化学科」の3.54および「その他の資格科目」の3.51は平均を上回っていた。「人間文化学部共通科目」の3.46と「生活福祉文化学部」の3.44は平均とほぼ同じで、やや高かった。「心理学部」の3.41は平均とほぼ同じながらもやや低く、「共通教育科目」の3.35は低めであった。

⑦成績評価の仕方が明確に示されていた

全学(学部)の平均は3.37であった。「英語英文学科」の3.57、「人間文化学科」の3.46および「その他の資格科目」の3.45が平均を上回っていた。「心理学部」の3.34は平均よりやや低めながらもほぼ同じで、「生活福祉文化学部」の3.29、「共通教科目」と「人間文化学部共通科目」の3.28は平均より低めであった。

⑧教員の話し方は明瞭で聞きとりやすかった

全学(学部)の平均は3.46であった。「英語英文学科」の3.66、「人間文化学科」の3.60および「その他の資格科目」の3.59が平均を上回っていた。「人間文化学部共通科目」と「生活福祉文化学部」の3.46は平均と同じであった。「心理学部」の3.42と「共通教育科目」の3.37は平均より低めであった。

⑨教員のプレゼンテーション(授業における伝達方法)は適切であった

全学(学部)の平均は3.45であった。「英語英文学科」の3.65、「人間文化学科」の3.59、「その他の資格科目」の3.55、および「人間文化学部共通科目」の3.48が平均を上回っていた。「心理学部」の3.43と「生活福祉文化学部」の3.42は平均よりやや低めながらもほぼ同じで、「共通教育科目」の3.36は平均より低めであった。

⑩教員は学生の質問や相談に適切に対応した

全学（学部）の平均は 3.46 であった。「英語英文学科」の 3.69、「その他の資格科目」の 3.61 および「人間文化学科」の 3.59 が平均を上回っていた。「心理学部」の 3.46 は平均と同じであり、「人間文化学部共通科目」の 3.45 と「生活福祉学部」の 3.44 は、平均とほぼ同じながらもやや低く、「共通教育科目」の 3.35 は低めであった。

⑪教員の授業への取り組みに、熱意を感じた

全学（学部）の平均は 3.52 であった。「英語英文学科」の 3.72、「人間文化学科」と「その他の資格科目」の 3.64 が平均を上回っていた。「人間文化学部共通科目」の 3.52 は平均と同じで、「生活福祉文化学部」と「心理学部」の 3.49 は平均より低めながらもほぼ同じであった。「共通教育科目」の 3.44 は平均より低めであった。

⑫教員は学生の反応や理解を見ながら授業を進めた

全学（学部）の平均は 3.43 であった。「英語英文学科」の 3.67、「人間文化学科」と「その他の資格科目」の 3.58 が平均を上回っていた。「人間文化学部共通科目」と「心理学部」の 3.43 は平均と同じで、「生活福祉文化学部」の 3.41 は平均よりやや低めながらもほぼ同じであった。「共通教育科目」の 3.30 は平均より低めであった。

2) あなたについて

⑬ 私はこの授業に満足した

全学（学部）の平均は 3.40 であった。「英語英文学科」の 3.61、「人間文化学科」と「その他の資格科目」の 3.53 が平均を上回っていた。「人間文化学部共通科目」の 3.44 と「生活福祉文化学部」の 3.41 は平均よりもやや高めであった。「心理学部」の 3.39 は平均よりやや低めながらもほぼ同じであり、「共通教育科目」の 3.30 は平均より低めであった。

⑭ 私は履修科目を選ぶ際にシラバスをよく読んだ

全学（学部）の平均は 2.99 であった。「人間文化学科」の 3.34、「英語英文学科」の 3.24 および「その他の資格科目」の 3.11 が平均を上回っていた。「生活福祉文化学部」の 3.02 と「人間文化学部共通科目」の 3.00 は平均よりやや高かった。「共通教育科目」の 2.90 と「心理学部」の 2.83 は平均より低めであった。

⑮ 授業中は意欲的・積極的に取り組んだ

全学（学部）の平均は 3.31 であった。「英語英文学科」の 3.52、「その他の資格科目」の 3.46 および「人間文化学科」の 3.45 が平均を上回っていた。「人間文化学部共通科目」の 3.33 が全学の平均よりやや上回っていた。「生活福祉文化学部」と「心理学部」の 3.29 は平均よりやや低いながらもほぼ同じであった。また「共通教育科目」の 3.22 は平均より低めであった。

⑯ 教員から要求された自主学習（予習／復習、宿題や準備）をしましたか

全学（学部）の平均は 3.20 であった。「英語英文学科」の 3.37、「人間文化学科」の 3.36 および「その他の資格科目」の 3.34 が平均を上回っていた。「心理学部」の 3.21 が平均よりやや高かった。「生活福祉文化学部」の 3.15、「共通教育科目」の 3.13、および「人間文化学部共通科目」の 3.10 は平均より低めであった。

⑰ この授業で、何回欠席しましたか

[基準：4 (0回)、3 (1回)、2 (2~3回)、1 (4回以上)]

全学(学部)の平均は3.12であった。「人間文化学部共通科目」の3.27と「その他の資格科目」の3.21が高く、「心理学部」の3.17と「共通教養科目」の3.14が平均よりやや高めであった。「生活福祉文化学部」の3.10は平均より低めながらもほぼ同じであった。「人間文化学科」の3.04と「英語英文学科」の2.96は平均より低めであった。

以上が各項目の今年度の傾向である。

文責：平野 美保 (人間文化学科 FD委員)

5. 学部における学部・学科ごとの分析と課題

(学生による授業評価アンケート結果に対する全体的解釈等)

(1) 共通教育科目

1) 共通教育科目を全体的にみた現状の説明

全体的にみると Q1 から Q12 までの教員側の指導内容の評価は「4:そう思う」「3:どちらかと言えばそう思う」が 80%以上を占め、おおむね学生の満足が得られている状況である。

特に Q1「授業のテーマは、はっきりしていた」に関しては満足が 90%を超えており、科目提供の在り方には問題はない。その一方で学生側の項目で最も低い値を示したのが Q14「私は履修科目を選ぶ際にシラバスをよく読んだ」である。シラバスを十分に読んでいない学生の割合が 30%を超えている状況である。この要因としては、必修科目が多いこともあるが、自分の興味関心に基づく選択ではなく時間割に上手く収まることを優先していることに原因があるのではないかと推察される。

2) 長所と改善点

Q1「授業のテーマは、はっきりしていた」に次いで多いのが、Q11「教員の授業への取り組みに、熱意を感じた」である。「4:そう思う」「3:どちらかと言えばそう思う」の合計は 90%を超えており、教員の熱意を感じていて学んでいる学生が多いことは、少人数制の本学の特徴の良さが浮き彫りにされているところである。また、全体的にいずれの項目においても学生の満足度がほぼ 80%を超えており、大変安定しバランスが取れていることは、学生の学修にとって良好な環境にあると考えられる。一方、学生の授業欠席回数項目では数回がほぼ 30%あると共に、予習・復習などの学生の自主学習については、20%を超える学生が不十分である実態が明らかになった。

文部科学省が進める大学改革の柱である主体的な学びを考えるならば、今後いかにして自主学習を促していくかが課題となる。

3) 改善の方策

シラバスを十分に活用し切れていない実態が明らかとなったが、その原因の根底には学生の主体的な学びの態度が十分に身につけていないことが考えられる。これは修学のみならず学生生活すべてに渡ることであり、何のために大学に来ているのかを深く問い直す必要のあることでもある。今後は入学前教育から始まって、学年初めのオリエンテーションや履修登録時などのあらゆる機会を通して、学生の自律を促すための指導を強化していく必要がある。さらには、すべての教員が授業改善を意識して学生の自律的な学びを支援していくことが重要である。

4) 今後の課題

上記のような共通教育の抱える課題を改善するためには、教員が一丸となって取り組む必要がある。その際問題となるのが、本学の共通教育科目は非常勤講師の割合が高いことである。授業評価アンケートで課題となった点を、多くの非常勤講師が認識し、その改善方法を考慮して授業に取り組んでいくことが求められる。そのような機会をどのような形で設け推進するかを具体的に計画することは急務である。

ただ、授業評価アンケートの内容は共通教育科目全体の集計であるために、具体的な問題点を把握するにはもう少し分析した集計が必要となる。今後は共通教育科目をいくつかの群に分けて集計したり、専任教員と非常勤講師に分けるなど集計や分析の仕方の工夫が求められる。

文責：菅井 啓之（教務部長 心理学部 教授）

(2) 人間文化学部 英語英文学科

1) 学部・学科の科目を全体的にみた現状の説明

全体としては Q17「この授業で、何回欠席しましたか」をのぞく全項目で大学平均を上回っており、特に授業・教員の直接評価である Q1～Q12 の全項目で大学平均を上回っている点は（一部は誤差の範囲とはいえ）高く評価出来よう。また、他学部／学科との比較において、平均点が相対的に高いだけでなく、標準偏差も相対的に小さい数値となっており、英語英文学科の大多数の学生が軒並み高い評価をしている様子が見えてくる。

授業／教員に関する評価項目のうち、特に教員の評価を尋ねた項目群（Q8～Q12）の値が、授業の評価を尋ねた項目群（Q1～Q7）よりもやや高くなっており（ただし Q1 は除く）、学生達が、教員の熱心さ（Q11）や教授技法（Q8, Q9）、学生への適切なインタラクション（Q10, Q12）などを特に高く評価している様子が浮かび上がった。

また、アンケートの結果からは直接読み取ることにはできないものの、個々の教員の自身の担当科目の授業評価結果を踏まえた報告によれば、少人数クラス（専門科目のうち語学科目）の評価が高い様子も伺われた。ただし、比較的受講人数の多い講義科目の評価等については正確な判断はできなかった。また、唯一全体平均を下回った項目は Q17 であったが、最大頻度の選択肢が「3：欠席 1 回」であることから、突出して否定的な結果であるとは考えられない。また、Q14「私は履修科目を選ぶ際にシラバスをよく読んだ」に関しても、全体平均よりは高いものの、学科内では全項目のうち下から二番目の評価となっている（ $M = 3.24$ ）、全員がそれほど熱心にシラバスを読んでいる訳ではない様子が見えてきた。

以上、全体的な現状としては、授業／教員ともに一定のレベルの教育を提供できていると判断される。

2) 長所と改善点

既に 1) で述べた通り、授業・教員に関わる評価が相対的に高く、その中でも特に教員評価が高くなっている点は長所として高く評価できる。教員が熱心に、工夫を凝らして授業にのぞんでいること以外にも、少人数クラスが効果的に機能していることがその大きな要因であると思われる。英語英文学科では、初年次教育の「基礎演習 I/II」、語学演習科目（Reading & Writing I/I, Speaking & Listening I/II/III/IV, Advanced Reading I/II, Advanced Writing I/II, Academic Writing I/II）といった基幹科目において少人数制（10 名～20 名）を導入しており、こうした少人数クラスでの教員と学生の効果的な交流、学習意欲を高める環境、少人数で機能する授業技法等が学生の満足度を高めているのだと推測される。

一方、Q17「この授業で、何回欠席しましたか」が全体平均を下回った点、および、Q14「私は履修科目を選ぶ際にシラバスをよく読んだ」の結果がやや低くなっていた点には、多少なりとも注意を向ける必要がある。ただし、これらの点に関しては、英語英文学科のカリキュラムの特殊性に起因するところも多く（必修かつクラス指定の語学科目が多く、これらのクラスでは事前にシラバスを熟読しないケースが多いと想像される。また、1, 2 年次の必修語学科目は週 2 回（セメスター 30 回）の演習であり、欠席回数を同じ規準で判断できない）、一概には判断ができない。

厳密には、上述の点や、少人数クラスと通常の講義科目の間で授業評価に差があったのかどうか等は推測の域を出ない。授業評価アンケートの結果報告書でこれらの違いを読み取れるよう改善をお願いすると同時に、今後の授業評価アンケートでは、授業環境や趣旨が大きく異なる科目群間では質問項目を一部変える等の工夫も必要ではないか、という意見が多く出されたことも付け加えておく。

3) 改善の方策

上記 1), 2) を踏まえた上で、全学教員研修会において出された改善案を列挙する。

- ① 選択科目に関しては、授業内で別途シラバスを配布し、詳細に説明することが必要である。
- ② Active Learning (Task 型) の授業を導入する必要がある。多くの語学科目では既に実施しているが、他の講義科目でも必要に応じて対応の必要があろう。
- ③ 出席（欠席）回数の改善、および授業環境の向上のために、講義科目等での座席指

定が必要である。

④クラス内での課題について、ピアレビューをより積極的に導入すべきである。必ずしも学生評価に組み入れる必要はないが、学生の動機付け、授業環境の向上には有効である。特に「学びの扉」で行われた4-point scaleでのピアレビューの事例が報告され、学生が徐々に評価の技法を身につけ、発表する側も動機が高まって、効果があったことが報告された。

⑤講義科目でも、グループ作業を積極的に採用すべきである。

⑥相対的にレベルの低いクラスでは（語学科目ではレベル分けを実施）、学生に対するinstructionをより具体的に、また時間制限をつけて行うことが大切である。

⑦特に語学クラスにおいて、Computer Labをより積極的に利用すべき。

⑧教員は「教える」のではなく、「コーチ」するのだ、という意識が大切である。

以上の点を、学科内で話し合いを重ね、具体策を検討しながらよりレベルアップを目指すつもりである。

4) 今後の課題

結果として、全体的には概ね高い評価となっているが、本学（本学科）の学生の気質、批判能力などを考慮すれば、必ずしも手放しで喜んでよいわけではない。特にQ1～Q12では項目間の回答傾向がほぼ同様であり、学生がそれぞれの項目について（よく考えた上で）妥当な評価ができているのかどうかの判断は難しく、学科のカリキュラム全体を通してこうした授業／教員評価能力を教育していくこともまた必要なことであろう。

とはいえ、全体として授業／教員の評価が高かったことは、本学科の教員の平素の努力の結果として高く評価すべきであろう。今後とも、この結果に甘んじず、さらなるFDを重ねて満足度の高い授業を維持していけるよう、教員一同が努力を続けたい。また、これだけ高い学生の評価を学生募集につなげるような努力も必要とされよう。

最後に、英語英文学科全体での授業評価アンケート調査の回収率が75%に留まっていることにも注目したい。授業評価未提出の学生は、登録だけして出席していない学生、途中でドロップアウトした学生、たまたまその日に欠席した学生、その他様々であろうが、提出していない25%がまた別の回答（評価）をしている可能性も多いに考慮すべきであろう。むしろこうした学生への配慮や対策の必要性から、彼女らの声を吸い上げられるような方法も模索していくべきであろう。

文責：須川 いずみ（人間文化学部 英語英文学科長）

(3) 人間文化学部 人間文化学科

1) 学部・学科の科目を全体的にみた現状の説明

①人間文化学科の科目の回収率が、年度全体71.7%、前期72.3%、後期70.9%であった。これらはすべて、昨年度と比較して大幅に低くなっていると同時に、他学科と比べても、もっとも低い回収率であった。この理由として、「履修登録者数に対して、授業を放棄した学生数が多いか、あるいは、アンケート実施日の欠席者数が多いこと」が考えられる。学科の教員としては、このような学生を減らす工夫をすべきであろう。

②集計結果を見ると、人間文化学科の科目への満足度が年度全体、前期、後期ともに、非常に高い。その理由としては、この学科の学生の傾向として、教員を厳しく評価するような習慣がないことが考えられるという意見が出た。また、満足度が高いことに関連して、深く考えずに「4：そう思う」に○をつける学生よりも、「3：どちらかと言えばそう思う～1：そう思わない」の低い評価に○をつける学生の方が、授業をよりよくするために協力している学生であるという考え方もあるのではないかという意見も出た。そのため、集計結果の満足度の数字だけを見て、自分の授業を判断するだけではなく、そのような学科の学生の特性も考慮した上で、集計結果を見るべきであろう。

2) 長所と改善点

①「自由記述」の部分を読むと、教員自身は気が付いていないけれども、気を付けるべき項目（たとえば、黑板の下の方に字を書かないでほしい、など）を知ることができるため、授業改善につなげることができる。結局のところ、数値的な結果よりも「自由記述」の方が役立つ、という意見が多く出た。そのようなことから、学生の授業に関する理解度や満足度を知るためには、年に数回の授業評価アンケートのみに頼るのではなく、毎回の授業時にコメントを書かせるように、学科としても推進すべきであろう。

② 年度全体、前期、後期ともにQ16「教員から要求された自主学習をしましたか」に対しての平均値が、昨年度よりも0.5ポイント以上増えていることから、自主学習をしていると自覚している学生が増えたことがわかる。このような勉学に積極的な学生が満足するような、奥の深い授業をすべきであろう。もしも、欠席が多かったり、自主学習をしないで授業に参加するような学生に焦点を合わせた授業をしてしまうと、自主学習をして授業に出ている層の学生の満足度が低くなってしまおうということ、学科の教員全体で常に考えて、授業をしていきたい。

3) 改善の方策

①学生のレベルの差が広がっている中で、授業に対する理解度の低い学生へのサポートを強化するために、学期に一度の授業評価アンケートから学生の意見を知るだけでなく、毎回の授業の終わりにコミュニケーションペーパーなどを配布し、コメントを書かせる必要性は高いであろう。学科の教員同士で、このような工夫をしているかどうかを相互確認していきたいと考えている。

②授業評価アンケートの最終目的は学生の学力を上げることなので、学生から好評価を得るために、授業を楽にするのではなく、きちんと課題を与えるなど厳しく指導する態度を大切にしたいという意見も挙がった。こちらについても、学科の教員同士で確認し合いたい。

4) 今後の課題

①学生のレベルに差があるために、授業が易しすぎる（教員が何度も同じことを話す、など）と感じている学生がいる一方で、難しすぎると思っている学生もいるため、どこにレベルを合わせるかという「ターゲットの見極め」が非常に難しいというのが、多くの教員の共通の課題であった。レベルの高い学生のみを集めて実施する授業を立ち上げて、高いレベルの層も満足させられるように努力したい。

②匿名で書かせているために、「自由記述」の欄に、無責任な記述も見られたという事実もあったようである。そのような理由から、自分の言動に責任を持つという態度を学生にしっかり教えた上で、授業評価アンケートをするなどの工夫も必要ではないかという意見も出た。あわせて、授業をよくするためのコメントを求めるのなら、記名制にしてはどうかという意見も出た。こちらについては、学生に対して「自分の言動には責任を持つ」ことを指導していきたいと考えている。

文責：吉田 智子（人間文化学部 人間文化学科長）

(4) 生活福祉文化学部

1) 学部・学科の科目を全体的にみた現状の説明

回収率は77.2%となっており、昨年より0.7%アップした。評価の平均が全項目で3.0以上であり、全体の平均値とほぼ同じ値であったことから、生活福祉文化学部の授業への取り組みが学生に一定の評価を得ていることが考えられた。特にQ1「授業のテーマは、はっきりしていた」は61.1%、Q3「授業の内容に興味・関心をもてた」Q6「授業中に使う教材は適切であった」Q8「教員の話し方は明瞭で聞き取りやすかった」Q9「教員のプレゼンテーションは適切であった」Q10「教員は学生の質問や相談に適切に対応した」Q11「教員の授業への取り組みに熱意を感じた」Q12「教員は学生の反応や理解を見ながら授業を進めた」Q13「私はこの授業に満足した」の項目では過半数の学生が「4:そう思う」

と回答しており、生活福祉文化学部の学生の満足度は比較的高いと思われる。

しかし、Q2「授業の内容を理解できた」は46.3%と半数に至っていない。また、Q14「私は履修科目を選ぶ際にシラバスをよく読んだ」については、昨年と同様によく読んでいない学生が目立つ。学生は履修単位表を見ているがシラバスを読んでいないため、授業内容を理解できず、興味関心がもてない傾向にあると思われる。Q16「教員から要求された自主学習をしましたか」は「3:どちらかと言えばそう思う」と回答した学生が41.5%であった。

演習や実習の科目は体験的なことを取り入れやすく、評価は高くなっていると思われる。講義科目については、学生が目的意識をもち主体的に学修に取り組むことができる工夫が必要である。

授業の理解度の低い学生の割合は、昨年より3.5%減少して10.9%であった。これは教員側の工夫の効果が表れていると思われる。しかし、理解度の低い群の回答分布をみると、学生の出席状況は良かった。これは、出席による加点を期待するだけで、理解する努力を怠っていることも考えられる。

2) 長所と改善点

長所として、回収率が昨年に引き続き、最も高かったこと、評価の平均が全項目で教員および学生において、全体平均と近似値であったこと、Q1「授業のテーマは、はっきりしていた」への「4:そう思う」の回答率が高かったことが挙げられる。回収率の高さは、授業への出席率および授業評価アンケートへの意識の高さを反映している。また、教員の授業への取り組み方は学生に評価されており、生活福祉文化学部の学生は興味を持って授業に取り組んでいる姿勢が窺われた。

改善点として、授業の理解度の低い学生に対して教員が工夫していく必要がある。また、全体の学生に対しても、興味を持たせ、学習意欲を喚起させるような、授業に魅力を持たせる工夫を常に意識することが重要である。また、教えている学生の到達度に差があるので、学生の理解度への判断評価も併せて行う必要がある。

Q14「私は履修科目を選ぶ際にシラバスをよく読んだ」、Q15「授業中は意欲的・積極的に取り組んだ」、Q16「教員から要求された自主学習（予習／復習、宿題や準備）をしましたか」の項目は他の項目よりも「4:そう思う」と回答した人の割合が少ない。シラバスについては、昨年より指摘されているところであり、それぞれの工夫があまり功を奏さなかったようである。

演習や実習の科目は体験的なことを取り入れやすく、自主学習の評価は高くなっていると思われるが、一方講義科目については、学生が目的意識をもち主体的に学修に取り組むための教員側の工夫が必要である。

3) 改善の方策

生活福祉文化学部は資格等の関係で履修科目が決まっており、シラバスを読む学生が少ない傾向にある。教員が最初にシラバスの内容を説明し、学生自身にシラバスを読むように働きかけることにより、学生が授業の目的や授業計画および、成績評価等を知り、主体的に学ぼうとする意識が出てくる。このことで、授業に出席して課題に取り組むようになると考えられる。その結果、学習意欲が高まり理解度も高まると考える。つまり、シラバスの活用を教員が意識することにより、学生の興味関心や意欲向上につなげることができると思う。

授業のやり方としては、一方向性の授業ではなく、学生参加型の授業を取り入れたり、配布プリントに問題を載せたり、空欄に学生が記入するなどの工夫を考える。理解度の低い学生のために、教員が教材や話し方、プレゼンテーションを工夫していく必要がある。

理解度の低い学生は、出席状況が良いという結果となっている。これは、欠席をすると授業内容が理解できなくなり意欲が低下し、さらに欠席が続くことで益々理解できなくなっていくという悪循環に陥る現状があるため、自分でそうならないように努力していることが考えられる。そのため、欠席が目立つ学生には、早めの面談や指導が必要である。また、学生は理解できていなくても授業に出席していると単位は修得できると考えている場合もある。教員側も授業内容の質を高めるより出席状況を重視しているケースもあり、出席だけの重視は、見直す必要があると考える。

共通教育科目や受講人数が多い講義では、一部の学生が授業に参加していないことがある。講義科目でも学生をアクティブにさせることが重要である。学生が課題に取り組み、小グループでディスカッションを行うなどの方法を取り入れる工夫をすることも重要である。

4) 今後の課題

学生はある一定の意識を持って授業に取り組んでいると思われるが、教員はそれ以外の意識の低い学生を授業に引き込む努力をすることが必要である。そのためには、初めにシラバスでの授業の概要を周知できれば、さらに学生の学習意欲が高まると思われる。この努力は続けていきたいと考える。

理解度の低い学生に対しては、できるだけ個別に対応する必要があり、毎時間可能な限り理解度を確認するように努力したい。また、出席率は良いので、授業に出ているだけではなく、プリントを使ってテキストの必要箇所を書き写させたり宿題を出すことで、少しでも理解につながるような工夫をしていきたい。

理解度の低い学生だけではなく、レベルの高い学生をも満足させられるように、各教員が授業の内容について詳細に検討し、授業改善のためにその有効な展開や手法を取り入れて、自分自身の授業を評価する方法についても検討する必要がある。

文責：萩原 暢子（生活福祉文化学部長）

(5) 心理学部

1) 学部・学科の科目を全体的にみた現状の説明

アンケートの回収率は、前期 78.2%、後期 73.6%であった。昨年と比較すると、前期は+2.8ポイント、後期は-1.7ポイントで、通年で見ると+0.5ポイントで大きな変化はなかった。また、それぞれの質問項目の回答についての比較でも、昨年度と比較して、顕著な増減はなかった。

「教員（授業）について」の質問項目は、前期では、Q1～12のすべての項目において、「4：そう思う」が一番回答の多い選択肢であり、前期の科目においては、教員側の要因については、おおむね肯定的に評価されていたといえる。しかしながら、後期では、Q2「授業の内容を理解できた」、Q5「この授業では、学習に集中することができた」、Q7「成績評価の仕方が明確に示されていた」の3項目で、「3：どちらかと言えばそう思う」が一番回答の多い選択肢となり、前期に比べると評価の低下が見られた。

「あなたについて」の質問項目に関しては、Q13「私はこの授業に満足した」は「4：そう思う」、Q17「この授業で、何回欠席しましたか」は選択肢4「0回」が、それぞれ最も多かったが、他の項目は「3：どちらかと言えばそう思う」が最も多かった。特に、Q14「私は履修科目を選ぶ際にシラバスをよく読んだ」は、平均が3未満であり、30%以上が「4：そう思わない」、「3：どちらかと言えばそう思わない」と答えており、評価が低かった。したがって、学生自身の取り組みに対しては、必ずしも高い評価をしているわけではなかった。

2) 長所と改善点

教員に対する評価は、1)で述べたように、おおむね肯定的であるといえる。特に、Q1、Q8、Q9、Q10、Q11、Q12は、「4：そう思う」が50%を超えるなど高い評価を受けており、心理学部の多くの授業において、教員の話し方、プレゼンテーションの方法、学生への質問や相談に対する応答などが適切であったことがうかがえる。学生自身も、そのような授業に対して概ね満足しており（Q13）、出席率も比較的高い（Q17）といえる。これらは、心理学部における長所と考えられる。

おおむね高評価である中で、Q2「授業の内容が理解できた」とQ5「この授業では、学習に集中することができた」では、「4：そう思わない」、「3：どちらかと言えばそう思わない」の合計が10%を超えていた。したがって、授業の内容が理解できない学生や学習に集中できない授業が多少存在したと思われる。また、前期と後期を比べると、全体として後期はわずかではある評価が下がっていた。これらは、心理学部において改善

すべき点である。

また、前述した通り Q14「私は履修科目を選ぶ際にシラバスをよく読んだ」の評価が低かった。しかしながら、これは、必修が多かったり、内容よりも時間割で選んでいる学生も多かったりするためであると思われる。

3) 改善の方策

本授業評価アンケートの結果からは、授業の理解度、授業への集中、後期科目の問題が示唆された。授業の理解度については、別のアンケート(平成 24 年度学生満足度調査)の結果から、授業が理解できない理由として、内容に興味を持ってない、教員の指導が充分でないという理由が上位に挙げられている。本アンケート調査では、これらに相当する項目の評価は低くはないが、より興味を持てる授業になるように教員側の工夫が求められる。また、教員の指導が十分でないのは、心理学部の場合、多人数の授業が多いためであるとも考えられるので、カリキュラムや教員配置を考えることで、解決できるかもしれない。

次に、授業への集中に関しては、学生の側から、私語が多い授業があることをしばしば耳にするので、私語への対策を強化する必要があるのではないだろうか。さらに、後期科目において、全体的に評価が低くなっていることに関しては、本アンケート調査には現れていないが、後期になって欠席しがちになる学生(特に 1 年次生)をたびたび目するなど、全体にモチベーションが落ちてきていることが考えられる。しかし、本アンケート調査からだけでは、後期に評価が下がる原因は必ずしもつかめないため、学生に直接聞くなど別の手段を使って原因を探る必要があるように思われる。

4) 今後の課題

本学に入学してくる学生は必ずしもモチベーションが高いわけではなく、心理学という分野についても十分に調べずに、単なる自分のイメージだけで選んだという者も少なくない。しかしながら、別のアンケート(平成 24 年度学生満足度調査)の結果から、心理学の授業に関して、「新しい分野について学べる」、「視野が広がったり、新たな発見をする」などの項目の評価が比較的高いことがわかった。また、資格や免許につながる授業については比較的高い関心が高い。したがって、これらを手がかりに、学生の学習意欲や興味を掘り起こしていけるように工夫すればよいと考えられる。

また、心理学部では、来年度からカリキュラムを大幅に変更する予定である。新カリキュラムでの成果を期待したい。

文責：河瀬 雅紀(心理学部長)

6. 大学院における全学的観点からみた回答の傾向

(1) 2012 (平成 24) 年度の全体的傾向

2012 (平成 24) 年度、大学院授業評価アンケート集計結果を全学的に分析した結果、以下のような傾向がみられた。

1) 全体的にみると、Q1「授業の内容を理解できた」、Q4「成績評価の仕方が明確に示されていた」、Q8「私は履修科目を選ぶ際にシラバスをよく読んだ」の3項目については、昨年度と比べて、0.1~0.49 ポイントの微増ながらも学生評価の平均の増加がみられた。また Q2「授業の内容に興味・関心をもてた」、Q3「授業中に使う教材 (テキスト・配付資料など) は適切であった」、Q5「教員は学生の質問や相談に適切に対応した」、Q6「教員は学生の反応や理解を見ながら授業を進めた」、Q7「私はこの授業に満足した」、Q9「授業中は意欲的・積極的に取り組んだ」の6項目については、経年比較において変化がみられなかった。これらについては、いずれも 96.8%~99.5%の学生が「4: そう思う」「3: どちらかと言えばそう思う」と答えていることから満足度が維持されていることがわかった。一方で Q10「自習室、研究設備等、学内の学習環境は十分に整備されている」の1項目については、平均が 0.1 ポイント以上減少しており、7.7%の学生が「2: どちらかと言えばそう思わない」「1: そう思わない」と回答していた。すなわち少数人数ながらも、学習環境が十分に整備されていると考えていない学生が昨年度以上に多い割合であり、環境改善が必要であることが示唆される結果である。

2) 平均が 3.8 以上の評価が高い4項目についてみる。平均が 3.87 であった Q2「授業の内容に興味・関心をもてた」については、87.5%の学生が「4: そう思う」と答えており、「2: どちらかと言えばそう思わない」「1: そう思わない」は 0.8%であった。平均が 3.81 であった Q3「授業中に使う教材 (テキスト・配付資料など) は適切であった」については82.4%の学生が「4: そう思う」と答えており、「2: どちらかと言えばそう思わない」「1: そう思わない」は 1.4%であった。平均が 3.84 であった Q5「教員は学生の質問や相談に適切に対応した」については、85.3%の学生が「4: そう思う」と答えており、「2: どちらかというそう思わない」「1: そう思わない」は 0.6%であった。平均が 3.81 であった Q6「教員は学生の反応や理解を見ながら授業を進めた」については、82.4%の学生が「4: そう思う」と答えており、「2: どちらかと言えばそう思わない」「1: そう思わない」は 1.1%であった。すなわち平均の評価が高い項目は満足度が高い傾向にある。しかし、少数人数ながらも「2: どちらかと言えばそう思わない」「1: そう思わない」と回答している学生は存在しているため、平均の評価が高い項目ではあるが、改善の余地がある。

3) 平均が 3.6 未満の評価が低い1項目についてみる。平均が 3.51 であった Q8「私は履修科目を選ぶ際にシラバスをよく読んだ」は、「2: どちらかと言えばそう思わない」「1: そう思わない」と答えた学生が 4.3%いた。上記 1) のとおり、経年比較において学生評価の平均の増加がみられたものの、更なる改善が望まれる結果である。

(2) 2012 (平成 24) 年度アンケート項目別全学的回答傾向 (大学院)

次に、2012 (平成 24) 年度のそれぞれの質問項目について、全学的回答傾向をまとめて以下に報告する。

1) 授業について

① 授業の内容を理解できた

全学 (大学院) の平均は 3.69 であった。「人間文化専攻」の 3.75 については平均を上回っていた。「応用英語専攻」の 3.70 と「心理学研究科」の 3.68 は平均とほぼ同じであった。「生活福祉文化専攻」の 3.63 は平均より低めであった。

② 授業の内容に興味・関心をもてた

全学 (大学院) の平均は 3.87 であった。「心理学研究科」は 3.89 で、平均をやや

上回っていた。その他の「人間文化研究科」の3専攻（「応用英語専攻」3.50、「人間文化専攻」3.82、「生活福祉文化専攻」3.81）はすべて平均より低めであった。

③授業中に使う教材（テキスト・配付資料など）は適切であった

全学（大学院）の平均は3.81であった。「応用英語専攻」は3.9で平均を上回った。「生活福祉文化専攻」と「心理学研究科」は3.81で、全学の平均と同じで、「人間文化専攻」は3.80で、平均よりやや低めながらほぼ同じであった。

④成績評価の仕方が明確に示されていた

全学（大学院）の平均は3.62であった。「人間文化研究科」の2専攻（「応用英語専攻」3.80、「人間文化専攻」3.75）は平均を上回っていた。「生活福祉文化専攻」の3.53と「心理学研究科」の3.59は平均より低めであった。

2) 教員について

⑤教員は学生の質問や相談に適切に対応した

全学（大学院）の平均は3.84であった。「人間文化研究科」の2専攻（「応用英語専攻」3.90、「人間文化専攻」3.87）は平均を上回っていた。「心理学研究科」は平均と同じ3.84で、「生活福祉文化専攻」の3.81はやや低めであった。

⑥教員は学生の反応や理解を見ながら授業を進めた

全学（大学院）の平均は3.81であった。「人間文化研究科」の2専攻（「応用英語専攻」3.90、「人間文化専攻」3.89）は平均を上回っていた。「生活福祉文化専攻」は平均と同じ3.81で、「心理学研究科」の3.79はやや低めながらも平均とほぼ同じであった。

3) あなたについて

⑦私はこの授業に満足した

全学（大学院）の平均は3.76であった。「人間文化専攻」は3.82で平均を上回っていた。「生活福祉文化専攻」と「心理学研究科」はいずれも3.75で、やや低めながらも平均とほぼ同じであった。「応用英語専攻」は3.70で平均より低めであった。

⑧私は履修科目を選ぶ際にシラバスをよく読んだ

全学（大学院）の平均は3.51であった。「人間文化研究科」の3専攻（「応用英語専攻」3.90、「人間文化専攻」3.69、「生活福祉文化専攻」3.56）はいずれも平均を上回っていた。「心理学研究科」は3.46で平均より低めであった。

⑨授業中は意欲的・積極的に取り組んだ

全学（大学院）の平均は3.68であった。「人間文化研究科」の2専攻（「応用英語専攻」3.80、「人間文化専攻」3.73）は、平均を上回っていた。「生活福祉文化専攻」は3.69で、平均よりやや高めであった。「心理学研究科」については3.67で、低めながら平均とほぼ同じであった。

4) 教育環境について

⑩自習室、研究設備等、学内の学習環境は十分に整備されている

全学（大学院）の平均は3.61であった。「人間文化研究科」の2専攻（「応用英語専攻」3.80、「生活福祉文化専攻」3.67）は平均を上回っていた。「心理学研究科」は平均と同じ3.61であった。「人間文化専攻」は3.53で平均より低めであった。

以上が各項目の今年度の傾向である。

文責：平野 美保（人間文化学科 FD委員）

7. 大学院における研究科・専攻ごとの分析と課題

(大学院生による授業評価アンケート結果に対する全体的解釈等)

(1) 人間文化研究科 応用英語専攻

1) 研究科・専攻の科目を全体的に見た現状の説明

回答者数の問題はあるものの、回答内容を仔細に読めば、回答者の受講姿勢が真摯であることが理解できる。前期調査、10項目の経年比較では、9項目において、前年を上回る高評価となっている。後期調査においても、ほぼ同様の傾向が認められる。本専攻のティーチングに質的好転があったものと理解しており、授業内容や使用テキストなどに関する高評価は、担当者が適宜受講者の理解度を含め授業への反応を見極めるよう務める努力が大きく影響したものと理解している。

2) 長所と改善点

学生が授業方法や内容をどのように捉えているかという、授業では測りがたい要素を、ある程度客観的に理解できる点は、この授業評価アンケートの長所と言える。ただし、記入に際して、学生が率直に記入できたかという点においては、疑問である。データの読み方はあくまで参考程度にしておくべきかとも思われる。前期調査におけるQ2「授業の内容に興味・関心をもてた」では、回答者の66%が「3：どちらかと言えばそう思う」の評価を与えている。これは、アンケート結果の全般的傾向からして、実は、厳しい回答内容のように思える。この項目を除く9項目においては最高評価が与えられており、数値を単純にそのまま受け取ってよいものか疑問が残る。そのような読み方がアンケート結果の評価には必須の要素と考えたい。

3) 改善の方策

受講者が求める学びをシラバスを基に確認しつつ、受講者の現状に柔軟に対応し、いわゆるインタラクティブな関係性を保ちつつ、成果を分かちあえるようなクラス運営に務める。これによって、アンケートのより実質的進化が可能なのではないだろうか。できれば、教員の学生・授業評価を実施できないのだろうか。学生の実態理解を得られるであろうし、事前に分かっておれば、シラバスに反映できるはずである。

4) 今後の課題

概括的に設問を設けるのではなく、専攻内容に即して設問の傾向を行い、学生にとって重要な要素を抽出できるような内容。例えば、教材に関する項目では、メディアの種類を挙げ、どのようなメディアで教材に接しているのかを問う。紙の本ではなく、電子的な文字情報を用いる場合があり、今後の変化への対応を視野にいたしておくためにも重要である。改善の方策の先に想定すべき近未来のあるべき姿が見えてるようなアンケートがこのましい。

文責：小林 順（人間文化研究科 応用英語専攻主任）

(2) 人間文化研究科 人間文化専攻

1) 研究科・専攻の科目を全体的に見た現状の説明

年間を通して見ると、昨年度のデータよりもおおむね向上しており、また全学平均値よりも高く、ほぼ満点に近い項目もあって、全体的に受講者の高い満足度を得ていると分析できる。ただ、前期に比べると後期の評価が大きく下がっている点が顕著である。この原因については、受講者の違い（受講者が1年次生だけになった）、科目担当者の違い（教員側の問題）の2側面が考えられるが、おそらくその両面が影響しているものと考えられる。

2) 長所と改善点

全般的に高い数値を獲得している点は、授業の現状が受講者に一定の評価を得ているものと解釈できる。とくに、Q5「教員は学生の質問や相談に適切に対応した」、Q6「教員は学生の反応や理解を見ながら授業を進めた」といった項目において、満点に近い高い数値を得たことは、本専攻教員の大学院生への接し方を如実に反映したものと理解できる。

後期においては、Q1「授業の内容を理解できた」、Q2「授業の内容に興味・関心をもてた」、Q4「成績評価の仕方が明確に示されていた」、Q7「私はこの授業に満足した」といった項目について、大学全体の平均を下回っており、改善の余地がある。

3) 改善の方策

高い満足度を得ているようであるが、現状を全面的に評価すべきかどうか、疑義がないわけではない。そもそも受講者が少なく、たとえば1名しかいないような場合、誰が書いたか分かってしまうので、本音の意見を書いているかどうか疑問である。また、「授業に満足した」という点の評価が高かったとしても、大学院において求められるのは高い学識と主体的な研究姿勢であり、授業の満足をもって能事畢れりとしてよいわけではない。より高い満足度を庶幾することと、研究に取り組む主体性を涵養することと、両面に渡ってさらなる改善が必要である。また、成績評価の仕方については、全面的に開示できるよう改善する。

4) 今後の課題

大学院の場合、受講者が少ないので、教室の場で、記入させるのは無理があるのではないか。記入に同意を求めること自体、師弟の上下関係があって負担に感じる大学院生もいるだろう。受講者が随意に個別に記入できるようなシステムを構築すべきである。

「授業の内容を理解できた」といった項目の満足度を高めるために、大学院生のレベルに合わせて授業をするのはよいが、結果としてそのことが大学院生の主体的な研究態度を養えているかどうかということとは別問題である。いかにして、より研究熱心な大学院生を育てるか、これが専攻全体の今後の課題であり、また評価システムにもそのような観点が求められるであろう。

文責：堀 勝博（人間文化研究科 人間文化専攻主任）

(3) 人間文化研究科 生活福祉文化専攻

1) 研究科・専攻の科目を全体的に見た現状の説明

例年のごとく大学院における授業評価アンケートの方法について、まず議論がなされた。アンケート自体は意義のあることとするが、大学院の授業は研究中心であるので、学部と同じ尺度では図りづらい、少人数科目についても実施しているため個人が特定される恐れがあり、そのことによる無回答やアンケートを白紙で提出するといったことが生じているといった意見が出された。また前期 Q4「成績評価の仕方が明確に示されていた」、Q10「自習室、研究設備等、学内の学習環境は十分に整備されている」に無回答がみられるが、これは少人数の科目にあってアンケートを行ったことが関連しているのではないかと考えられる。また、学生の学ぶ姿勢については、Q9「授業中は意欲的・積極的に取り組んだ」の平均値としては3.7と高いものの評価値「3:どちらかと言えばそう思う」としたのも少なからずいる。大学院生としてより主体的な学びをしてもらいたいものである。

2) 長所と改善点

前期、後期ともにどの項目も平均評価値は高い。Q8「私は履修科目を選ぶ際にシラバスをよく読んだ」について、前期は全体平均より高いことは、本専攻の特徴（多彩な領域のため、シラバスを読むことで科目内容を知り、履修登録に備える）と考えられる。後期にこの項目の評価値が低くなるが、これは登録時期が前期であり、後期に履修登録変更をするものがほとんどいないことが関係しているのであろう。大学院においてこの項目は削除してもよいのではないかと考えられる。

3) 改善の方策

教員の姿勢に関する Q5「教員は学生の質問や相談に適切に対応した」と Q6「教員は学生の反応や理解を見ながら授業を進めた」が前期から後期へと評価が若干落ちていることは気がかりであるが、アンケートからはその理由を読み解くことは困難である。しかしながら、教員は今後一層、個々の授業で改善に鋭意努力していくことは当然のことである。また同様に、Q4「成績評価の仕方が明確に示されていた」、Q10「自習室、研究設備等、学内の学習環境は十分に整備されている」に無回答がみられるが、これは少人数の科目にあってアンケートを行ったことが関連しているのではないかと考えられる。無回答であるということはよい評価ではないことを意味しているとも考えられるが、それを知る手だてがアンケートでは不十分であることが残念であり、設問項目の改変が求められる。また大学院については授業以外の項目（研究指導など）の満足度を知ることも必要であろう。

4) 今後の課題

Q4「成績評価の仕方が明確に示されていた」については「3:どちらかと言えばそう思う」との回答もみられることから、明確化することの必要性は認められる。具体的にどのようなすれば明確化が図れるのかについて教員間で一緒に難しいと考えており、検討の余地があると思われる。Q10「自習室、研究設備等、学内の学習環境は十分に整備されている」について前期と後期を比較すると後期の評価が低くなっている。これの解釈について、後期の授業に関する学習環境が前期に比べてよくなかった、という解釈と、学生が後期は設備を問う必要がない状態であったために、[よい]という評価をしなかった、との解釈もできることから、評価の背景を丁寧に探り、真の課題の在りかを知る必要と、それを知るための方策を検討することが今後の課題であろう。

文責：竹原 広実（人間文化研究科 生活福祉文化専攻主任）

(4) 心理学研究科

1) 研究科・専攻の科目を全体的に見た現状の説明

授業評価アンケートの回収率は、前期 94.1%、後期 94.2%と高かったことから、全科目でほとんどの学生が回答したと思われる。昨年度と比較すると、前期は-0.7%、後期は+6.5%、通年では+2.5%となり、わずかながら回収率の改善がみられた。

通年の評価結果では、調査項目の全てにおいて、「4：そう思う」の回答が一番多く、割合としては50%を超えていたため、学生による授業評価は極めて肯定的であったといえる。項目別に昨年度の平均値と比較すると、Q1「授業の内容を理解できた」は+0.18、Q4「成績評価の仕方が明確に示されていた」は+0.29、Q8「私は履修科目を選ぶ際にシラバスをよく読んだ」は+0.36となり、わずかながら改善がみられた。しかし、Q10「自習室、研究設備等、学内の学習環境は十分に整備されている」の評価は、0.19減少した。

2) 長所と改善点

1) で述べたように、調査項目の全てにおいて、「4：そう思う」の回答が一番多く、学生の評価は非常に肯定的であった。その中でも、Q2「授業の内容に興味・関心をもてた」、Q3「授業中に使う教材は適切であった」、Q5「教員は学生の質問や相談に適切に対応した」、Q6「教員は学生の反応や理解を見ながら授業を進めた」の4項目は、「4：そう思う」が80%を超えていた。したがって、多くの授業において、教員は適切な教材を用いて、興味を持てる内容の授業を展開し、学生の反応や質問に適切に対応していたことがうかがえる。これらは心理学研究科における長所と考えられる。

改善すべき点としては、以下のことが挙げられる。通年では非常に高い評価であったが、前期・後期別にみると、後期のQ8「私は履修科目を選ぶ際にシラバスをよく読んだ」の項目については、「3：どちらかと言えばそう思う」が50%を超えていた。したがって、後期においては、シラバスの活用がやや十分でない授業があった可能性が考えられる。また、Q10「自習室、研究設備等、学内の学習環境は十分に整備されている」においては、「2：どちらかと言えばそう思わない」と「1：そう思わない」の合計の割合が7.8%であり、他の項目と比べると高かった。学習環境に関して満足していない学生が、少数ではあるが存在する可能性がある。さらに、前期と後期を比べると、Q9を除いて、全体として後期の方がわずかではあるが評価が下がっていることから、後期の科目において何らかの問題が生じている可能性がある。

3) 改善の方策

授業評価アンケートの結果から、シラバスの活用度、学習環境の整備、後期科目にやや問題がある可能性が示唆された。シラバスの活用度に関して、授業によっては、シラバス通りにすると柔軟性に欠ける場合があるなどの意見が教員から出されたが、そのような場合でもシラバスを活用するように促す書き方の工夫が求められるといえよう。また、学習環境の整備に関しては、必要な文献資料が本学の図書館になく、他大学の図書館へ行ったり、複写依頼したりしなければならないということ、しばしば学生から耳にする。したがって、学生の要望を尋ね、必要な図書を揃える努力をしなければならない。さらに、後期科目に関しては、前期に比べて、実習や課題が重なり、学生にとってかなりの負担になっていると聞いている。今後は、学生の課題が一時期に重ならないよう、授業間での調整や連携を行っていく必要がある。

4) 今後の課題

授業評価アンケートの結果では、おおむね高い評価が得られたが、必ずしもそのことに満足してはならない。大学院の授業は少人数で教員との距離が近いため、授業評価アンケートに対する回答には評価懸念が生じやすく、学生が実際に感じているものより肯定的に評価する可能性があるからである。この授業評価アンケートだけでなく、学生に直接意見や要望を聞くなど、今後も継続して改善に取り組むことが重要である。

文責：上田 恵津子（心理学研究科長）
廣瀬 直哉（心理学研究科FD委員）

8. 全学的観点からみた今後の課題と展望

(1) 調査項目について

今年度の調査は、経年変化を見るため、昨年度と同様の項目で実施した。本学の授業評価アンケート調査は、2008（平成20）年度から毎年実施し、前年との経年比較を行ってきた。そのため、調査項目は大きく変わっていない。しかしながら、本年度行った教員を対象とした「授業改善アンケート」の実施報告（本報告書 第I-9章）にもあるように、経年比較に対しては、教員はさほど重視していない。また、いくつかの調査項目については、以前から問題点が指摘されていた。したがって、今後は、現状のニーズに合わせて調査項目を変えていくことを検討すべきである。

(2) 評価対象科目について

昨年度までの対象科目に加えて、今年度後期から一部のゼミナールおよび集中講義科目も調査の対象とした。授業の評価・改善は、すべての科目について必要であると考えられるため、原則的には全科目で実施すべきである。しかしながら、オムニバス形式の授業での評価の妥当性や、受講生の人数が少ないクラスについては評価懸念が生じやすいことなど、対象科目については以前からいくつかの問題が指摘されてきた。これらに関しては、今後も検討していくべき課題である。

(3) 授業評価の頻度・実施時期について

本学では2008（平成20）年度以降、毎年前期・後期の2回の授業評価アンケートを実施してきた。教員を対象とした「授業改善アンケート」（本報告書 第I-9章）の結果からも、多くの教員が授業評価アンケートは参考になると答えており、一定の成果が得られていると思われる。しかし、一方で、学生の評価に対する疲労や慣れのため、信頼性の高い評価データを得られていないのではないかと指摘もある。授業評価アンケートの実施には、教職員や学生に多大な負担や費用がかかる。したがって、それに見合った授業改善が見られているのかを精査していく必要があるだろう。場合によっては、教職員や学生の負担を軽減するために、今後は実施の頻度を減らすことも考えられる。

実施時期に関して、これまで授業評価アンケートは各期の授業期間の終盤に行なってきた。しかしながら、授業の終盤に評価を行うと、授業改善は次年度にしか行えないという問題が生じる。（本報告書には掲載されていないが、）今年度実施した学生満足度調査において、「授業評価アンケートの結果をすぐに授業改善に活かすことが重要」と約2/3の学生が答えている。したがって、中間段階に何らかの評価を行い、すぐに授業改善に活かすという実施方法も考えられる。このことに関しては、今後FD委員会で検討を行なっていきたい。

(4) 評価結果データについて

今年度から詳細な違いや変化を読み取るために、各項目の平均点を、これまでの小数第1位までの表示から、小数第2位までの表示に変更した。しかしながら、微小な違いに意味があるのか、逆に結果が見づらくなったなど、否定的な意見も聞かれたため、表示方法を再検討する必要がある。

また、現在のデータの集計結果は、各質問項目の回答の平均や分布のみを表示している。ところが、授業の理解度や満足度を高めるためには、どのような要因が影響しているかを知る必要がある。そのためには、各項目の相互の関係や他の要因（曜日・講師・履修者など）との関係も明らかにしていかなければならない。さらに、現在は自由記述に関する分析は全く行われていない。評価結果データを有効に活用するために、より進んだ分析を行うことが今後必要であると思われる。

(5) 評価結果のフィードバックと改善のための取り組みについて

今年度は、昨年度までと同様に、学部学科単位で評価結果のフィードバックと改善のための取り組みを行った。評価結果については各学部学科の集計結果を本報告書に掲載した。また、2013（平成 25）年 3 月 6 日に全学教員研修会を行い、その中で学部学科ごとの集計結果から、各学部の課題について話し合い、その成果を本報告書に掲載した。このように、学部学科単位で評価のフィードバックと改善の取り組みを行ってきたが、個々の授業の規模や方法は学部学科内でも様々であり、授業ごとに課題も異なると思われる。学部学科単位での取り組みは総論的な議論になりがちであり、必ずしも個々の授業改善につながっていない可能性もある。現状では、個々の授業の改善についてはそれぞれの教員に任されており、組織的な取り組みとしては行われていない。したがって、今後は、より詳細な単位（または各授業単位）での評価結果を組織的に検討し、改善に結びつけていく必要があると思われる。

文責：廣瀬 直哉（FD委員長）

2012 年度 学生による授業評価アンケート

京都ノートルダム女子大学

- ❖ このアンケート用紙は、下記の科目専用です。履修している科目名を確認してください。
- ❖ 「聴講生」および「大学コンソーシアムによる受講生」は回答しないでください。
- ❖ 下記の注意事項をよく読んで回答してください。

科目 CODE

科目名

I. あなたの学年の番号に○をつけてください。(※科目等履修生・交換留学生の方は学年は記入不要です。)

1. 1年次生 2. 2年次生 3. 3年次生 4. 4年次生

II. あなたの所属学部(学科)の番号に○をつけてください。

1. 人間文化(英語英文) 2. 人間文化(人間文化) 3. 生活福祉文化 4. 心理 5. 科目等履修生等

III. 標題の科目について、設問ごとに最もあてはまる回答番号を1つ選び、○をつけてください。

【教員(授業)について】	そう思う	どちらかと言えば そう思う	どちらかと言えば そう思わない	そう 思わない
① 授業のテーマは、はっきりしていた	4	3	2	1
② 授業の内容を理解できた	4	3	2	1
③ 授業の内容に興味・関心をもてた	4	3	2	1
④ この授業からよい刺激を受け、自分の考えが広がってきたようだ	4	3	2	1
⑤ この授業では、学習に集中することができた	4	3	2	1
⑥ 授業中に使う教材(テキスト・配布資料など)は適切であった	4	3	2	1
⑦ 成績評価の仕方が明確に示されていた	4	3	2	1
⑧ 教員の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	4	3	2	1
⑨ 教員のプレゼンテーション(授業における伝達方法)は適切であった	4	3	2	1
⑩ 教員は学生の質問や相談に適切に対応した	4	3	2	1
⑪ 教員の授業への取り組みに、熱意を感じた	4	3	2	1
⑫ 教員は学生の反応や理解を見ながら授業を進めた	4	3	2	1
【あなたについて】	そう思う	どちらかと言えば そう思う	どちらかと言えば そう思わない	そう 思わない
⑬ 私はこの授業に満足した	4	3	2	1
⑭ 私は履修科目を選ぶ際にシラバスをよく読んだ	4	3	2	1
⑮ 授業中は意欲的・積極的に取り組んだ	4	3	2	1
⑯ 教員から要求された自主学習(予習/復習、宿題や準備)をしましたか	4	3	2	1
⑰ この授業で、何回欠席しましたか 〔基準: 4(0回), 3(1回), 2(2~3回), 1(4回以上)〕	4	3	2	1

IV. この科目(授業)について「よかった点」を記入してください(自由記述)。

V. この科目(授業)について「改善すべき点」を記入してください(自由記述)。

(注意事項)

- ・ 複数の教員が指導する科目については、当学期にこれまで行われたすべての授業を振り返り、総合的に判断して記入してください。
- ・ このアンケートは、授業をよりよくし、本学の教育をさらに充実させるために行うものです。成績評価とは全く関係ありませんので、設問に対して率直に教えてください。また、回答を強制するものではありません。
- ・ このアンケート用紙は、回収後、第三者により入力されるため、直接担当教員が見ることはありません。

2012 年度 大学院生による授業評価アンケート

京都ノートルダム女子大学

- * このアンケート用紙は、下記の科目専用です。履修している科目名を確認してください。
- * 「聴講生」は回答しないでください。
- * 下記の注意事項をよく読んで回答してください。

科目 CODE

科目名

- I. あなたの学年の番号に○をつけてください。(※科目等履修生の方は学年記入不要です。)
1. 修士課程(M1) 2. 修士課程(M2) 3. 博士前期課程(M1) 4. 博士前期課程(M2)
5. 博士後期課程(D1) 6. 博士後期課程(D2) 7. 博士後期課程(D3)
- II. あなたの専攻の番号に○をつけてください。
- 【人間文化研究科】 1. 応用英語専攻 2. 生活福祉文化専攻 3. 人間文化専攻
【心理学研究科】 4. 発達・学校心理学専攻 5. 臨床心理学専攻 6. 心理学専攻
7. 科目等履修生

III. 標題の科目について、設問ごとに最もあてはまる回答番号を1つ選び、○をつけてください。

【授業について】	そう思う	どちらかと言えば そう思う	どちらかと言えば そう思わない	そう 思わない
① 授業の内容を理解できた	4	3	2	1
② 授業の内容に興味・関心をもてた	4	3	2	1
③ 授業中に使う教材(テキスト・配布資料など)は適切であった	4	3	2	1
④ 成績評価の仕方が明確に示されていた	4	3	2	1
【教員について】	そう思う	どちらかと言えば そう思う	どちらかと言えば そう思わない	そう 思わない
⑤ 教員は学生の質問や相談に適切に対応した	4	3	2	1
⑥ 教員は学生の反応や理解を見ながら授業を進めた	4	3	2	1
【あなたについて】	そう思う	どちらかと言えば そう思う	どちらかと言えば そう思わない	そう 思わない
⑦ 私はこの授業に満足した	4	3	2	1
⑧ 私は履修科目を選ぶ際にシラバスをよく読んだ	4	3	2	1
⑨ 授業中は意欲的・積極的に取り組んだ	4	3	2	1
【教育環境について】	そう思う	どちらかと言えば そう思う	どちらかと言えば そう思わない	そう 思わない
⑩ 自習室、研究設備等、学内の学習環境は十分に整備されている	4	3	2	1

IV. この科目(授業)について「よかった点」を記入してください(自由記述)。

V. この科目(授業)について「改善すべき点」を記入してください(自由記述)。

(注意事項)

- ・複数の教員が指導する科目については、当学期にこれまで行われたすべての授業を振り返り、総合的に判断して記入してください。
- ・このアンケートは、授業をよりよくし、本学の教育をさらに充実させるために行うものです。成績評価とは全く関係ありませんので、設問に対して率直に答えてください。また、回答を強制するものではありません。
- ・このアンケート用紙は、回収後、第三者により入力されるため、直接、担当教員が見ることはありません。

9. 2012（平成24）年度「授業改善アンケート」実施報告

（1）実施目的

この授業改善アンケートは、京都ノートルダム女子大学授業評価アンケートの改善及び今後のFD活動の充実を目的に全教員を対象に実施した。

（2）調査内容

■実施時期：2012（平成24）年7月4日（水）～19日（木）

■対象：本学の専任教員、非常勤教員

■用紙配布：配付数 180枚 各教員のメールボックスへ配布

■回収方法：回収箱を設置

設置場所：専任教員……企画調整課

非常勤職員…教務学事課

■回答数：回収数 77枚、回収率 43.0%

（専任教員……配布数 70枚、回収数 42枚、回収率 60.0%）

（非常勤教員…配布数 110枚、回収数 35枚、回収率 31.8%）

■質問数：8項目（選択式記述5項目 自由記述3項目）

（3）集計結果

質問1 所属について

	項目	回答数	構成員数	回収率
(1)	英語英文学科	8	11	72.7%
(2)	人間文化学科	9	12	75.0%
(3)	生活福祉文化学部	13	17	76.5%
(4)	心理学部	11	22	50.0%
(5)	各センター	1	7	14.3%
(6)	非常勤教員	35	110	31.8%
	合計	77	179	43.0%

質問2 学生の授業評価アンケートの個別分析表は授業の参考になりますか

順位	項目	回答数	割合
1位	少しは参考になる	52	67.5%
2位	大変参考になる	11	14.3%
3位	あまり参考にならない	10	13.0%
4位	全然参考にならない	2	2.6%
	無回答	2	2.6%
	合計	77	100.0%

質問3 個別分析表の項目で授業改善の参考となったのはどの数値ですか

順位	項目	回答数	割合
1位	自分の授業の平均	30	39.0%
2位	全体平均との比較	28	36.4%
3位	評価レーダーチャート（教員用）	23	29.9%
4位	回答郡別回答分布表	18	23.4%
5位	評価レーダーチャート（学生用）	16	20.8%
6位	評価帯グラフ	14	18.2%
7位	経年比較	10	13.0%
	無回答	10	13.0%

※複数回答方式

質問 4-1 学生用アンケートの質問項目のうち、特に重視している項目は何ですか

順位	項目	回答数	割合
1位	授業の内容を理解できた	53	68.8%
2位	授業の内容に興味・関心をもてた	45	58.4%
3位	この授業からよい刺激を受け、自分の考えが広がってきたようだ	36	46.8%
4位	教員の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	25	32.5%
5位	教員のプレゼンテーション（授業における伝達方法）は適切であった	18	23.4%
6位	教員は学生の反応や理解を見ながら授業を進めた	16	20.8%
7位	教員の授業への取り組みに、熱意を感じた	15	19.5%
8位	授業のテーマは、はっきりしていた	14	18.2%
8位	教員は学生の質問や相談に適切に対応した	14	18.2%
10位	私はこの授業に満足した	13	16.9%
11位	授業中に使う教材（テキスト・配布資料など）は適切であった	12	15.6%
12位	成績評価の仕方が明確に示されていた	6	7.8%
12位	この授業では、学習に集中することができた	6	7.8%
12位	授業中は意欲的・積極的に取り組んだ	6	7.8%
15位	教員から要求された自主学習（予習/復習、宿題や準備）をしましたか	4	5.2%
16位	この授業で、何回欠席しましたか	1	1.3%
17位	私は履修科目を選ぶ際にシラバスをよく読んだ	0	0.0%
	無回答	3	3.9%

※複数回答方式

質問 4-2 学生用アンケートの質問項目のうち、特に重視していない項目は何ですか

順位	項目	回答数	割合
1位	私は履修科目を選ぶ際にシラバスをよく読んだ	34	44.2%
2位	この授業で、何回欠席しましたか	24	31.2%
3位	授業中に使う教材（テキスト・配布資料など）は適切であった	18	23.4%
4位	この授業では、学習に集中することができた	17	22.1%
4位	成績評価の仕方が明確に示されていた	17	22.1%
6位	授業のテーマは、はっきりしていた	12	15.6%
6位	教員から要求された自主学習（予習/復習、宿題や準備）をしましたか	12	15.6%
8位	教員のプレゼンテーション（授業における伝達方法）は適切であった	8	10.4%
8位	教員の授業への取り組みに、熱意を感じた	8	10.4%
10位	私はこの授業に満足した	7	9.1%
10位	授業中は意欲的・積極的に取り組んだ	7	9.1%
12位	この授業からよい刺激を受け、自分の考えが広がってきたようだ	5	6.5%
12位	教員は学生の質問や相談に適切に対応した	5	6.5%
12位	教員は学生の反応や理解を見ながら授業を進めた	5	6.5%
15位	授業の内容に興味・関心をもてた	3	4.0%
16位	教員の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	2	2.6%
17位	授業の内容を理解できた	2	2.6%
	無回答	19	24.7%

※複数回答方式

質問 5 授業評価アンケート調査個別表をご覧になった感想、ご意見があればお書き下さい。

質問 6 授業評価アンケート実施について良かったと思う点をお書きください。

質問 7 授業評価アンケート実施について改善すべき点をお書きください。

質問 8 集計結果の開示について

順位	項目	回答数	割合
1位	今まで通りの各学部学科別集計結果を冊子、WEBにて開示	43	55.9%
2位	個人集計結果も含めてWEBにて公開（学内LANのみ閲覧可）	9	11.7%
3位	個人集計結果もWEBにて公開（学外からも閲覧可）	5	6.5%
3位	その他	5	6.5%
5位	個人集計結果も含めて冊子にして開示	2	2.6%
	無回答	13	16.9%
	合 計	77	100.0%

※質問 5, 6, 7 については、自由記述のため集計結果の報告を省略しました。

(4) 分析と課題・今後の展望

本アンケート調査は、今後の授業評価アンケートの改善と充実について検討するため、本学の専任教員および非常勤教員に対して実施した。回収率は43.0%であり、必ずしも高くはなかったが、今後の授業評価アンケートを考える上で有益な意見が得られたと思われる。特に、質問2の授業評価アンケートは参考になるかの質問に対して、「大変参考になる」と「少しは参考になる」を合わせると80%以上になり、多くの教員が授業評価アンケートの有用性を認識していることが確かめられた。

質問3の参考になった項目に対する質問からは、「自分の授業の平均」や「全体平均との比較」の割合が高く、「評価帯グラフ」や「経年比較」の割合は低いことがわかった。本学の授業評価アンケート調査ではこれまで経年比較を行なってきたが、経年変化を調べるには、前年度のデータとの対応を取らなければならず、多くの手間がかかる。その割に授業改善の参考となると答えた教員は必ずしも多くなかったことから、今後は経年比較を見直すことも考えられる。

質問4-1では重視している項目、質問4-2では重視していない項目を尋ねたが、「授業内容が理解できた」「授業の内容に興味・関心を持てた」「この授業からよい刺激を受け、自分の考えが広がってきたようだ」など、授業の内容の理解、興味、知的刺激に関する項目が重視されていること、および「私は履修科目を選ぶのにシラバスをよく読んだ」「この授業で、何回欠席しましたか」など、シラバスや出欠に関する項目が重視されていないことがわかった。シラバスや出欠に関しては、これまでも質問項目の妥当性に疑問が投げかけられており、次年度以降、質問項目の内容を検討することが必要だと思われる。

質問8の集計結果の開示については、「今まで通りの各学部学科を冊子、WEBにて開示」を支持する教員が半数以上であり、個人の集計結果を開示すべきだとする教員は約2割に過ぎなかった。しかしながら、学生側からは、授業評価アンケートに関して、結果のフィードバックがない（よくわからない）という意見をよく聞く。したがって、現状のままで必ずしもよいというわけではなく、授業を受ける学生の側にも、授業改善の成果がわかるようなフィードバックの方法を、今後FD委員会を中心に検討していく必要があると思われる。

また、本報告書では詳細にわたるため集計結果を掲載していないが、質問6~7は自由記述で、感想・意見、良かった点、改善点を尋ねた。その中には、質問項目の問題点、独自項目の設定の必要性、調査方法の問題点、少数クラスでの調査の問題点、学生の修学行動の調査の必要性、アンケートが教育開発につながっていないなど、いくつかの有益な意見が得られた。これらの意見も考慮して、今後の授業評価アンケートの改善につなげていきたい。

文責：廣瀬 直哉（FD委員長）

II 2012（平成24）年度「FD研修会」実施報告

1. 実施概要

■日時： 2012（平成24）年6月28日（木） 16：50～18：30

■場所： 京都ノートルダム女子大学 ユニソン会館 大会議室

■内容：

◇第1部（40分間 30分講義 10分質疑応答）

発表者：生活福祉文化学部 生活福祉文化学科 山本 智也 教授

タイトル：「学生への成績評価のフィードバックの一例」（資料：P.79～81）

概要：発表者が担当している「教育学」において実施している形成テストとそのフィードバックを中心に、成績評価のあり方とフィードバックの具体的な方法などについて紹介する。

◇第2部（50分間 シンポジウム形式 各発表7分 個別討論5分）

発表者：人間文化学部人間文化学科 服部 昭郎 教授

心理学部 神月 紀輔 准教授

人間文化学部英語英文学科 小山 哲春 准教授

生活福祉文化学部 畠山 寛 准教授

タイトル：「平成23年度オープンクラス実施教員による発表」

概要：授業内容や授業方法の質の向上を図ることを目的に、今後のオープンクラスの実施内容を検討する。

平成24年度は今まで開催していた他大学の教員を招聘して開催する「FD講演会」とは異なり、本学における授業方法の課題を検討し、改善するため、本学教員による全学的な「FD研修会」を実施した。

第1部は、山本智也教授（生活福祉文化学部）による講演で、「学生への成績評価のフィードバックの一例」と題し、山本教授が担当している「教育学」の授業で実施されている形成テスト、成績評価とフィードバックの具体的な方法について紹介された。

第2部は、服部昭郎教授（人間文化学科）、神月紀輔准教授（心理学部）、小山哲春准教授（英語英文学科）、畠山寛准教授（生活福祉文化学部）の4名による「平成23年度オープンクラス（後期）実施教員による発表」が行われ、2011（平成23）年度に実施したオープンクラスの長所や短所、実施後の授業改善点などについて報告が行われた。その後、オープンクラスを参観した教員からの報告があり、最後に参加者全員によるディスカッションが行われた。

■出席者数：

出席者	人間文化学部		生活福祉文化学部	心理学部	各センター	現員数	教員参加率	職員（その他）
	英語英文	人間文化						
49	6	9	14	16	4	69	71.7%	11

2. 今後の課題と展望

本学では、これまで3年間にわたって他大学の教員によるFD講演会を実施してきた。しかし、参加者からは「実際の授業のデモンストレーションをして欲しい」、「画期的な工夫をしている教員から具体的な内容を聞きたい」といった講演内容を改善する意見が出されていた。そこで、2012（平成24）年度は本学教員による講演と発表を行い、参加者全員が授業内容や方法の改善の取り組みを考える研修会を実施した。研修会の参加率は71.7%（専任教員69名中49名）と昨年度よりも少し下回っているが、参加者の7割以上が「研修会は有意義であった」とアンケートに回答している。

参加者アンケートによると、第1部の研修内容に関しては、「具体的な発表で非常に参考になった」、「学生にとっては力がつくと感じた」、「形成テストは検討したい」、「評価をフィードバックする大切さを感じた」などの感想が出された。また、第2部の

研修内容に関しては、「授業をする立場、聴く立場からの意見は参考になった」、「具体的なツールや教材の紹介がありよかった」、「全体で何を話すのか決めておくと焦点が絞られてよかった」、「発表時間が短く、オープンクラスの概要の説明は必要である」などの意見が出された。

今後のFD講演会や研修会の内容としては、「他大学におけるFD活動の事例報告」や「複数のパネリストによる意見交換」が必要であるといった意見が出された。さらに、今後必要だと思われるFD活動については、「FD研修会（学習論、授業法、講義法、討論法、学業評価法、教育機器利用法、などのセミナー）」や「学内教員中心のFD研修会」が必要であるといった意見が出された。来年度も引き続き全学的なFD研修会を開催し、新たに分科会を複数開催し、教員の教育力向上につながる取り組みを行う必要がある。

文責：矢島 雅子（生活福祉文化学部 FD委員）

学生への成績評価の フィードバックの一例

平成24(2012)年6月28日
FD研修会

生活福祉文化学部
山本智也

成績評価方法：配分割合

- レポート(40%)
 - ◆ 各回3点×12回=36点
これを40点換算する。
 - 未提出もしくは内容不適、書式不備のレポートが4回以上となった場合は本講義は不合格とする。
- 形成テスト(60%)
- この2つの成績をもとに行う。

レポートの活用及び評価方法

- レポートテーマ(12回分)は、第1回授業で指示。
 - ◆ 基本的には予習レポート
(授業のプリント類は、各自が事前に当職作成のWebページからダウンロード、印刷して持参させている。)
 - ◆ 各回冒頭に、2名をくじで指名し、レポートの発表
さらにもう1名指名し、2名の発表内容を要約させる。
 - ◆ 授業終了後に、レポート裏面に今日のコメントを記載させ、提出させる。
 - ◆ 3点満点での採点結果、必要な場合はコメントを付して、次週授業の開始時に受講生に返却している。

Tomoya's Laboratory 科目のWebページ

回	日	ファイル	テーマ	事前レポートテーマ
1	9/22	[ダウンロード]	オリエンテーション 教育学の学びはじめにあたって	
2	9/29	[ダウンロード]	子どもの問題行動と教育	子どもの問題行動について
3	10/6	[ダウンロード]	学力とは何かを考える	全国学力・学習状況調査の意義と問題点
4	10/13	[ダウンロード]	格差社会と教育	教育の機会均等と格差
5	10/20	[ダウンロード]	学校の成立とその価値	学校の存在意義を考える
6	10/27	[ダウンロード]	近代以前の日本の教育	日本における学校教育制度の歴史

第1回授業配付プリント中のレポート指示事項

6 講義、レポート課題、試験日程(予定)

① 9月22日 オリエンテーション 教育学の学びをはじめにあたって
※ スタートにあたっての課題
① 臨床教育学入門を速読 ② 学生のための教育学を速読

第1回レポート 次回講義(9月29日)まで
テーマ 「子どもの問題行動について」
内容 子どもの問題行動の状況を一つ取り上げ、その現状を述べた上で、教育は何か出来るのかを考える

② 9月29日 子どもの問題行動と教育

第2回レポート 次回講義(10月6日)まで
テーマ 「全国学力・学習状況調査の意義と問題点」
内容 全国学力・学習状況調査の概要を述べた上で、その意義と問題点について考える。

③ 10月6日 学力とは何かを考える

第3回レポート 次回講義(10月13日)まで
テーマ 「教育の機会均等と格差」
内容 格差 教育の機会均等

④ 10月13日 学校が当面する問題 1 格差社会と教育

第4回レポート 次回講義(10月20日)まで
テーマ 「学校の存在意義を考える」

第1回授業配付プリント中の レポートの記載事項の指示

8 レポートの記載要領

- (1) 原則として、ワードプロセッサを使用すること
- (2) 用紙 A4用紙を縦に使用する。左余白に2箇所バナー穴を空け、左余白中央で綴じを2か所とせよ。
- (3) 書式 横書き、1行40字×30行、上下左右余白は、それぞれ25ミリとする。
- (4) 分量 2枚以上、上部有頭
- (5) 提出方法など 授業中は各自手元に置く(保存した書には発表してはならない)。
授業終了後、裏面に今日の授業の感想を書いた上で担当者へ提出する。
次週各自に返却するので、各自でフロッピーファイル等に保存しておく。

(8) 1ページ目の書式

1行目		提出日 (右寄せ)
2行目	〜〜〜について	
3行目	レポートのテーマを中央に)	
4行目	敬行のみ(何も書かない)	学籍番号〇5×××××
5行目		(名前は一文字おきにスペースを入れる。さらに右に3文字分留す)
6行目	敬行のみ(何も書かない)	
7行目	本文	

-1-
(下10ミリのところに)

形成テストについて

- 14回目授業で実施している。
(持ち込みなし)
- 採点した上で、15回目授業で答案を返却する。
 - 採点した答案
 - 個人別成績計算書
 - 全体の試験結果についての資料

7

15回目授業におけるフィードバック

- 形成テストについての開示項目
 - ◆ 100点満点の素点
 - ◆ 形成テスト受験者の最高点、最低点、平均点、
10点刻みの分布
 - ◆ 各設問における各自の素点
 - ◆ 各設問における受験者の最高点、最低点、平均点
- レポート(12回分)についての開示項目
 - ◆ 各自の得点、受験者の最高点、最低点、平均点

8

15回目授業におけるフィードバック

- 総合成績についての開示項目
 - ◆ 100点満点の素点
 - ◆ 形成テスト受験者の最高点、最低点、平均点、
10点刻みの分布

9

得点計算表の一例

平成23年度後期 教育学
得点計算表

学籍番号 000001 氏名 AAA BBB

レポート 12点/36点 試験 62点/100点

1月29日	2点/3点	第1問A	14点/16点
11月11日	8点/16点	第1問B	14点/16点
11月19日	2点/3点	第2問	2点/3点

中略

①レポート換算点 20点/40点 ②試験換算点 38点/60点

素点 58点 (①+②)

総合点 70点 (①+②+12点、上限100点)

10

全体結果開示例

平成24年1月1日 教育学

教育学A 試験結果の概要

- 実施日 平成24年1月19日
- 受験者 48人 (登録者84人)
- 得点結果
 - 得点の分布、平均点、最高点、最低点

90点～	0人	
80～89点	0人	
70～79点	5人	最高点79点 (昨年85点)
60～69点	9人	
50～59点	6人	
40～49点	7人	平均点49.0点 (昨年30.5点)
30～39点	6人	
20～29点	5人	
10～19点	3人	
0～9点	2人	最低点4点 (昨年0点)

11

授業内での評価フィードバックのメリット

- ◆ 受講者の納得
- ◆ 「何が出来て、何が出来なかったか」の理解
- ◆ 再履修する場合、対策が立てやすくなる。
- ◆ 採点作業が早く終了する。

12

Ⅲ 2012（平成24）年度「オープンクラス」実施報告

1. 実施概要

2011（平成23）年度より実施しているオープンクラス（公開授業）は、本学の教員が授業を参観することにより他の教員の優れた授業を参考とし、あるいは自らの授業への評価を仰ぎ、授業の質的向上を図ることを目的としている。

2011（平成23）年度には5科目・8回であった実施科目・回数は、2012（平成24）年度には14科目・15回となり、参観者延べ人数も2011（平成23）年度の57名から2012（平成24）年度には106名に増加した。

2012（平成24）年度は、新しい試みとして6つのオープンクラスにおいて、担当教員と参観者が授業の方法や内容について議論を行うディスカッションを実施した。

表Ⅲ-1 2012（平成24）年度 「オープンクラス」実施状況

実施日	講時	科目名	担当教員	教職員 参観者数	期別 合計
5月24日（木）	2講時	ホスピタリティ・スキルB	岩田真理子准教授（英語英文学科）	15名	前期 45名
6月8日（金）	2講時	健康科学概論	萩原暢子教授（生活福祉文化学部）	8名	
6月20日（水）	2講時	言語文化概論	朱鳳准教授（人間文化学科）	5名	
7月3日（火）	2講時	心理学英文講読	藪内稔学長	9名	
7月5日（木）	1講時	特別活動の指導法A	工藤哲夫准教授（心理学部）	8名	
11月7日（水）	2講時	キャリア形成B	喜多泰子講師（キャリアセンター）	5名	後期 61名
11月20日（火）	2講時	教育方法学	神月紀輔准教授（心理学部）	9名	
11月21日（水）	2講時	日本年中行事論	堀勝博教授（人間文化学科）	7名	
11月22日（木）	2講時	心理学概論（心と社会）	廣瀬直哉准教授（心理学部）	8名	
11月22日（木）	3講時	教育学A	山本智也教授（生活福祉文化学部）	4名	
11月24日（土）	3講時	日本語の朗読	浜尾朱美先生（客員教授）	4名	
11月26日（月） *	2講時 3講時	日本語コミュニケーションⅡ	松岡正美先生（客員教授）	7名	
12月4日（火）	2講時	小説の研究	小林順教授（英語英文学科）	7名	
2013 （平成25）年 1月18日（金）	3講時	生活福祉文化基礎演習Ⅱ	山本智也教授、中村久美教授 竹原広実教授、加藤佐千子教授 三好明夫准教授、酒井久美子准教授 矢島雅子講師（すべて生活福祉文化学部）	10名	
				年間合計（延べ人数）	

*11月26日（月）日本語コミュニケーションⅡについては、同内容の授業2回でオープンクラスを実施した。

2. 今後の展望と課題

2012（平成24）年度におけるオープンクラスは、実施科目／回数の増加に伴い、参加者数も大幅に増加した。全学的にオープンクラスについての教員の関心が高まっているといえる。また、オープンクラス実施後に授業担当者と参観者として授業に関する質問等の議論を行い、教員相互が学び合う機会となった。

授業担当者のアンケートによると、「参観者から多くのコメントをいただき、今後の励みになった」、「ご意見をいただき、今後の授業に活かしたい」、「教員側からは気づかない点がある。講義を見ていただくことは大変勉強になる」などの感想が出された。また、参観者のアンケートによると、「様々な工夫が分かり大変勉強になった」、「パワーポイントと資料はポイントを絞って作成され、分かりやすい」、「身近な例を交えての説明は分かりやすい」、「明瞭に話され聞き取りやすい」などの感想が出された。授業担当者と参観者が授業内容や方法の工夫している点や改善すべき点について意見交換を行うことは授業の質を高めるためにも継続していく必要がある。

オープンクラスの課題としては、「オープンクラスの日時が、担当授業と重なり参観することが難しい」、「オープンクラスが教員の意識改革のきっかけとなるよう、目的と方針を検討する必要がある」、「公開する授業を限定せず、すべての授業を対象としてはどうか」などの意見も出された。来年度はオープンクラスの実施授業数を増加し、より多くの教員が参加できるように検討していく。

文責：矢島 雅子（生活福祉文化学部 FD委員）

IV 2012（平成24）年度「全学教員研修会」実施報告

1. 実施概要

■日時： 2013（平成25）年3月6日（水） 10：00～12：00

■場所： 京都ノートルダム女子大学

〈第Ⅰ部〉 社会学習センター2

〈第Ⅱ部〉 英語英文学科＋国際教育センター・・・テレジア館3階 英文科会議室
人間文化学科＋カトリック教育センター・ソフィア館5階 教員ラウンジ
生活福祉文化学部・・・・・・・・・・ユニソン会館 社会学習センター2
心理学部・・・・・・・・・・ ユージニア館 第2会議室

■内容：

〈第Ⅰ部〉

「学生の主体的な学びを引き出すために
～主体性を引き出す授業デザイン・教育方法とは～」

2012（平成24）年8月26日に中央教育審議会より提出された「新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて～生涯学び続け、主体的に考える力を育成する大学へ～（答申）」をもとに4～5人の計13グループでディスカッションを行った。
各グループでテーマを決定し話し合った後、グループが簡単な発表を行った。

〈第Ⅱ部〉

学部・学科ごとに分かれ、「授業評価アンケート」の結果をもとに1) 学部・学科の科目を全体的にみた現状、2) 長所と改善点、3) 改善の方策、4) 今後の課題についてディスカッションを行った。

2. 実施報告

〈第Ⅰ部〉

【取り上げられたテーマ】

「学生の主体的な学びを引き出す工夫」「学修時間の確保」「課題解決型の能動的学修（アクティブ・ラーニング）」「初年次からの体験型授業」「情報教育」など

【発表内容】

1) テーマ「学修時間の確保」

学生は学修時間確保の必要性を理解していないのではないかという議論から始まり、学生が自ら学修時間を確保するためのモチベーションを上げる方策について話し合われた。

2) テーマ「学生の主体的な学びを引き出す工夫」

主体的な学びを引き出すために、自主的学習をどう実践するかが話し合われ、①入学時の意識付、②学生自身に学習成果が見えるよう工夫する、③自主性を高めるために個別対応をおこなう、等の意見が出された。

〈第Ⅱ部〉

ディスカッションの内容は本報告書（第Ⅰ-4章～第Ⅰ-7章）に記載

■出席者数：

出席者	人間文化学部		生活福祉文化学部	心理学部	各センター	現員数	参加率
	英語英文	人間文化					
64	11	10	16	20	7	68	94.1%